

資料編

聞き取り調査（一般用） 本文

加子母歌舞伎に関する聞き取り調査

名古屋工業大学 藤岡研究室

日時： 場所：

お名前：

(生年月日： 生まれた場所：)

この調査では、昭和 48 年に復活した加子母歌舞伎が現在まで続いてきた理由や、歌舞伎に関わる方々の思いを探るため、様々な質問をさせていただきます。ご協力よろしくお願いします。

- 1 どのような形で加子母歌舞伎と関わっているのか（役者、保存会など）
- 2 いつから歌舞伎と関わっているのか
- 3 歌舞伎と関わるようになったきっかけ
- 4 何故歌舞伎を続けてこられたのか（やりがい）
- 5 歌舞伎の魅力とは
- 6 どの役をやった時が一番手応えがあったか
- 7 歌舞伎と生活の関わり
- 8 明治座で演じることについて（公民館などではなく）

聞き取り調査（振付師用） 本文

取扱い注意

加子母歌舞伎に関する聞き取り調査

名古屋工業大学 藤岡研究室 大学院2年 藏野洋美

日時： 場所：

お名前：

(生年月日： 生まれた場所：)

この調査では、昭和48年に復活した加子母歌舞伎が現在まで続いてきた理由や、歌舞伎に関わる方々の思いを探るため、様々な質問をさせていただきます。ご協力よろしくお願いします。

- 1 【団女先生】歌舞伎の振付けだけではなく、演じることもあるのか
- 2 【団女先生】いつから歌舞伎と関わっておられるか(加子母歌舞伎だけではなく)
- 3 【団女先生】歌舞伎と関わるようになったきっかけ
- 4 【団女先生】何故歌舞伎を続けてこられたのか(やりがい)
- 5 【団女先生】歌舞伎の魅力とは
- 6 【団女先生】振付けをしていて、どういう時に手応えを感じられるか
- 7 【団女先生】歌舞伎と生活の関わり(両立の仕方や、仕事外での歌舞伎との関わり)
- 8 【団女先生】明治座で演じることについて(公民館などではなく)、舞台による違い

- 9 【振付】現在指導されている保存会はいくつあるのか(何年から指導しているのか)
- 10 【振付】台本の選び方、役の選び方はどのようにしているのか
- 11 【振付】他の岐阜県内の振付師(一門?)との関わり、衣裳の融通や交流はあるのか
- 12 【振付】子供歌舞伎ならではの苦労
- 13 【振付】どういう時に踊りの外題を演目に入れるのか、踊りから歌舞伎に人を回すのか
- 14 【振付】指導法はどのようにして確立されたのか(先代との違いがもしあれば詳しく)
- 15 【台本】一子相伝のものなのか(暖簾分けをする場合はあるのか)
- 16 【台本】何故、団升一門に現在多くの台本があるのか(来歴について、差し支えない範囲で)
- 17 【台本】大歌舞伎のものそのままか、もしくは地芝居用にアレンジされているのか
- 18 【台本】役を増やしたり減らしたりする(台本を変える)場合はどのようにするのか
- 19 【団升一門】組織概要(役職別の人数:着付け・顔師・台本・衣裳など)

20 【団升一門】一回の歌舞伎を行うための運営システム（振付師の仕事、加子母の場合）
台本決めなど : ____月ごろ

練習 : ____月ごろ

準備（衣裳など） : ____月ごろ

本番 : ____月ごろ

21 【団升一門】若手の育て方、どうやって技術を伝承されているのか（顔師や着付けなど）

22 【団升一門】顔師の塗り方に流派はあるのか（大歌舞伎の〇〇流など）

23 【団升一門】三味線の人（下呂の方？）との関係

24 【松本衣裳】所蔵する衣裳・かつらはどのように調達されるのか

25 【松本衣裳】他の衣裳屋との関係

26 【松扇会】いつ発足されたのか（藤間流？から独立されたのはいつか）

27 【歌舞伎】子供歌舞伎というジャンルはいつごろからあるのか（加子母では昭和53年～）

下表：岐阜県地歌舞伎保存振興協議会の加盟団体（最新版かどうかは不明）
質問9に関連して、現在把握している保存会と振付師の対応表です。
間違っている場合はご指摘いただけると幸いです。

No.	名称	場所	舞台	公演日時	振付師
1	恵那歌舞伎保存会	恵那市	恵那文化センター	2月最終日曜日	中村高女
2	東濃歌舞伎中津川保存会	中津川市	東美濃ふれあいセンター	3月第1日曜日	中村高女、4代目中村津多七
3	常盤座歌舞伎保存会	中津川市	常盤座	3月最終日曜日	
4	飯地五毛座歌舞伎保存会	恵那市	五毛座	4月隔年（偶数年）	松本団女
5	垂井曳山保存会	垂井町	垂井宿周辺	5月2日～4日	
6	乙原歌舞伎保存会	揖斐郡揖斐川町	公正公民館	5月3日（3年に1度）	
7	鳳凰座歌舞伎保存会	下呂市	鳳凰座	5月3・4日	市川福升
8	揖斐川町子供歌舞伎保存会	揖斐川町	三輪神社	5月4・5日	
9	東座芸能保存会	加茂郡白川町	東座	5月第3日曜日	中村高女・中村津多七
10	明智町歌舞伎保存会	恵那市	明智かえでホール	5月第3日曜日	
11	美濃歌舞伎保存会	瑞浪市	相生座	8月最終土曜日、10月第1金曜日	松本団女
12	加子母歌舞伎保存会	中津川市	明治座	9月第1日曜日	
13	東白川村歌舞伎保存会	東白川村	はなのき会館	9月敬老の日の前の日曜日	松本団女
14	高雄歌舞伎保存会	郡上市	口明方小学校	10月第1土曜日	保存会員
15	村国座子供歌舞伎保存会	各務原市	村国座	10月第2土・日曜日	市川福升
16	蛭川歌舞伎保存会	中津川市	蛭子座	10月第3日曜日	中村高女
17	東野歌舞伎保存会	恵那市	東野小学校体育館	10月第4日曜日	中村高女
18	飛騨市河合町歌舞伎保存会	飛騨市河合町	河合町公民館	10月下旬～11月上旬	
19	白雲座歌舞伎保存会	下呂市	白雲座	11月2・3日	市川福升
20	高雄歌舞伎保存会	郡上市	郡上総合文化センター	11月上旬	
21	坂下歌舞伎保存会	中津川市	坂下公民館	11月第2日曜日	松本団女
22	串原歌舞伎保存会	恵那市	サンホールくしはら	11月第3日曜日	
23	上矢作歌舞伎保存会	恵那市	上矢作公民館	11月最終日曜日	
24	佐見歌舞伎保存会	加茂郡白川町	佐見中学校体育館	11月下旬（隔年）	市川福升
25	山岡歌舞伎保存会	恵那市	山岡公民館	12月第1日曜日	
26	三郷歌舞伎保存会	恵那市	宮盛座	不定期	
27	安岐歌舞伎保存会	中津川市	中津川市	不定期	
28	付知歌舞伎同好会	中津川市	中津川市	不定期	

よろしくお願いたします。

聞き取り調査 結果

第1回加子母歌舞伎公演 写真
(梅田周作さん所蔵)











第 40 回加子母歌舞伎公演 パンフレット

1

寿式三番曳

江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞

- 一巻 今井兼光
- 二巻 若江藤吉
- 三巻 今井兼光
- 四巻 伊藤若江
- 五巻 伊藤若江

三番曳



「三番曳」は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。この舞は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。

2

鬼法眼三略巻

一条大藏卿

- 一条大藏卿 月形龍雄
- 源頼朝 若木大
- 源頼朝 若木大
- 源頼朝 若木大
- 源頼朝 若木大

大蔵卿

「大蔵卿」は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。この舞は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。

3

白波五人男

稲瀬川勢揃いの幕

- 日本橋名門 桂川 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江
- 伊藤若江 伊藤若江

五人男



「白波五人男」は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。この舞は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。

4

だんまり

お染久松浮名流売

- 岡村川 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛
- 藤原徳兵衛 藤原徳兵衛

だんまり

「だんまり」は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。この舞は、江戸時代末期に流行した歌舞伎の舞。この舞は、三拍子のリズムで踊られる。踊り手は、三拍子のリズムに合わせて、三拍子のリズムで踊る。

加子母歌舞伎公演 スタッフリスト
(第1回～第43回パンフレットより)

加子母歌舞伎公演 配役リスト
(第1回～第43回パンフレットより)

村内広報誌『広報加子母』 歌舞伎関連記事
(1973年～2004年)

No.53 (1973年10月25日発行)

文化の村へ息吹

よみがえった明治座と郷土芸能



敬老会で演じられた歌舞伎
(一之谷敏重記)

「どうじゃ、こないだの面白かったことは……」
「ようあんな、上手に出来るやないか、本職の芝居師でもあれまでやナモ……」

「泣いたり、手をたたいたり面白うて、むこうで……」
「次の日も、また見に行つたぜモ……」

「ああいうのを、どんどんやつてもらえるとええナモ……」
「舞台が直つて嬉しいナモ、とにかく、体を大事にして、やっとなまよいかエモ……」

「先月二十六・二十七日、明治座で村の歌舞伎愛好会の人たちによつて、久しぶりに演じられた村芝居を見たおとしよりの、逢う入」との会話です。……と、一村人から寄せられた手紙の一部です。
本村の地芝居には、伝統があり芝居を好む村民性があるが、目まぐるしい現代、今後再び上演されることは困難。と村誌には記してある。その予想を覆し愛好会が発足し、上演された芝居は、村内のみならず他町村からも足を速ばせ、両日とも超満員にふくらんだ昔を思い出させ、伝統の重みや素晴らしいを味わわせ、感動を与え、確かに演じる者、見る者に一体感が生れていた。

八十年の栄枯盛衰に耐えた明治座は、村中の愛座意識により、改めて娯楽の殿堂として復活し、今再び歴史を作ろうとしている。すでに近々、浪曲、若者のフォークの集い、十一日には平野県知事も出席して東濃歌舞伎大会がこの明治座で予定されている。

一流新聞、放送局が、直接取材に来村して、共に、よみがえった伝統と大きく報じたが、一時のブームでなくいつまでも、盛り上つた文化の村でありたいものである。婦人会の役員の方が、「生活の豊かさより、こうした心の豊かさをほしい」と言われました。

No.53 (1973年10月25日発行)



ンフレットで知らされます。
〔教育委員会〕

今度は東濃歌舞伎 大会が催されます

先月二十六日、二十七日の両日
県重要文化財の指定を受け、屋根
の改修なった明治座で、久しぶり
に村の歌舞伎愛好会の人たちによ
って上演された村芝居は、大盛況
で観客を魅了しました。

今度は、同じ明治座で、十年の
伝統を誇る東濃歌舞伎保存会によ
って、保存会発足十周年記念など
いくつかの記念を併せた、東濃歌
舞伎大会が行なわれます。

この大会は、恵那市、中津川市、
坂下町、山岡町、上矢作町などの
歌舞伎保存会と加子母歌舞伎愛好
会が、それぞれ得意の出し物を演
じ、覇をきさそうもので、最優秀の
出し物には、知事から贈られた優
勝旗が与えられます。その他、演
技賞など個人賞も出ます。

期日は十一月十七日十八日の両
日で、当大会には平野知事も出席
されます。詳しいことは、後日バ

No.61 (1974年9月10日発行)

村の歌舞伎を テレビで紹介

NHK「新日本紀行」で

昨年、明治座の復興とともに復
活上演し好評を博した加子母の素
人歌舞伎は、今年も九月十五日、
十六日と村の敬老会を主日程とし
て上演するよう、保存会の方たち
の熱心な練習が始まっています。

昔からの、伝統芸能でありなが
ら、だんだんその姿をひそめて行
く農村歌舞伎は、加子母は皆んな
の熱意によって甦りましたが、こ
うしたことが各方面から注目され
て、昨年はNHK岐阜放送局の番
組に乗ったことはご存知のとおり
だと思えます。

そして今年も、同じNHKテレ
ビの全国放送番組の、月曜日夜七
時半からの「新日本紀行」に企画
され、九月四日から十九日頃まで
の長期にわたる撮影が行なわれる
ことになりました。放映は十月七
日の予定です。美しい自然と豊か

な人情など村の姿が全国へ紹介さ
れるわけです。

また歌舞伎は、九月十四日に中
津川市文化会館で開催される、オ
四回岐阜県民俗芸能大会にも出場
することになっています。

今年の歌舞伎の上演外題は、次
のとおりです。

- 菅原伝授手習鑑(車止の場)
- ― 県民俗芸能大会にも上演―
- 良弁杉子安の由來
- 絵本太功記(尼ヶ崎の場)
- 奥州安達原三段目
- 忠臣蔵七段目(一カ茶屋の場)
- 屋島日記後日譚(日向島の場)

No.70 (1976年8月5日発行)

村歌舞伎公演は
九月四日と五日

後継者などできつつあり、すっかり村の伝統芸能として復活した、村の歌舞伎の公演は明治座で今年は九月四日(土)五日(日)に行なわれます。

すでに練習も始まり、若い人たちも多勢仲間になり張切っています。今年の芸題は次のとおり

- ・ 絵本太功記 十段目
- ・ 三國一曾我の礎 由比ヶ浜
- ・ 恋飛脚大和往来 新口村
- ・ 増補 忠臣蔵 本蔵下屋敷
- ・ 荷童桑門 山の段

No.74 (1977年12月20日発行)

青年歌舞伎
福岡町で熱演

十一月十三日、福岡町で行なわれた東濃歌舞伎大会に、村からは「宵夕忠鉢木」の芸題で、丹羽貞蔵、梅田鉄義、今井明久、味藤明美、佐々富美子、粥川真穂美の若手が他町村のベテランに隠すことなく熱演しました。また味藤明美さんは個人演技賞を受けました。

ことしも活発!

文化協会ごあんない

文化協会は先日総会を開いて、第三回文化祭・発表の部を十月二十九日、展示の部を十一月三日歌舞伎発表会を九月九・十日に行なうことを決定しました。

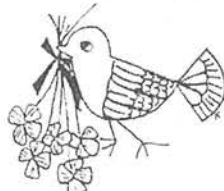
また、協会に所属している十八のグループも、それぞれ計画を立て活動をはじめています。

現在の加盟グループと代表者は次のとおりです。新しく加入を希望されるグループがありましたら教育委員会事務局まで連絡してください。(以下敬称略)

グループ名	代表者
加子母写真クラブ	桂川益郎
日本書学館加子母支部	田口伊蔵
扇州会(新舞踊)	内本ケサエ
ささゆり民謡グループ	伊藤とみよ
加子母ハム・クラブ	今井金光
三味線愛好会	梅田郁雄
三葉会(活花)	岡崎義也
うらさそ短歌会	伊藤とみよ
からしを吟社(文芸)	林元
加子母竹友会(尺八)	今井辰夫
歌舞伎保存会	安江清三

代表者	加入母民謡愛好会	和謡会(謡曲)	加子母団舞クラブ	日本習字加子母支部
田口義光	加子母民謡愛好会	和謡会(謡曲)	加子母団舞クラブ	日本習字加子母支部
中島寅松				
熊沢康治				
伊藤栄助				

第3回文化祭



- 発表の部
10月29日(日曜日)
明治座
- 展示の部
11月3日(文化の日)
小学校講堂
- 歌舞伎発表会
9月9・10日
明治座

かしも郵趣会(切手) 青山 昭
琴友会 今井あき江
八雲流加子母詩吟クラブ 古田和夫

歌舞伎保存会が県表彰をうける

加子母歌舞伎保存会(代表安江清三さん)は、今年度岐阜県芸術文化顕彰に選ばれて、去る十一月十八日表彰式がありました。

この文化顕彰は、岐阜県教育委員会が毎年音楽、伝統工芸、民俗芸能の三部門からそれぞれひとつづつを選んで顕彰するものです。

村の歌舞伎保存会は、農村歌舞伎の保存と普及振興に尽した功績が認められたものです。



”歌舞伎研究の会“が発足

—あなたもやってみませんか—

歌舞伎にとって台本、浄瑠璃、三味線、それに舞台は欠かすことのできないものですが、伝統の加子母歌舞伎を發展させ継承するために、それらを少しでも学んで貰おうと、歌舞伎保存会と青年学級「歌舞伎サークル」が主体となって、「歌舞伎研究の会」が始まりました。

これは、青少年心のふるさと運動のひとつとして、教育委員会が開設したのですが、村内の方

ならば、だれでも仲間入りして頂いて結構です。

指導者は、下呂町竹原の中島功さん、古田順一さんそれに村の保存会の方々です。

毎月第一と第三日曜日の二回づつで、青少年研修棟(村民体育館横)で行います。

この機会に、一緒に勉強された方は、教育委員会へご連絡下さい。

寄稿

人の一生には、さまざまな出会いがある。特に人と人との出会い。思いがけぬ有名人との出会い、名も知らぬ唯一度だけ出会った人でも一生忘れぬ事の出来ない感動を残していったあの人の人。

昭和五十年の春と秋に私は、後一年で八十年に達しようとする長い歳月で忘れる事の出来ない二人の有名人に出会った。

一人は業界日本一といわれ、西濃運輸の創立者である田口利八氏であり、もう一人は人間国宝で歌舞伎の中村鴈二郎である。私はこの二人から親しく話を聞く機会に恵まれた事を十年近く昔の事ながら今でも幸せに思っている。共に昨年他界されたが、まさに巨星墜つた感かしてならない。

田口利八さんのこと

加子母歌舞伎が昭和五十年二月、岐阜日日新聞の教育文化賞を受けた時、田口利八氏は特別功労者賞を受けられた。その時代表で出席した私は、岐阜城のよく見える長良川ホテルのロビーで計らずも三十分余りも田口

さんに話を聞く事ができた。

田口利八氏は、私が加子母村から来た事を知られて、初対面とは思えぬ親しみをこめて、私にこんな事を話された。その時の話は、何故かしみじみと話されたので今も私の頭の中に鮮明に残っている。

——あなたは、加子母の人だから、先の戦争で亡くなられた吉村正美さん(万賀の吉村富喜

忘れ得ぬ出会い

安江清三 賀



夫さんの実兄)をご存知と思いますが、私は吉村さんには言葉で言いつくせぬ程お世話になりました。そのお返しもできぬまま戦死され残念です。一度加子母へ行ってお墓参りをしたいと思えます。

私は昭和三年頃、生れ故郷の長野県南木曾町から親父に連れられて、何回も加子母を通って飛騨の萩原町へ通ううちに吉村正美さんに出会いました。二人で相談して、岐阜から中古のト

ラックを一台ずつ買って来て、名古屋や岐阜通いの運送の仕事を始めました。これはどちらもひどいボロ車で、今では想像も出来ぬ苦勞の連続でした。ここで西濃運輸の第一歩が吉村さんの手助けもあって始まったといえます。その頃は道路も悪く燃料も思うようにいきませんので、吉村さんも私もつい分苦勞しました。ともすればくじけが

人や部下思いの温情家と聞く。この涙こそ、遠く過ぎ去った苦難の日に、志半ばにして大陸に散華した恩人、よきライバルに思いをよせられた追憶の涙と私は見た。

中村鴈次郎翁のこと

昭和五十年十一月の北風の強い日、文化庁の移動演劇公演が中津川市の文化会館であった時、

ちな私を、はげまし力づけてくれたのも吉村さんでした。今まで生きていられたら、吉村さんの運輸業は、私の西濃運輸より大きかったかも知れません。戦争はあんな有能な人を亡くしてしまいました。

業界の風雲児といわれ、一代にして巨大の富を成され、社会事業にも多くの私財を投ぜられたときく田口氏、その堂々たる風格、童顔の小さな目に、きらり光るものを見た。田口氏は友

が女形をやる事を聞いて、女形の心得などを教えてくれた。戦後東白川村神土の神田座で梅川忠兵衛や石切梶原を演じた思い出話をもしてくれた。また、付知町の大山座へ来演した事など三十年も前の記憶のたしかな事に驚いた。

後日、景山氏から、彼はめつたに色紙を書いたりサインをしない人と聞いて、この稀少価値の筆跡を持っている事を嬉しく名譽に思っている。

二人共実業界、芸能界の最高峰を極め、多くの人から尊敬と親愛の情を一身に集めたが、もうこの世にいない。生者必滅、しかし残照は赫々と燃えている。出会いたる人既に亡し春巡る

(鴈次郎の色紙)

みむろ

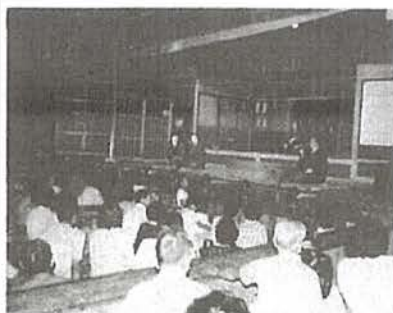
No.103 (1986年11月1日発行)

小学生が名演技 敬老会で 歌舞伎を公演

伝統芸能、加子母歌舞伎が九月十三日、十四日の二日間、明治座で開かれました。

初日は敬老会のための特別公演、十四日の一般公開は午後四時の開演で、観客はいっぱいの歌舞伎愛好家でうまり、村外からの見物客が目立ちました。

この公演の出し物は玉藻前たまもまえ、袂たもと、絵本太功記、源平お目見得みなみだんまり、心中宵庚申こころのよこがへ、それに子供舞踊。



観客いっぱいの様敷▲



師匠の松本団升先生▶

今年も松本団升先生の指導のもとに早くから練習をつづけられた。歌舞伎保存会の人たちは本職顔負けの名演技を繰り広げ大へんな熱演でした。
特に、小・中学生による子供歌舞伎「絵本太功記、尼ヶ崎の段」は、チビッコのかわいらしい名優ぶりに大拍手がわき起っていました。

この公演にはCBCテレビ、イギリスのテレビ局が撮影するなど報道関係の人が多く、また今年もアマチュアカメラマンが多く、年々、歌舞伎の愛好家が増える感じがしました。

源平お目見得だんまりの—コマ▼



No.105 (1987年3月20日発行)

加子母歌舞伎保存会が 文部大臣表彰を受賞

加子母歌舞伎保存会（会長田口唯夫）が昨年十一月、地域文化功労者として文部大臣表彰を受賞しました。この受賞は地域で文化発展に寄与したことを認められたことで、たいへんにうれしいことです。

歌舞伎保存会は明治座が昭和四十七年に県重要有形民俗文化財に指定されたのを機にすべてを整備いたしました。以来毎年明治座で公演を続けております。

又、後継者の育成として子供



受賞した文部大臣表彰状



昭和57年十周年記念
管原伝授手習鑑の場面

を加えた出し物に、加子母歌舞伎の伝承に努力しています。加子母村の歌舞伎は、江戸時代から地芝居と称して、歌舞伎狂言を主として盛んに行われていました。全国各地にあった地芝居は、時代の波とともに姿を消していた中で、村のかけがえのない楽しみとして、地芝居を守り続けてきました。

昭和四十九年にはNHK新日本紀行で全国に放映されるなど、地芝居の残る村として、全国的に加子母歌舞伎が知られております。

No.106 (1987年5月20日発行)

表彰を受けられた 皆さんのご紹介

村の記念日

三月二十九日は村の記念日です。この日は大正一年に、時の内務大臣原敬から加子母村が優良村として推奨されたのを記念し、昭和十年に村の記念日として定められました。

各戸が国旗を掲揚して、当時の実績を慕うとともに、さらに村民が一致協力して村の発展を図ることとされています。

村では、例年公共の福祉の増進に寄与し、村政の発展に尽くされた方を、表彰条例によって表彰しています。

今年は三月十一日の表彰審査会の各申をうけ、四人の方を表彰しましたので紹介します。



山岡町に居を定め、夫婦ともども県内はもとより、遠く長野県、愛知県へと歌舞伎の指導を続けられています。

村では昭和四十八年歌舞伎愛好会を結成し、氏を振付の師として第一回公演を行ない、以来十五年の長きにわたり、一度も欠かさず指導をいただきました。

加子母歌舞伎の活躍に欠くことのできない原動力となっております。

その結果、昨年の文部大臣賞を受賞するという榮譽も氏のご指導があつてのことです。

村の文化の振興に尽くされた功績は誠に大であります。

松本団升さん

(62歳)

(恵那郡山岡町在住)

長野県岡谷市で生れられ四才にして歌舞伎の道に入り、先代

松本団升に師事された後、十三才で上京してさらに研鑽を積まれました。



名演ぶりを発揮する役者たち「梶原平三誉石切」

名演技に 威勢のいっけい掛声

加子母歌舞伎 15周年記念公演

伝統芸能、加子母歌舞伎公演
会が十二日、明治座（県重要有
形民俗文化財）で幕を開きまし
た。

ことしの公演会は、文部大臣
表彰・再興十五周年を記念して
の上演で松本團升先生の指導の
もとで早くから練習をはじめ、
盛大に行われました。

初日は敬老会のために特別公
演、招待された七十四歳以上の
お年寄り三百十七人が歌舞伎を
楽しみました。
婦人会の接待で昼食をし、然

演に威勢のいい掛け声呼び、
客席からおひねりが舞台上に飛び
交いました。

最終日の十三日、午後三時か
らは一般公開で上演されました。
この日は中津川市の加子母会
の皆さんが総会を兼ねての見学も
あり、機数は村内外の歌舞伎愛
好会でうまりました。

今回の出し物は御目見得寿曾
我対面、菅原天神記松王下屋敷、
梶原平三誉石切、義経千本桜の
四幕と日本舞踊三部で総勢五十
三人が玄人はだしの芸を披露し
ました。

幕が開き、村長が役者姿で登
上、口上が始まると大きな拍

手。
「加子母歌舞伎のこひいき、お
引立ても一同になりかわりまし
て、隅から隅まですずいすい」

とお願い奉ります」
歌舞伎ファンは名演技に酔い、
年一回の公演を楽しみました。



子供の役者を携えて口上を述べる村長



歌舞伎二十周年

記念大公演

明治座

九月十三日明治座で、歌舞伎二十周年記念大公演が盛大に行なわれました。

昭和四十八年に、明治座が重要有形民俗文化財として県の指定を受け、それを機に発足、以来二十年間村の郷土伝統芸能として毎年敬老会を中心に公演を開催。現在子供歌舞伎も上演し、村外からも多数の方が訪れ、カメラに取めて見えました。

第1回 飛驒・美濃歌舞伎大会 加子母'93

9月12日

五町村が明治座で公演

岐阜県は農村歌舞伎の伝承団体数では全国で一番です。

その中でも加子母村を含む東濃地方は公演回数も多く県内でも農村歌舞伎の盛んな地方として有名どころです。

また今年(一九九四年)に建てられて百周年になります。

そんな年に第一回の岐阜県農

村歌舞伎大会とも言うべき「飛驒・美濃歌舞伎大会 加子母'93」が九月十二日に明治座で開催されます。

出演するのは下呂町の鳳凰座歌舞伎保存会、東白川村歌舞伎愛好会、白川町の東座芸能保存会、蛭川村歌舞伎保存会、加子母歌舞伎保存会の五団体です。歌舞伎ファンには絶対見逃せ



加子母歌舞伎公演の一場面

ない、又とない機会です。当日は梶原知事も見物にみえることになっています。村民の皆さんも是非お出かけ下さい。

歌舞伎大会

加子母'93



梶原知事を迎えて開催



源義経の衣裳で挨拶された梶原知事

歌舞伎を伝承する団体が二十
六ある全国一の岐阜県、その中
で飛騨・美濃地域から五町村が
同じ目的の中で、当村明治座に
集まり、このたび盛大に第一回
を開催することができました。

当日は、午前九時から明治座
創建百周年記念式典を行い、統
いて十時から梶原拓岐阜県知事
をお迎えして歌舞伎大会が幕を
開きました。

五町村それぞれ歌舞伎を愛好
する人達によって伝承されただ
けあって、その熱演ぶりは村内
及び近隣町村はもとより、県外
からおとずれた歌舞伎ファンで
いっぱいの会場の観衆を魅力し
ました。

各団体の公演した一場面と、
保存会の説明の一部を紹介しま
す。

新版歌祭文の一場面



加子母歌舞伎保存会

明治座が岐阜県重要有形民俗文化財として指定を受け
たのを契機に、加子母歌舞伎保存会が再興しました。戦
前からの田舎役者十六名が中心となり、昭和四十八年九
月に旗上公演を行いました。芸題は「絵本太功記」「一
谷嫩軍記」・「坂名手本忠臣蔵」・「御所桜堀川夜討」
・「義経千本桜」で振付は、現在も指導を受けている松
本団升先生にお願いをしました。

それから二十一年、その火を消すことなくきました。
この間、数多くのテレビや新聞、雑誌にも取り上げられ、
文部大臣表彰を始め、数々の榮譽に浴することができま
した。また、青年団員等の若い人たちの参加も得るとと
もに、小・中学生による子供歌舞伎を毎年公演すること
を通して、後継者の育成にも最大限の努力を図ってまい
りました。今後も伝統ある加子母歌舞伎の継承に、全力
を傾けていきたいと存じます。

東白川村歌舞伎保存会

農村歌舞伎として明治時代中期から、三つの常
設の芝居小屋(神田座・日向座・相生座)を中心に
盛んに上演されてきましたが、戦時色が強まるにし
たがって、遂に中断したまま終戦を迎えました。

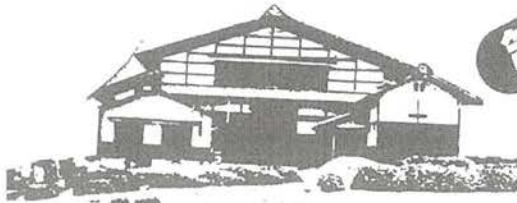
昭和五十年に有志によって「歌舞伎愛好会」が結
成され、再興への努力が続けられました。遂にその
夢が実現し、昭和五十二年九月二十九日神田神社の
例祭当日、東白川中学校体育館で第一回公演が華々
しく開催され、「吉例寿曾我対面」・「絵本太功記
十段目 尼崎閑居の場」などの芸題が上演されまし
た。

今年から歌舞伎公演を村の伝統芸能の一つと位置
づけ、この伝統文化を守るため、「愛好会」から「保
存会」へと組織強化を図り、伝承に努めていく準備
を進められています。



菅原伝授手習鑑の一場面

第1回 飛驒・美濃



《9月12日・明治座》

義経千本桜の一場面



白川町・東座芸能保存会

東座は、加茂郡白川町の最東部にあり、平成二年に修復をして今の舞台になりました。歌舞伎保存会員は四十一名で、大道具方が十名おられます。特に、子供歌舞伎に力をいれており、毎回小学校生活最後の思い出になるように、六年生が出演し頑張っています。大人の役者も毎年三、四名程度増え、若い後継者の育成に努力してみえます。

平成三年には、歌舞伎の大御所中村勘九郎先生が御来場され、素人歌舞伎の良きを見ていただき地元民並びに役者一同感激されたそうです。歌舞伎保存会員は、東座とともに地域の、そして町の活性化の源となるよう頑張っておられます。

下呂町・鳳凰座歌舞伎保存会

鳳凰座は、文政十年(百六十五年前)日枝神社にあった舞台を現在地に移転し、客席等を増設されたものです。

歌舞伎の上演は太平洋戦争中一時中断しましたが、戦後すぐ復活し、昭和三十五年に「歌舞伎保存会」が結成され、昭和三十六年十一月に下呂町重要有形民俗文化財、昭和四十七年八月に岐阜県重要有形民俗文化財に指定されました。

保存会は小・中学生、高校生、一般の者が所属し、会員数四十五名で他に裏方、舞台係として「鳳凰座はやぐ組」十名で組織されています。保存会員の中には特別に研修精進された太夫中島功氏、三味線吉田順一氏がおられ、恵まれた一座です。



一谷獻軍記の一場面

神霊矢口渡の一場面



蛭川村歌舞伎保存会

歌舞伎は、村史によると江戸時代に芝居として始まったと記されています。その後村の中に二つの常設舞台小屋がありましたが、明治三十四年に統合し、村の中心に「蛭子座」が建てられました。平成元年「ふるさと衛生事業」として公民館の舞台、大道具、幕類等を整備したことで歌舞伎が見直されたそうです。

以前活動していた人達を中心となり村民に広く呼びかけ、平成二年に保存会組織を再編成し、復活公演会を開催、その後、保存会員も約五十名となり、会員一九となって毎年一回の公演が続いています。昨年は子供歌舞伎も加えて、後継者育成と伝統芸能の伝承など文化の村づくりに励んでみえます。



新らたに

加子母歌舞伎保存会設立

加子母村に古くから伝わる歌舞伎、村誌によると江戸時代から上演され、一時は途絶えたものの、昭和四十八年に村の愛好者によって再興をされ、今年で二十三年という長い道を伝統的芸能として守って求られました。その再興した「加子母歌舞伎」は県下各地に寝っていた地歌舞伎を目覚めさせ、盛んにするきっかけともなってきました。独特な「声色」と振り付け、舞台上では華やかな衣裳と見るからに楽しそうに思える反面、保存会独自が持つ悩み

も多く、全員の高齢化や、後継者の不足、役をやりながらの公演会下準備等々非常な局面に達していることも事実です。無形文化財と言われる伝統的な芸術や優れた技能は、それを後世に伝え残していく努力をしなければやがてそれが無くなってしまいます。

そこで村民各位のご理解を得て傳承していきたいと、関係者や各地区の代表者と協議し新らたに「加子母歌舞伎保存会」を設立することとなりました。先月趣意書により会員の募集をお願い

いたしましたところ、村民皆さんの温たかいご理解、ご協力を賜り沢山の方々にご加入していただく事ができました。厚く御礼を申し上げます。

今年秋の公演会を十月二十九日(日)に控え役者の皆さんは早くから練習に取り組んでおられます。また今年の後継者育成の手始めとして小学校六年生の皆さんに子ども歌舞伎をお願いし、二つの芸題に夏休みからチャレンジしていただいていますので、会員の皆さんも、一般の皆さん是非ご来場いただき、ご声援をお願いします。演目は以下です。

- 一、藝妖術滝夜叉譚(岩屋の場)
- 一、神靈矢口渡(頓兵衛住居の場)
- 一、絵本太功記十段目(尼ヶ崎の場)
- 一、義経千本桜(寿司屋の場)

明治座でもっと歌舞伎にくわしくなろう

100年の歴史と村歌舞伎を育んできた「明治座」で、女優・渡辺美佐子さんの公演と著名人による歌舞伎講座が実現します。

皆さんは、4月29日に来村し、多い時は50の方が、村の民宿などに宿泊し、7日間稽古をして5月7日から10日までの4日間公演します。

公演の芸題は、「酔ざめお園」で『今頃は、半七さん』の台詞で有名な歌舞伎の名作「艶姿女・舞衣・酒屋」を渡辺さんの歌舞伎として、再構成されたものです。

歌舞伎講座では、渡辺美佐子さん、歌舞伎俳優の中村又五郎丈、葛西聖司NHKアナ、評論家の渡辺保さん、梶原県知事などによる解説や対談と歌舞伎の技術者の実演を行ないます。

是非お出かけ下さい。きっと歌舞伎の魅力が広がります。くわしくは役場企画課までどうぞ。

◆◆ 明治座の舞台から ◆◆

風が吹いた

歌舞伎フォーラム&プレビュー公演

五月七日から十日まで、明治座で歌舞伎フォーラム&渡辺美佐子のネオ・リアルカブキ「酔さめお園」プレビュー公演が開催されました。

連日大入りの盛況で、千秋楽には村内外から明治二十七年のこけら落とし以来ともいえる、六百人を超える観衆で場内が埋め尽くされました。四日間の延べ人数はゆうに二千人を超え、村民の芝居に対する関心の高さをうかがい知ることができました。

当日会場で配られたアンケートには「大変満足した。次回の開催を望む。」という声がたくさんありました。

また、かわら版でも紹介されましたが、期間中、一座と村民の皆さんとの交流が、明治座の外で盛んに行われ、加子母らしい温かいエピソードも生まれました。

この公演が盛況に終えられたのも、歌舞伎保存会、明治座保護会、婦人会をはじめ、村民の皆さんの温かいご支援があったからこそです。

村では今後、地歌舞伎をはじめとするこのような明治座での催しをどんどん企画していきたいと思っております。皆さんのご意見などを寄せてください。



文化の創造

「文化で飯を食う。」ということ

「文化で飯は食えない。」とよく言われます。確かに直接生計に反映されるとは考えられません。

しかし、村の地場産業は、先人がつちかってきた文化に支えられているのは事実です。

今回の公演が、文化的に裏付けされた地場産業の振興をめざす加子母村にとって、重要な催しであった事は言うまでもありません。

ちょうど百年前の明治二十七年十二月、今回と同じように四日間の日程で明治座のこけら落としの幕が切って落とされました。娯楽の少ない当時の村人の楽しみは、演じる方も、見る方も、両者一体となって役者になる地芝居でした。

田植えのあとの野休み、秋の刈入れの終わった時、土道を下駄をカタカタと鳴らしてお重を手に座ぶとんをもって明治座にむかった村人達。

大切なことは、建物を建ててから、芝居が始まったのではない。当時の村人が、芝居小屋の建設を熱望し、その熱情と資力が、独自の山村文化の華を咲かせた。それに、木と匠の伝統技術

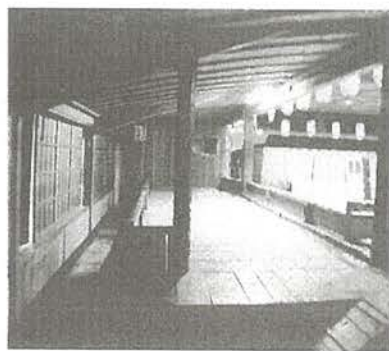
が融合し、文化と技術が如何なく発揮された。まさに生活に密着したところから明治座は生まれたのです。

その後、この大建築物は、幾多の危機にさらされながらも、その度に先人の心に救われてきました。

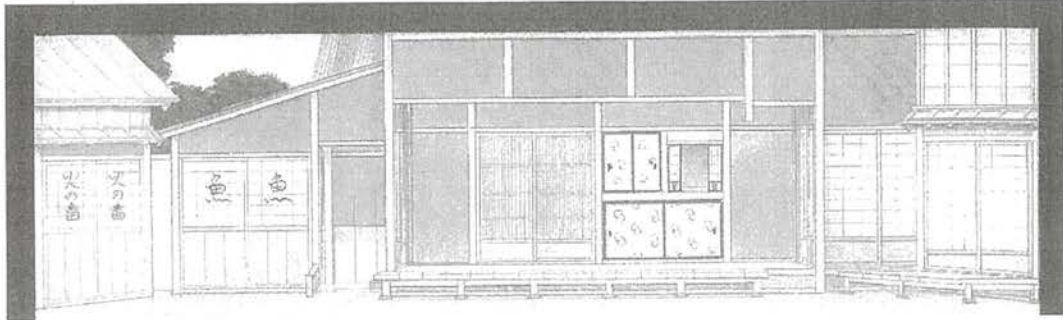
時代は過ぎて、平成になった今、独自の山村文化を再び華咲かせる時が来ました。ただ単に先人の遺産の継続でなく、新しい文化を創造するためのステップなのです。

山村の文化は決して高い位置にあるものではなく、今の生活そのものなのではないでしょうか。

先人が培ってきた文化を基に、独自の新しい山村文化を創造し、たくましい産業にむすびつけていくこと。これが「文化で飯を食う。」ということなのです。



良い役者が、良い脚本と良い劇場と良い観客を得て……



今回の公演をご覧になった中津川高校の日下部光穂先生に感想をお寄せいただいたので紹介させていただきます。

明治座で芝居を見たのは今回が初めてではありません。以前、地歌舞伎の大会を見に来たことがあります。そのとき「良い空間だな」と思った記憶があるのですが、なぜそう思ったのか細かくは考えませんでした。どうも、一杯やりながら見ていたようで、面倒な理屈抜きに場の雰囲気を楽しんでいたのだと思います。

今回、素面でも、やはり「良い空間だな」と思いました。自分で運転をしてきたので飲むわけにもいかず、隣に陣取った一座が陽気に酌み交わす清酒「かしも」を横目で見ながら、この空間の何が良い印象を与えるのだろうと、あれこれ考えてみました。

「明治座は運用次第で、文化を育むすばらしい空間になると思います。」

ところが棧敷だと空間が連続している感じで、袖振りあうも他生の縁、幕間には思わず言葉が交わしたり、ときには重詰めの振る舞われたりするところもありました。人間関係が和やかになるのは、「良い空間」の証拠です。

一つは劇場の大きさです。明治座は舞台が近い。二階の一番後ろにいても舞台上の役者と言葉が交わすようなほど舞台が身近に感じられます。これは劇場に取って非常に大切なことです。大きすぎる劇場はよそよそしくて、芝居のおもしろさが半減します。渡辺美佐子さんがすぐ目の前で芝居をやってくれる。こんな贅沢はちょっとありません。「幕内への立入りお断り」という勘亭流?の掲示も、客席と舞台との近さを表していて微笑ましい程です。一つは材質。木というのは良い。見た目があたたかい。コンクリートでは、こんな自然なあたたかさは作り出せません。役者の台詞や、義太夫や太棹の音も木に響いて余計な音が減るような気がします。こんな木造建築が、明治時代に村の人達の手で、できただんですねえ。

私は、高等学校で演劇部の顧問をしています。そんな関係で、「良い空間だな」という感想の裏には必ず「ここで生徒達のお芝居をやったらおもしろいだろうな」という思いがあります。文化を育てるのは適切な空間だと思います。実際に文化を担い、新しいものを作り出すのは人間ですが、その活動の場を保障しないと文化はなかなか育ちません。今の日本にはそういう空間が不足しています。明治座は運用次第で、文化を育むすばらしい空間になると思います。

お芝居の感想のつもりが、思わず明治座の話が長くなってしまいました。それというのも、実は「酔いざめお園」の一番の印象が、「まるで明治座のために創った芝居ではないか」ということだったからです。このお芝居は、歌舞伎を、生きた演劇として、現代の観客に結びあわせようという方向性を持っているようですが、それこそ飲み食いしながら間近に舞台を楽しめる明治座というあたたかい空間の持っている方向性と同じものだと思います。というように難しいことは後から考えた理屈で、実際のところ、良い役者が良い脚本と良い劇場と良い観客を得て、面白いことこの上なしのお芝居を見せてくれたわけですから、客としては、ひたすら大喜びして拍手して、贅沢な時間を過ごさせていただきました。



三尾千里
万賀沢屋に生まれる。昭和23年中津高女卒業後、小坂小を経て昭和27年から加子母小にて教鞭をとる。昭和29年三尾健吉氏と結婚2男1女をもうける。加子母村教育委員を歴任。趣味：日本舞踊、箏座右の銘「その時、その場、その心」

気高く美しい心が
歌舞伎の中に息づいていくことに
注目していききたい。

不器用な私が…

私は、現在加子母歌舞伎保存会の、役者部会に属して居ますが、これは元来の不器用が、考えても見なかった事です。十年前思うこと有って、団升流の踊りへ仲間入りさせて頂きました。先生は、歌舞伎の振付師でもいらっしゃるので偶々役者が不足し、其の穴埋めがきっかけで地歌舞伎に出演するようになりました。静御前、お茶、忠臣蔵のお軽など、奇麗な衣装を纏い顔を作ってもらうと、得も言われない心境になります。役者と何とかは、はまったら抜けれないと申します。先日村から配布された冊子の中でも、景山先生が「農村舞台は、禁じられても性慾りも無く行われたが村芝居の歴史」と言っています。みえましたが座り心地よく、恥を省みず続けてしまっています。でもこうした機会を戴けることを、色々な意味で幸せと思っています。

セピア色の記憶

私が、小学校一、二年生の頃は、五月の下御神社のお祭りや九月のお祭りには、まだ明治座で旅芝居が上演されていきました。好きでしたので必ず観に行きました。セピア色の記憶の中に役者衆がトラックに乗り「触れ太鼓」で村を廻って居た事、家が明治座の側だったので、夕方になると、ドンドンと「寄せ太鼓」が鳴り出すと、矢も楯も堪らず夕食もそこそこに木戸銭を握って走った事、などあります。

子供向ではない演目でも説明されなくとも筋書がわかり、涙を流し充実感を味わって楽しんで観ました。先代萩で幼い乍ら主君の愛に死を以て盡す千松や、重の井子別れでは、「ハ抜は照る照る鈴鹿は響る、愛のつち山雨が降る」泣き乍ら母を恋うて唄う三吉の姿など、鮮烈な印象が残っています。幼い頃のこうしかかわりが自然体で私

を此の世界へ近付けたのだと思います。歌舞伎では善人が善を行ない悪人は悪を行なう。凡てが単純で明確です。だから海外でも内容が理解され其の様式美と共に高く評価されて居ると云われています。

子供達と地歌舞伎

昨年子供歌舞伎に出演した子供達が、前日迄出来上らず心配して居ましたが本番当日衣装を付け顔を作ってもらった途端人が変わった様に緊張し、ブルブル震えながら凄くのって一生懸命やっていました。それ以来歌舞伎大好き人間になり、今年も出演したい子が大勢居ます。ハマリかけた子供達は、又時を得て後継者として活躍してくれることでしょう。

前に明治座で講演された舂添さんは、子供歌舞伎に言及され歌舞伎をやっている子供達には、いじめや暴力の心配はない、何故なら、人情、悲しみ、倫理



を理屈でなく、肌で感じ取っているから。シェイクスピアや古典、歴史物にふれさせ地に足をつかせる事が大切だと話されました。昔囃や古典物の文化が生活の中に入っていたら、崩れる心配は少ないと言われています。見直されている加子母の此の環境で培われた文化は、加子母にしかない他所で真似できないものです。乏しい生活の中でも心にゆとりを持って育み残してくれた遺産や地歌舞伎をもっと身近なものとし、村の宝として、大切に守り育てて行くことを先祖への報恩にしたいと思います。

なぜ歌舞伎を

戦後、古来の伝統や、文化を否定して来て、日本人には顔が無いと言われる昨今です。日本人の気高く美しい心が歌舞伎の中に息づいて居る事に、注目してゆきたいのです。



明治座 かわの版 (三二版)



平成7年度に村民の協力をいただき、加子母歌舞伎保存会として新たな出発をいたしました。

歌舞伎保存会役者部会では10月27日の公演に向けて“役者”を募集しています。

「酔ざめお園」&歌舞伎フォーラムを見て、チョット気がある貴方？ どんな役でもあります。是非一声かけて下さい。誰でも自由に参加していただけます。

希望者は教育委員会へ
＜あなたも明治座で見得をきってみませんか＞

歌舞伎保存会々員の継続と会費負担のお願い

10月27日の加子母歌舞伎公演をめざして、役者部会ではこども歌舞伎をはじめとする4芸題に取組みチャレンジしますので、ご期待ください。また歌舞伎保存会では、公演に先立ち昨年皆様に会員となっただき、貴い会費を納めていただきましたが、今年度も引き続き会員継続と新規加入のお願いと会費の負担について区長さんを通じてお願いをいたしましたので、趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますよう“一重に願い！たてまつります”。

加子母歌舞伎大公演会

日時 10月27日(日)
12時30分開演
場所 明治座
主催 加子母歌舞伎保存会



公演芸題

- 1、白浪五人男・稲瀬川勢揃の段
- 1、絵本太功記・十段目尼崎閑居の場
- 1、元禄忠臣蔵・南部坂雪の別れ
- 1、近江源氏先陣館・盛綱陣屋

第二十四回

加子母歌舞伎大公演会

十月二十七日、明治座で恒例の加子母村歌舞伎公演が行われました。

今年も初舞台を踏む役者も多く、緊張した面持ちで出番を待つ姿がありました。子供衆による白浪五人男、絵本太功記十段目上演され、その熱演にお捻りが飛び交いました。続いて一般の元禄忠臣蔵、近江源氏先陣館が上演され、役者が見栄を切る段になると観客が拍手喝采に声援。主役から脇役まで、日頃の練習の成果を存分に出した演技を披露しました。舞台裏では裏方の皆さんが一丸となって汗だくになって役者を支えていました。



「生きている芝居小屋」の活用

明治座は加子母村民が全国に自慢できる貴重な文化財であることはご承知のとおりです。この明治座が、他の芝居小屋と決定的に違う点、それは、その大きな設備もさることながら、「生きている芝居小屋」であるということです。歌舞伎役者の板東秀調さんも絶賛しましたが、明治座には、演じ手と観客が一体化してしまう不思議な魔力があると、これは皆さんも感じていると思います。また、この屋台骨が村民の皆さんによって支えられていること、まさに生きているといっても過言ではありません。

この「生きている芝居小屋」を今後どのように活用して行かなければならないかは、今後の利用頻度にかかっています。

一昔前、明治座ではいろいろな催し物が企画されてきました。青年団演劇バンド演奏、お楽しみ演芸会など手づくりの文化がそこにはありました。残念ながら、久しくこの芝居小屋はそんな使い方をされていません。

村民の誰もが気軽に企画をたてて利用すること。カラオケ大会、演芸会、ファッションショー、展示会など、多彩な使い方がいくらでもできます。手づくりでいいんです。音響、照明なども心配御無用、優秀なイベントスタッフが村内には組織されています。あらゆる利用方法にも対応できるように、プロの意見も取り入れて設計された役者控室棟も来年の春には完成します。いよいよ再生された明治座の胎動が聞こえてくるようです。



明治座 かわわ版 (三二版)



加子母歌舞伎保存会から役者急募!!

今年度の加子母歌舞伎大公演会を9月7日(日)と決め、配役等準備にかかりました。昨年は4名の新人が活躍。皆様の絶大なるご支援、ご協力をいただき、盛大に開催することができました。今年は復活以来25年の記念すべき年になります。一段と趣向を変えて皆さんに楽しんでいただきたいと思っておりますので、是非あなたにも役者として力を貸していただきますよう“一重に願ひ奉ります”。

〈教育委員会までご連絡下さい。〉



カメラマン

9/7 復活25周年 ズラ〜リ

役者

復活25周年日にあたる今年、村長らによる「加子母だんまり」(表紙写真)他5つの外題が熱演されました。当日は裏木曾開発推進協議会主催のフォトハイキングの撮影会が行われ、カメラマンも勢揃い。熱気のコもった暑い一日でした。

また犬山市からは50名が村との交流もかねて、鑑賞されました。



真剣な面持ちで指導を受ける役者さんたち


4 / 19 いよいよ始動
「袈裟と盛遠」



熱心に大道具の打ち合わせをする参加者


昨年上演された、創作歌舞伎「袈裟と盛遠」除幕の稽古が始まりました。今年は序幕を地元の人達で演じるとあって、皆熱心に原作者の竹柴源一さんの指導を受けていました。また今月6日から10日まで、毎晩明治座で舞台装置の研修も行われました。

加子母の創作歌舞伎が、地元だけで上演される日がまた一步近くなりました。



6 / 3~5 久方ぶりです。“盛遠”でござる。

先月に引き続き、創作歌舞伎「袈裟と盛遠」の稽古が3日から5日まで明治座で行われました。今回は、昨年盛遠役を演じられた尾上辰夫さんをはじめ、衣川役の中村歌女之丞さん、庄屋役の板東三平さんらを迎えて演技指導が行われました。裏方さんも参加して舞台に実際にセットを組んでの稽古、村の役者さんたちは今まで以上に熱の入った稽古になりました。



写真上右が
中村歌女之丞さん

写真下右が
尾上辰夫さん

加子母村オリジナル創作芝居
『袈裟と盛遠』
役者さん・裏方さんを募集しています。

村のなめくじ伝説を題材にした加子母村オリジナル創作芝居「袈裟と盛遠」を今年九月に上演します。この「袈裟と盛遠」は、現代口語調のセリフで誰にでも観しやすくて、わかりやすい芝居です。七月からは自主稽古も始まり、和気あいあいと楽しい稽古が行われています。

今回、村人役(セリフあり、セリフなし)若干名、募集します。いずれも男女を問わず年齢制限無しです。



またこの芝居は舞台セットを台車に乗せて動かしたり、回り舞台を利用したりと、明治座の舞台の機能をフルに発揮した構成となっていて、舞台裏で動きまわる裏方さんの見せ場もあります。役者はできないが、裏方ならという芝居に興味のある方は、是非ご参加下さい。連絡を待っています。

加子母村風起こし実行委員会事務局まで
(役場教育委員会・企画課内)

みんなで創ろう!!

進め！ 松の木瀬調査隊

文覚上人の

その8 袈裟と盛遠伝説

さて、前回までの文覚上人プロフィールをちよつと中断。なめくじ祭にむけて「袈裟と盛遠」二人の伝説をおさらいしましょう。では、はじめり、はじめり。

時は平安末期 これから訪れる戦乱の火が種り始める時代。源氏も平家もまだ藤原社会の子飼いとて公家の下で甘んじていた。

遠藤武者盛遠は、渡辺党の一派として鳥羽上皇を護衛する北面の武士。その頃の盛遠は真実恋の病に取り憑かれていた。相手は同僚の武士 渡辺巨の妻 袈裟御前。幼いころ一緒に遊んだ淡い思い出がいつしか激しい横恋慕に変わっていた。

「あれは三月の中旬、渡辺の橘供養があったとき。忘れもしない再会だった。供養も済んで皆が下向していると、輿に乗ろうとしている女に気づいた。あときの美しい姿、忘れられない。

袈裟：なぜ袈裟が巨の妻に？
幼き頃無邪気に遊んだ袈裟。いつころからか恋する唯一一人の人となり、いつか我妻にと欲してきたものを。なぜ巨の妻など呼ぶ？
空蝉の殻は木ごとにとどむれど
魂のゆくえを見ぬぞかなしき

恋は人を迷わし、身をセミの抜け殻のようにする。人のものとなってしまった袈裟を想い、盛遠は少しづつ少しづつ狂気へと駆り立てられていく。



狂ったような猛暑もおさまりかけたある日の朝、盛遠は、袈裟の母 衣川の壱を訪ねた。迎えてもてなそうとする壱に盛遠は突然刀を突きつける。

「何をしますのですか。私はあなたの伯母ではないですか。なんの怨みがあつてこんな」「怨みがない？ 怨みがないと申すのか？ オレを殺そうとして。伯母と言えど容赦できないわな。」「殺そうとする？ 誰がそんなことを？」

「誰でもない。オレが決めたのだ。袈裟を妻にとあんなに頼んでいたではないか。それをどうして巨なんか？ もうオレはおかしくなりそう。袈裟殿を想わぬときはなかった。恋い焦がれて死んでしまいたい。そんなの。人は恋のために死んでしまふこともある。これこそ伯母の甥殺しではないか？ 生きていても苦しいだけだ。それならせめて敵のおまえを殺してからだ。」

壱はおののいた。
盛遠の目に悪鬼が宿っているのを確かに見た。
「まあ待て。待つて下され。前々から盛遠殿の意向は聞いてはいたけれど、巨がせひにと言うので逆らへず。悪かったねえ。さあ、刀を納めておくれ。」

「そうまでいうなら、袈裟に会わせてくれるか。」じろと壱を見据えたまま、刀を鞘へ納めようとはしない。
「良いか。」
「そんな。」

壱の懐きを見定めるかのように、ゆっくりと鞘に戻すと、言った。
「では、今宵。」
盛遠は狂喜のあまり、笑った。

「どうしたらよいのだろうか……」
壱は独り茫然と座っていた。盛遠は本気だった。本気で壱を殺す決心をしていた。いや、果たしてそれだけで済むのだろうか。昔から気性の激しい子供であった。会わせれば、逆上して、壱だけでなく袈裟も、巨も、ただでは済むまい。母として、袈裟によかれと進めた縁談が、まさかこんな形で私たちを苦しめるとは……壱の意識は心の奥深くに沈んでいく。

カナカナカ
壱の鳴き声が辺りをつつき。夕やみがひたひたと近づいてくる。打ち拉がれる壱を残し、壱はいっそう声高に泣き続ける。

「お母さま、一体どうしたのでございませうか。」袈裟の声は不安げにがらんとした部屋に響く。母から突然会いたいという手紙を受け取ったのだ。いつも巨様に尽くすという母が、なんの理由も書かず、すぐに会いにこいとはあまりにもからぬことだった。

壱はただうつむいて黙っている。
「お母さま、何かあったのでございませう。話して下さいませ。そのようにお嘆きになられるような。」
袈裟のあまりの心配のように、壱はふつと息を吐くと、覚悟を決めたような声で「盛遠がきた。」と言った。

「盛遠殿。あの懐かしい盛遠殿でございませうか。」袈裟にとっては解せない言葉であった。幼きころ一緒に遊び、無邪気に慕ってきた盛遠殿。なぜその方が、母をこれほどまで苦しめる原因になるのか。
母は疲れたようなため息を漏らすと、話しはじめた。

袈裟にとってその話はいくらも信じがたいものであった。人妻になったといえ、純真で疑われない性格そのまま、絶望も、裏切りも知らず、ただ素直に愛らしい。そんな袈裟にとって盛遠の狂気は予測できるものではなかった。盛遠殿。怒っていてもいつも目は優しく笑った。大きな声で笑い、弱いものには手を差し伸べて。その盛遠殿が私のことやを想うて、そのようになりなされた。私のことを慕うて、狂気に身をまかせなされた。

袈裟は、壱の手をとると「母様、今宵、盛遠殿にお会いいたします。」そう言つて頭を垂れた。

夕闇が部屋全体を飲み込み、袈裟の姿を月明かりがぼんやり障子に映し出している。もう何時間になるだろう。この部屋で一人、混乱した頭で考え抜いた。答えはひとつしかない。盛遠殿がやって来る時刻まであとほんの少し。もう、どうすることもできない。

母御前の所から帰ってきてから、なんとなく袈裟の様子に気になる。巨は不思議に思った。「ささ、もう一献。」微笑みながら酒を勧めるその美しい顔に一瞬暗い影がよぎったように見えたのは酒に酔ったせいだろうか。ゆるやかに夕闇に包み込まれていく庭を見つめながら、巨はすぐそばにいる袈裟のことを考えていた。

なにが？ 何かの前兆を無意識のうちに感じていたに違いない。歩を進めることに不安は耐えがなくなる。気がつくやいなや盛遠は立ち止まっていた。なにがおかしい？ 抑えきれなくなって盛遠は血塗れた首を雲間から射す先に照らす。

そこにあるのは袈裟の首。

盛遠の声にならない叫び。まったく空虚の世界。首を持つ手の感覚さえなく、ただ一点、意識できるのは、血まみれの袈裟の顔。全身を太刀で貫かれたような痛みが、盛遠を動けなくさせた。

なぜ？
なぜ？
なぜ？

人とも獣ともわからない叫び声をあげ、突然首を抱えたかと思うと、盛遠は、鬼影のごとく走り去った。

その後、盛遠の行方は否として知れない。袈裟御前殺害のニュースは京の人々を震撼させ、盛遠の追跡も幾度となく行われたのだが。盛遠は袈裟の首を抱えたまま、愛する者を自らの手で葬った悲しみを浄化することができたのだろうか。人間の限界を越えた荒行にあげ暮れ苦しむ、盛遠は高僧「文覚上人」となる。激しい情熱はそのままに、弱者を助け荒れ寺を復興する。

加子母村には「文覚上人の墓」と伝えられるお墓がある。毎年、旧暦七月九日、袈裟の命日になると、どこからともなく「刀傷を持つ白いなめくじ」が何百となくお墓にでてくる。それは高僧となった文覚を許し慕う袈裟の霊と言われている。

盛遠は痛みを癒すことができたのだろうか！

二人の夜が晩にかわるころ、袈裟は突然口を開いた。

「盛遠殿、巨様を殺してくださいませ。今晚、巨様の髪を洗い、酒に酔わせて寝かせます。濡れ髪をたどって一刀のうちに！」

盛遠はいぶかしげに「巨を殺せと？」

「はい」

盛遠は不思議だった。今晚袈裟はまるで昔のように、にこやかで愛らしかった。巨とは愛しあっていると聞いていたのに。

「それでは真実オレのものになるというのか？ オレを思うてくれるというのか？」

袈裟は膝に置かれた自分の手を一心に見つめて言う。

「殺していただくなくては。巨様がいるうちは、はいとは申せませぬゆえ。」

「…そうか。わかった。」

袈裟はゆっくり顔をあげ、盛遠を見つめる。その瞳は盛遠を越えて、はるか彼方を見つめはほえんでいるようにも、また漆黒の間を湛えているようにも見えた。

盛遠は心から嬉しそうに上気している。袈裟が自分を思うてくれる。それはなににも勝る喜びだった。激しく乱暴な盛遠の影に、確かに存在する純情が有頂天にさせる。ただ風は生あたたかく盛遠の上気した頬を撫でていく。

その夜、月は雲に隠れ、全くの静寂。闇の中、盛遠は自分の鼓動だけが強く波打っているのを感じた。良心の呵責がないというわけではない。それをも越える狂気が盛遠を襲っていた。濡れ髪を確かめると盛遠は、エイッとばかりに太刀をふった。袈裟はオレのものだ。これで袈裟が自分を愛してくれる。盛遠は信じて疑いもなかった。

でもなにかおかしい。

首を袖に包み人目を避けて家路を急ぐ途中、盛遠はいつからか心にうずきはじめた不安が増殖していくのを感じていた。



今年のなめくじ祭は八月三十日です。

この伝説をもとにした加子母村オリジナルの創作芝居『袈裟と盛遠』は、加子母の役者さんや加子母中学校の生徒さんらによって、9月18日から開催される歌舞伎フォーラムで上演されます。おたのしみに！

● 加子母歌舞伎大公演開催

今年も下記のように加子母歌舞伎公演を行ないます。
大勢の皆さんのご声援をお願いします。

日時 平成10年9月6日(日)正午開演

場所 明治座

特別出演 犬山まつり軸からくり披露

上演芸題

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1、絵本太功記 | 尼ヶ崎閑居の場(子供歌舞伎) |
| 1、白浪五人男 | 稲瀬川勢揃いの場(子供歌舞伎) |
| 1、団升流松扇会 | 〔第一部〕 |
| 1、阿波の鳴門 | どんどろ大師 |
| 1、団升流松扇会 | 〔第二部〕 |
| 1、仮名手本忠臣蔵五段目 | 鉄砲渡しの場 |

● 加子母村で全国芝居小屋会議

江戸時代の歌舞伎劇場の様式を伝える木造の芝居小屋を持つ全国各地の市町村・団体等で組織されている全国芝居小屋会議。昨年は群馬県の大間々町で開催され、第6回目となった今年度は加子母村で下記のような日程で開催されます。

開催日 平成10年9月19日～9月21日(3日間)

日程 19日(土) オープニング、前夜祭


明治座「歌舞伎フォーラム」

20日(日) 芝居小屋散策、村内散策、ショッピングと


創作芝居満喫 3種別行動

福崎公園で交流会

21日(月) 明治座で総会



下写真
犬山祭からくり
披露(蒲島)



9/6 待ってました!! — 加子母歌舞伎大公演会 —

今回で26回を数える歌舞伎公演会が、あいにくの天候のなか明治座で行われました。

今年は、子供歌舞伎、大人衆の芝居のほか愛知県犬山市のからくり人形の披露や団升流松扇会の舞踊など盛りだくさんで、いい演技には“おひねり”が投げ入れられる場面も。

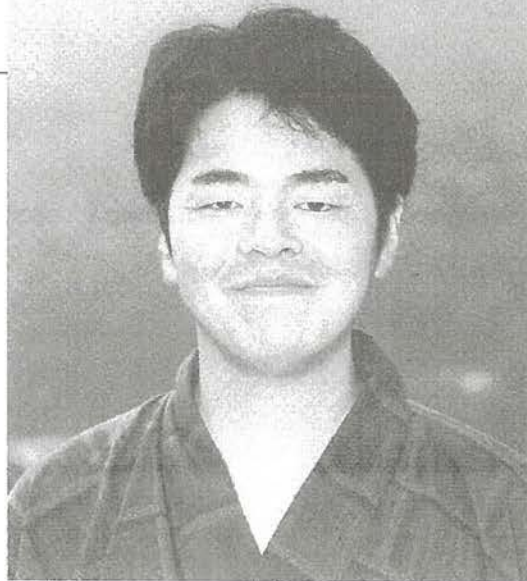
この公演会のあと下旬には歌舞伎フォーラムが控えていて、9月は明治座は歌舞伎一色で彩られます。



これが地芝居の原点か? — みの・ひだ地芝居写真展 —

今年明治座で行われた「全国芝居小屋会議」にむけてのPRを兼ねて、地元明治座をはじめ周辺の常磐座(福岡町)、鳳凰座、白雲座(下呂町)で毎年行われている、地芝居の名場面や楽屋裏の素顔を撮った写真展が、村内や福岡町などで行われました。写真は、名古屋市などの写真愛好家の作品で、白黒写真を中心に約50点以上が展示紹介されました。

ふるさと人の心 (もり)



畑山甚六でござる

私の名前は畑山甚六。なに？知らないと思しませうか。思い出してください、「袈裟と盛遠」の一幕目で遠藤盛遠の臣で登場し、「御主人様、御主人様」と盛遠の袖をひっぱった人物でありますぞ。まあ、わからない人がいてもいたしかたあるまい。出番が少ないうえ、台詞も少なく…。しかしながらそのおかげもあって、『袈裟と盛遠』の練習風景(もちろん私も練習していたが)や舞台裏での大道具の動きなど、ひとつの芝居が完成するまでの行程をゆっくりと見学することができた。それは、この経験より歌舞伎フォーラムに書いての話をしたいと思う。

内木 哲利 (ないき てつとし)

昭和49年愛知県一宮市生まれ。上桑原区大丸内木保氏の長男。平成5年から加子母に。役場に5年勤務。今年退職して現在中京短期大学食物栄養専攻の一年生。栄養士をめざして勉強中。県の国際交流研修を機に草の根国際交流を行っている。今年の夏祭りには国際色豊かな青年団の店を出店、中国留学生手作りの水キョウザは話題を呼んだ。現在青年団長。

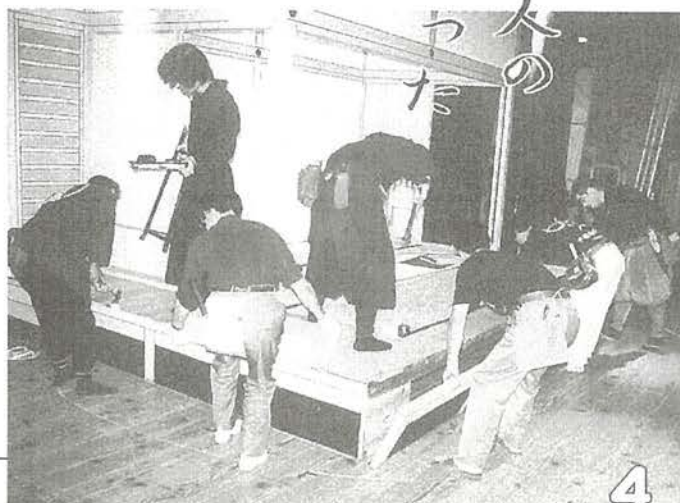
役者と大道具

やはり芝居をするためには役者がいなくては始まらない。しかし役者だけでも始まらない。もちろん舞台がなければ芝居にならない。

そこで登場するのが大道具。今回は『袈裟と盛遠』の序幕については役者はもちろんのこと、大道具も地元の人たちだけで行われた。大道具の方々は舞台監督の方を東京から明治座へ招き、昨年の歌舞伎フォーラムで使われた大道具を使い、舞台の設置、場面転換などの稽古、また引き棒などの製作を行っておりました。あれだけの大きなものを組み立て、分解し少しの間で舞台場面を転換させるといふ大変な作業。ほんとうにご苦労様としかいえないかった。

役者も大道具も九月の公演を成功させるために、四月から稽古を開始。約五ヶ月の時間があるわけだがすべてを稽古することは出来ない。プロの役者さえ舞台に立つまでには四十日かけて稽古するといわれているのに実質二十日ほどの稽古で本番を迎えなければならなかった。

たくさんの人の
応援があつた



幕の裏では汗びっしょりの大道具衆が黙々と準備をすすめている。

初稽古は東京から脚本演出をしていた竹柴源一さんに明治座へ来てもらい、台詞の確認をしてもらいながらの本読み。

私は今回初めての参加であったので台本をいただいただけでドキドキ、でもどこかでワクワクしていたかもしれない。

「台詞の裏の意味を大切に」と何度か言われた。この台詞はどんな場面、どのような感情のときか、そのようなことを考えて台詞を言えば見る側の気持ちを動かすことが出来るはず。何度も何度も言い直さなければならず難しさを実感した。



楽屋裏に特設された食堂では下巻原区婦人会の皆さんによる炊き出しが、楽屋の皆さんによる接待が行われ、徹夜もスタッフも心もこもったおもてなしに感謝していました。今回は3度目というある大道具さんが「今年も楽しんでよ」といって、これからはもういらないよ。

稽古も公演の日が近づいてくると熱が入ってくる。東京の役者の方々も私たちの演技指導のために何日か明治座へ来ていただいた。彼らの指導のもと、芝居がだんだんと芝居らしくなっていく。主役クラスの方々が長い台詞を暗記し、舞台上での動きをしつかりと覚えていく。その状況を見ていると余計にあせってしまい、自分の台詞を忘れてしまう。そんな自分が情けなかった。

そんなことをしているうちに本番当日。初日の舞台なので緊張するかと思っていたがそんなことは少しもなく終了することが出来た。他の人に「あれだけ稽古すれば緊張しないよ」などと後で話を聞いた。それによって自信が持てるようになった。

たくさんのお客さんの歓声や拍手をもらいはいんどろにうれしかった。これだけの芝居を完成させることが出来たのもたくさんのお客さんの応援があったからだと思う。これからも応援よろしくお願いします。

歌舞伎を始めたきっかけ

「去年は裏方として、歌舞伎フェスティバルに参加していた。このときはまさか自分が役者として舞台の上につとは思っていなかった。

ちょうどこの頃、いろいろな場所で外国人の友達は何人かできた。その人たちと付き合っているうちに外国の文化や習慣などいろいろと教わる事が出来た。そのようなことをしているうちに、日本の文化や習慣はどういうものかと考え始めるようになってきた。

「日本といえは？」という質問をしたところ、スシ、テンプラ、フジサン、サムライ、ニンジャなどいろいろの答えが返ってきた。その時は今の日本には侍や忍者はいないよと答えたが、よく考えてみたらこんな身近な場所に侍がいたことに気づいた。これはぜひとも見てもらいたくない、その話題作りからまず自分が参加し興味を持ってもらおうと思った。



顔をつくる。緊張の一瞬。

そして今回の歌舞伎に参加させてもらうことになった。実際に歌舞伎公演当日、何人かの人たちに来てもらうことが出来た。日本の文化にふれるチャンスと喜んでくれてくれた。またせっかくなので歌舞伎を見てもらうだけでなく舞台の裏や役者の控え室、化粧、衣装、かつらなどを付けている状況を見学してもらえればと思いきや相談したところ許しが出たので見学することも出来た。

加子母村の明治座だからこそ出来たことだと思う。これからの機会があれば加子母村の力を借りて日本を世界に知ってもらうためにがんばっていきなさいと思う。



5

中央巻盛演役の三浦正樹さんの右が哲利さん演じる細川藤六「ご主人様、ご主人様」

進め! 松の木瀬調査隊

第17回 歌舞伎お気楽潜入日記

「おお、実に見事な出来上がり。今日が最上吉日じゃ。」

九月は、明治座が歌舞伎に燃えた月でした。六日は「加子母地芝居大公演 & 松扇会発表会」十八日・二十日は歌舞伎フォーラム「装束と盛遠」。

今回は、「装束と盛遠」の舞台裏に潜入したときのお話です。

さて、私の役は「見物人4」。一番最初に橋のところにいる村人だ。
「おお、実に見事な出来上がり。今日が最上吉日じゃ。」あと一言二言しゃべって、とにかくガヤガヤする役目。舞台上立って、舞台を見れるし、なかなかおいしい役どころ。

本番前夜。衣装も化粧もカツラも付けて練習が始まった。プロのスタッフの方も加子母のスタッフの方も全員集合。裏も表も気合が入る。自分の役が終わって、客席から稽古を見ていると「ちょっと、ちょっと、そこであんた」と脚本の竹柴さんに呼ばれた。
「あんたさあ、序幕が終わったら、装束さんの小道具を持ってこれないか?」思わず「はい」と、喜び勇んで走りやる。小道具さんなんて、裏も表も潜入できる。興味津々一挙両得。わたしは、とてもラッキーだ。

当日私は、まず序幕を見物人4で出演。二幕の間にカツラをとって衣装を替替えて化粧をとって、裏方さんルックに着替える。幕が開いたら装束御前のプロンプター(セツ)裏に隠れて役者がセリフにつまったら小声で教える。結局一回もつまんなかったけどね。幕が閉まれば、装束の小道具を片付けたら、装束の早変わりをお手伝いしたり。で用意が



実りの秋

天高く馬肥ゆる秋。
やっと歌舞伎が終わったと安心したとたんに、からだのあちこちに肉がつきました。「丸いな、やばいな」迫りくる危機感……。

装束御前役が決まったのが九月九日。かつら合わせに東京へ行ったり、天気のすばらしい休日に部屋にこもって繰り返しビデオを観たり、あわただしい日々だった。

朝屋はひたすらビデオチェック。姿見をビデオの横に並べ、交互に見比べながら、巻き戻しては動きを真似、巻き戻しては顔をふくり、何回も何回も繰り返し練習した。この姿だけは誰にも見られたくないなあと思いつつ……。

十二日の立ち稽古からは毎日毎晩明治座に通った。十五日には演出の竹柴さんについてセリフの稽古。十六日には役者が加子母入り、動きとセリフをつきつきりみてもらった。十七日には通し稽古。三味線や長唄も入り、ギャラリーも大勢いて、今までにない緊張感だった。

稽古には、元祖装束役の今井睦ちゃんも来てくれた。本当は出たくてたまらなかつたに違いない。稽古のない日もひとり明治座で練習していた、がんばりやの睡ちゃん。「おめでた」の話を聞いたときは、まさか、という感じだったが、子どもを授かるなんて「大杉地蔵

尊の「利益だ」という話で盛り上がった。「おまえも装束を演るとか利益があるぞ」。ああもう、他人事だと思っただけ。
「稽古するときは声かけてね」「できることは何でもやるからね」やっける間中、ずっとワクワクしていたように思うのは、きつとみんなが一生懸命になって支えてくれたから。私は加子母で、一生に一度しかできないようなすごい経験をさせてもらったと思う。これも大杉地蔵尊の「利益」かな。

とにかく、加子母の衆で自分たちの芝居をつくったという満足感の大きな舞台だった。間に加子母歌舞伎をはさみながらの長丁場を無事乗り切ることができたのは、全員がひとつの方向を向いてがんばったからだと思う。

来年は「装束と盛遠」其の二、再来年は其の三と、続いていく芝居つくり。私たちは今、足元の大地を耕している。そのひと握をへっぴり腰ながら入れることができた。実りの秋はまだ先のことかもしれないけど、今年の秋は豊かな恵みで満ちていた。

初日はかねた後、歌舞伎保存会長の田口茂雄さんが私の顔をのぞき込んで「二」「三」と、
「次はおしの番や」
「何がですか?」
「誰の子が出てくるか楽しみや」
「……」。

芸術文化事業

明治座を芸術文化産業の情報発信拠点として位置付け、女優渡辺美佐子さん他の合宿練習とプレビュー公演と歌舞伎フォーラムに続き、一昨年から「文化のまちづくり事業」の指定を受け、文覚上人にまつわる創作歌舞伎「袈裟と盛遠」も今年で3年目でのいよいよ完結となります。風起こし応援団の誕生や、ボランティアの支え、県の「ウェルカム21」事業のイベントとして位置付けられ、広域的支援も期待されるところとなっています。また、昨年は有名なバイオリニストの田中千香士さんと東京芸大生による弦楽クラシックコンサートが、学生の合宿練習とともに行われ、学生、来場者共々感動を与えましたが、新年度についてもボランティアの協力を得て、行うことになっています。さらに、今年岐阜県で開催される国民文化祭の歌舞伎部門が、明治座で開催されることになっていますが、村の文化資源である「明治座」を活用して地域に根ざした文化の展開と地域づくりをはかり、全国への情報発信基地として多くの支持交流人口の拡大により、地域振興をはかります。



3/27 いよっ 千両役者!!
— 子供歌舞伎犬山祭で演技 —

からくり人形が縁で村と交流が始まった愛知県犬山市。今年「春の犬山お城まつり」のオープニングセレモニーで、加子母の子供歌舞伎が出演しました。会場の市民文化会館には約800人の観衆が詰めかけ、10名の子供歌舞伎役者が演じる「白浪五人男」に盛大な拍手を送っていました。また、4月3日～4日には加子母の物産を展示販売して犬山市民に村をPRしてきました。



「五人男」後列左から
藤橋 健志くん
三木 和也くん
熊澤 敬文くん
第川 雄介くん
丹羽加奈美さん

「捕り手」前列左から
中島 和弥くん
宮之上奈佑さん
丹羽 直寿くん
中島 亮くん
森 俊樹くん



役者の皆さん

5月 始まりました。「袈裟と盛遠」
— 創作歌舞伎稽古 —

創作歌舞伎「袈裟と盛遠」の稽古が始まりました。昨年、一幕を経験した加子母の役者さんは、当時を思い出しながらの稽古です。5月中旬には中村歌女之丞さんを迎え、二幕の読み合わせと自主稽古。6月に入り大道具の練習と尾上辰夫さんを迎えての稽古と、秋の公演に向けていよいよ始動です。



「袈裟と盛遠」
の公演は
9月18・19日に
行われます。

上写真左
中村歌女之丞さん
による演技指導

右写真
大道具の練習



加子母歌舞伎保存会からのお知らせ

6月15日に今年度の歌舞伎保存会定期総会を開催し、事業報告及び決算報告そして平成11年度の事業計画と予算について審議をしていただき、いずれも原案どおり可決されました。

会員皆様の尊い会費によって、充実した活動を行うことができ関係者一同衷心より厚く御礼申し上げます、会員皆様へのご報告とさせていただきます。

また、保存会では6月に会員継続のお願いと募集を行い、7月に会費の収納をさせていただきますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▶平成10年度事業報告並びに会計収支決算の承認について 〔事業報告〕

10. 4. 6	飛騨・美濃歌舞伎大会実行委員会	下呂町民会館
4.15	県地歌舞伎保存振興協議会総会	下呂町民会館
4.19	福岡町歌舞伎公演	福岡町常盤座
5. 3~4	鳳凰座歌舞伎公演	下呂町鳳凰座
5. 6	役者部会	ささゆり会館
5.22	飛騨・美濃歌舞伎大会	下呂町鳳凰座
5.30	子供役者募集	小学校
6. 2	松本師匠との打合せ	玉屋旅館
6. 8	役者部会	ささゆり会館
6.11	総会	大会議室
6.14	役者部会	ささゆり会館
6.22	会員の継続と会費のお願い	区長会
6.25	松本師匠との打合せ	玉屋旅館
7. 1	明治座清掃	明治座
7. 3	練習開始	明治座
7. 7~19	練習	明治座
8.17~18	練習	明治座
8.20	歌舞伎公演案内状の発送	各町村、保存会
8.20	義太夫、衣装等の借用申請	
8.22~23	練習	明治座
8.30	本部役員会	大会議室
8.31~9.1	知ってるつもりロケ協力	明治座
9. 1	公演に係る職員依頼	役場
9. 3	下郷神社境内借用申請	
9. 1~5	練習	明治座
9. 5	三味合わせ	明治座
9. 6	26周年記念公演	明治座
9.15	東白川歌舞伎保存会公演	はなの木会館
9.18	歌舞伎フォーラム打合せ	明治座
9.19~21	歌舞伎フォーラム	明治座
	全国芝居小屋会議	明治座
10.21	役者部会	大会議室
10.24	おんさい岐阜推進優良団体表彰	県民体育館
11. 2~3	白雲座歌舞伎公演	下呂町白雲座
11.12	本部役員会	一般研修室
12.16	役者部会等反省会	神明山荘
11. 1.23	阿木子ども歌舞伎公演	中津川市阿木
1.25	小学生6年男子打合せ	ささゆり会館
2. 2	役者部会	ささゆり会館
3. 7	中津川歌舞伎公演	中津川文化会館
3.27	犬山お城祭子ども歌舞伎出演	犬山市民会館
4.14	松本師匠との打合せ	玉屋旅館
5.10	本部役員会	一般研修室

歌舞伎保存会会計決算書

【収入の部】 (単位:円)

項目	本年度決算額	本年度予算額	差引額	備考
繰越金	1,281,439	1,281,439	0	平成9年度会計から
補助金	600,000	600,000	0	村補助金600,000
会費	1,183,500	1,220,000	△36,500	一般725,500 法人458,000
祝儀	606,000	550,000	56,000	公演会祝儀
売店収入	0	50,000	△50,000	
出演料	355,000	0	355,000	飛騨美濃5千円 犬山公演300千円
雑収入	104,987	28,561	76,426	反省会会費 預金利息
合計	4,130,926	3,730,000	400,926	

【支出の部】 (単位:円)

項目	本年度決算額	本年度予算額	差引額	備考
会議費	13,760	50,000	△36,240	国民文化祭打合せ 切手代他
旅費	48,100	80,000	△31,900	会長旅費
衣装等使用料	180,948	330,000	△149,052	日吉ハイランド14万 明治座使用料
教授料	986,406	900,000	86,406	松本師匠 他
報償費	40,000	100,000	△60,000	舞台装置協力者(道具方)
消耗品費	106,635	400,000	△293,365	キャスト・ビデオテープ 名刺印刷他
食糧費	412,777	600,000	△187,223	役者等昼食 夕食 子供練習飲食物
交際費	119,135	100,000	19,135	公演会祝儀 会費 香典 見舞他
宣伝費	233,047	350,000	△116,953	ポスター・チラシ 新聞折り込み
研修費	69,050	200,000	△130,950	他県視察交流会
備品費	575,667	400,000	175,667	ジャンパー 被褥 椅子 他
犬山公演費	344,353	0	344,353	3月27日(日) 愛知県犬山市
飛騨・美濃公演費	163,760	0	163,760	5月22日(日) 益田郡下呂町
公演会助費	200,785	0	200,785	
予備費	0	220,000	△220,000	
合計	3,494,423	3,730,000	△235,577	

差引

4,130,926円 - 3,494,423円 = 636,503円

差引残高 636,503円を次年度へ繰越します。

会計監査報告

平成10年度加子母歌舞伎保存会会計につき平成11年5月27日に監査を行ったところ、通帳、会計簿、関係書類等適正に処理されていたことを報告します。

平成11年6月15日

監査員 田口伊蔵 印

佐藤芳美 印

▶平成11年度事業計画並びに会計収支予算の承認について
〔事業報告〕

11. 4.27	松本師匠との打合せ	玉屋旅館
4.28	袈裟と盛遠打合せ	明治座付属棟
5.10	本部役員会	ささゆり会館
5.14~16	創作芝居練習開始	明治座
5.19	練習	
5.20	松本師匠打合せ	
6. 2	子供歌舞伎役者募集	小学校6年生
6. 8	役者部会	ささゆり会館
6.15	総会	ささゆり会館
6.	本部役員会	
6.	総務部会	
6.	財務部会	
6.	運営部会	
6.28	練習開始	
8.	袈裟と盛遠(プロ役者指導)	
8. 4	広報開始	
9.18~19	袈裟と盛遠公演	
10.23	国民文化祭福岡町子ども歌舞伎大会出演 〔白浪五人男〕	
10.31	加子母歌舞伎公演・国民文化祭地歌舞伎大会	
11.	役員、役者部会反省会	
3.	本部役員会	

本部役員会並びに各部会については、適宜必要に応じ開催

歌舞伎保存会会計予算書

【収入の部】 (単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引額	備考
繰越金	636,503	1,281,439	△644,936	平成10年度繰越金
補助金	600,000	600,000	0	村補助金600,000
会費	1,183,500	1,220,000	△36,500	一般725,500 法人458,000
祝儀	20,000	550,000	△530,000	公演会祝儀
雑収入	23,997	78,561	△54,564	バザー収益 貯金利息他
合計	2,464,000	3,730,000	△1,266,000	

【支出の部】 (単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	差引額	備考
会議費	50,000	50,000	0	本部役員会他
旅費	80,000	80,000	0	会長他出張旅費
衣装等使用料	200,000	330,000	△130,000	日吉・イランド(衣装) 幸備上料地
教授料	500,000	900,000	△400,000	松本師匠関係者 師匠助代池
報償費	100,000	100,000	0	舞台裏方手伝い雇用他
消耗品費	200,000	400,000	△200,000	用紙代 印刷代 手数料 道具材料代他
食糧費	500,000	600,000	△100,000	関係者昼食 夕食他
交際費	120,000	100,000	20,000	各町村公済会費 祝儀 香具 見舞他
宣伝費	60,000	350,000	△290,000	電子ポスター印刷代 公演会誌品代
研修費	300,000	200,000	100,000	三ヶ町村交流会 視察研修他
備品費	50,000	400,000	△350,000	練習用備品 電作製 支柱台製作他
予備費	304,000	220,000	84,000	
合計	2,464,000	3,730,000	△1,266,000	

◎ 国民文化祭関係経費は村の一般会計で予算計上

▶加子母歌舞伎保存会役員の改選について

—新役員の皆さんご苦勞様です—
一期2年任期の役員改選案を上程し、慎重に審議の結果全員が留任となりました。〔3期目〕

役職名	氏名	地区	
会長	田口茂雄	小和知	
副会長 (2名)	内木芳郎	中桑原	
	桂川勝典	中切	
会計	今井辰夫	万賀	
部会長	総務部会	安江定人	上桑原
	財務部会	田口一心	中桑原
	運営部会	嶋崎隆	角領
	役者部会	内木恒治	番田
監事	田口伊蔵	小和知	
	佐藤芳美	二渡	



国民文化祭・ぎふ'99
全県まるごと民俗芸能フェスティバル

地歌舞伎大会
in
かしも

10月31日(日)
於・明治座

No.199 (1999年8月20日発行)



マスコミキャラクター
ぷらすくん

国民文化祭りふ'99

地歌舞伎大会 in かしも



★期 日 平成11年10月31日(日曜日) 午前10時00分開演


★場 所 明治座(加子母村下桑原)

★出演団体・外題

- ◆片野尾小学校子供歌舞伎(新潟県佐渡)【勅進帳】
- ◆片野尾歌舞伎保存会(新潟県佐渡)【繪本太功記十段目・尼ヶ崎閑居の場】
- ◆長野県大鹿歌舞伎保存会(長野県大鹿村)【神室矢口の渡・頓兵衛住家の場】
- ◆東白川村歌舞伎保存会(岐阜県)【一谷嫩軍記・熊谷陣屋の場】
- ◆加子母歌舞伎保存会(岐阜県)【元祿忠臣蔵・南部坂雪の別れ】

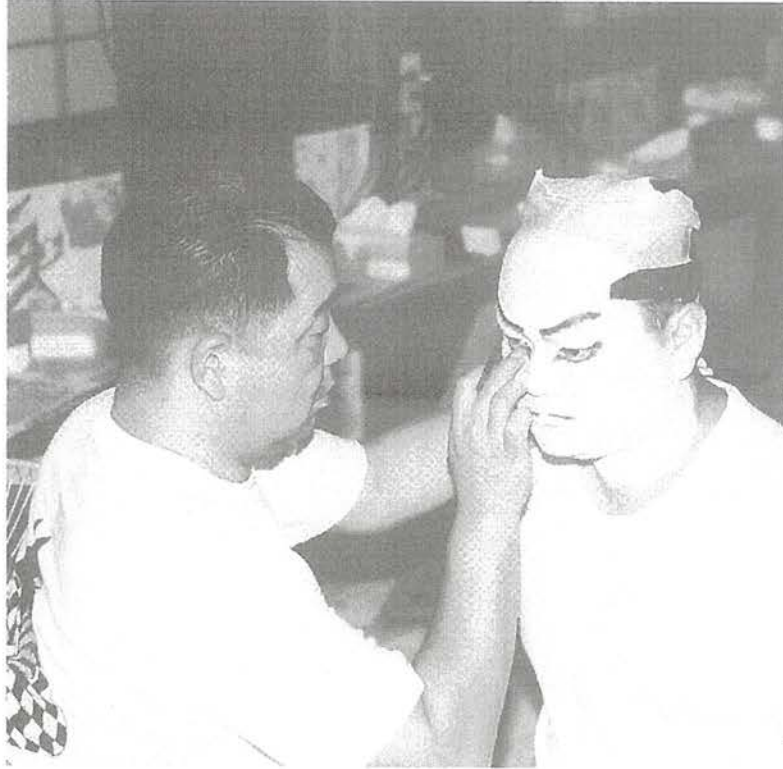
★みどころ 片野尾歌舞伎、大鹿歌舞伎保存会はその土地に伝わる歌舞伎を保存し、伝承しておられ、衣装なども手作りです。

地歌舞伎が熱演します。どうぞご期待下さい





尾上辰夫さんから顔づくりの指導を受ける正樹さん



風を感じます

— 老いも若きも明治座の仲間がいっぱい —

三浦 正樹 (みうら まさき)

小郷あでちに生まれる、1男2女の父。
創作芝居『製袋と盛遠』では盛遠役を
熱演、拍手喝采を浴びる。



盛遠を熱演する正樹さん

(左から衣川役の吉田豊巳さん、装束役の小川知子さん、遠藤盛遠役の三浦正樹さん)



平成十二年九月十八日午前十一時。昨日までの大荒れの天候が嘘のように、とても心地よい秋空の下、今年も幕が開きました。

明治座歌舞伎フォーラムに参加して四年目。不思議と昔から続いてきた事が始まるような気がします。そして装束と盛遠。なんか自分達の芝居だという気持ちになってまいりました。ここに集まってくる人達皆いい顔しています。

この芝居に参加し出して三年目。毎年この時期になると、俄か役者にも胸の高鳴りが隠せません。良い感じの緊張感。ほんとに良いんですよ。

歌舞伎役者の尾上辰夫さんに演技指導を受ける正樹さん



オーリパーのオリアパーさん「おぬいねー!」

私は歌舞伎保存会に入って八年くらいで、正直言って歌舞伎と言ったものが十分腹に入っていない。そんな俄か役者を相手にして下さった多くの仲間たち、プロの役者さんたち、舞台創造研究所のやさしいお兄さん方をはじめとするその道のプロの方々。よくそしびれを切らさずお付き合い頂きました。感謝 感謝

普通、歌舞伎やお芝居などは、観るのが一般的な参加のカタチなのですが、それに加えて明治座歌舞伎フォーラムは、参加しやすいカタチ、と言うよりは、参加してもらわないと始まらないのです。私達役者は舞台上がるので参加しているというところが見ても分かりやすいのですが、実は本当にすごい人数の裏方といわれる人達がいたんです。大道具、小道具、制作、炊き出し、照明、音響、受け付け、その他本当に多くの人達が数ヶ月からの準備・練習から公演後の後片付けまで、汗を拭き拭き頑張っていました。公演の途中シンポジウムというのがある、アナウンサーの鈴木さん、葛西さん、プロの役者の中村さん、尾上さん、そして歌舞伎保存会の四人が舞台でこのフォーラムについて語るといのがあったのですが、そこで葛西さんも「この器の向こうにいっぱい裏方さんがいて、幕を外して皆さんにお見せしたいくらいです。」と言ってみえました。

多くの人に支えられてこの芝居が出来ている事の素晴らしさ。そういう事を皆で共有できる喜び、感激です。参加できて、ラッキーだったなあと思っております。

長野県から私の知り合いが観劇に来てくれたのですが、後で電話したときに、「皆一生懸命やっていて、明治座って、加子母の人達って凄いな。」と聞いていました。「福刈りさばって来た甲斐があった」と。それ聞いて、益々嬉しくなりました。

ここでちょっと稽古の裏話なのですが、初代遠藤盛遠役を演じられた松竹の尾上辰夫さんをみなさんご存知でしょうか。化粧、衣装で変身して舞台上がったときに、似ているらしいんですよ。私が、辰夫さんに(体系的に)。そこで、稽古のとき辰夫さんが居ない隙に、ふざけてものまねをやってみたんですが、中村歌女之丞さんにおおかけで、それ以来、辰夫さんが一俺の前でもやってみろっ! って怒られてました。もうさんざんと、ちめられましたね。

明治座歌舞伎フォーラムは、風起こし事業と言うやつですが、正直言って最初は「風起こし何それ?」って感じでした。皆それぞれ都合もあって、良い顔ばかりではありませんでした。でも最近少しずつ変わってきたと思います。皆で創り上げることの意味。風が起きて、皆を巻き込んで行く感じがします。年々参加しているうちに、だんだん言葉の意味が分かってきました。たしかに風が起きました。そしてだんだん大きくなります。



そして、より多くの方にこの風を感じてもらいたいと思います。

長い間見守ってくれた家族に感謝。そして何より、多くの仲間たちに感謝。本当にありがとうございます。

今年挑戦した『装束と盛遠』その二のラストシーン (右から衣川役の吉田豊巳さん、渡邊 亘役の安江恒明さん、遠藤盛遠役の三浦正樹さん)



「特集」

国民文化祭・ぎふ'99

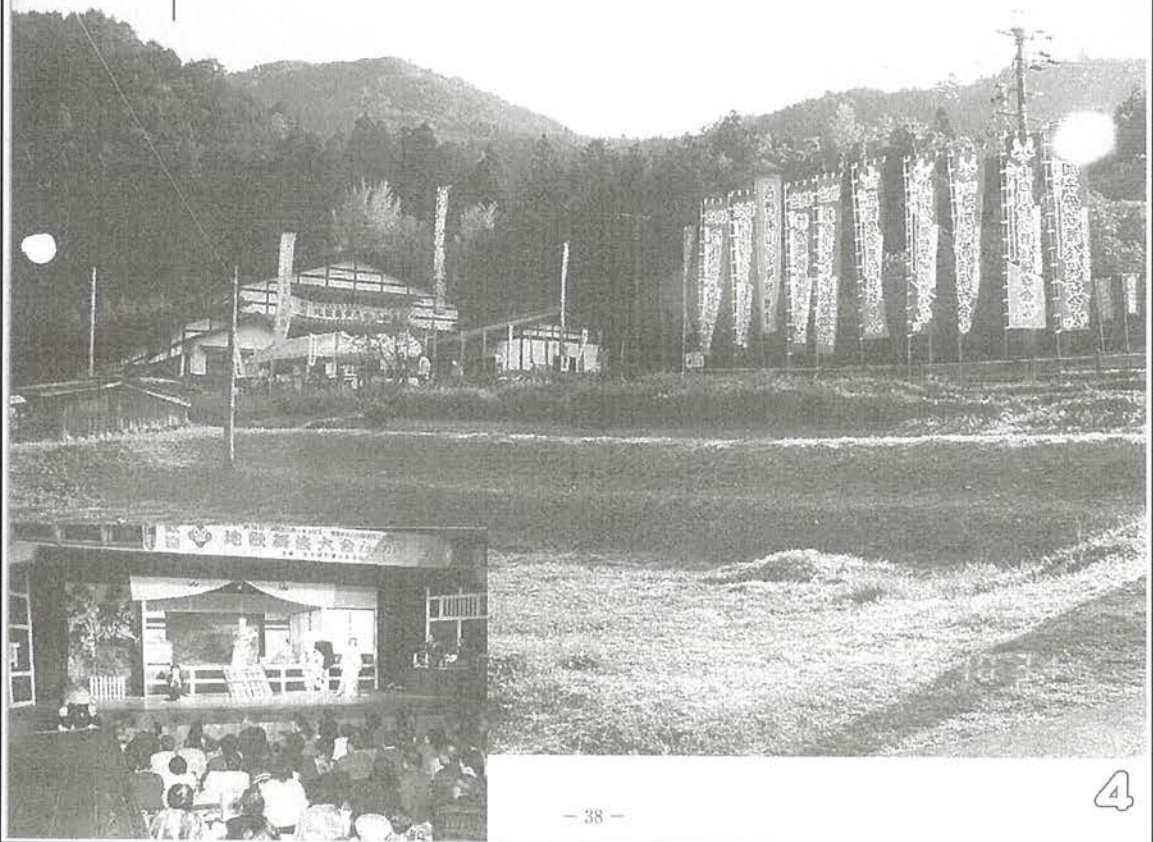
「地歌舞伎大会 in かしも」

— 佐渡、大鹿、東白川から来村 —



新潟県両津市からは片野尾小学校全校児童14人による「勸進帳」(右上)が披露され、観客から割れるような拍手喝采を浴びた。片野尾歌舞伎保存会は「榎本太功記十段目・尾・純閨扇の場」(右下)、長野県大鹿歌舞伎保存会は「神靈矢口の渡・御兵衛住家の場」(左)、東白川村歌舞伎保存会は「一の谷嵐軍記・旗谷陣屋の場」(下)をそれぞれ熟演。

参加団体の機旗が立ち並ぶ明治座



十月二十三日から十一月三日まで岐阜県で第十四回国民文化祭・ぎふ99が開催され、県内各地で多種多様な文化行事が開催されました。

明治座をはじめ、周辺の芝居小屋でも地歌舞伎の公演が行われ、十月二十三日、福岡町の常盤座で行われた地歌舞伎大会には加子母の子供歌舞伎が「白浪五人男」を好演。おひねりが飛び交う中、割れるような拍手喝采を浴びました。

そして迎えた十月三十一日小春日和。明治座では「地歌舞伎大会inかしも」と題して新潟県津波からは片野尾歌舞伎保存会と片野尾学校長野原からは大鹿歌舞伎保存会、そして東白川村歌舞伎保存会を迎えて、地歌舞伎大会が盛大に開催されました。

各地域の情をかけた熱演が繰り広げられ、全国各地から訪れた観客の皆さんは、芝居小屋での秋の一日を満喫していました。

国 民文化祭は、全国各地で一般の方々が見学から行っている文化活動を全国的な規模で発表し、観覧し、交流する場を提供することで広く文化活動への参加を促し、そして地域文化の振興に寄与することを目的に、昭和六十一年度の東京都大会を皮切りに、各都道府県で順次開催されている国民文化の祭典です。



振起こし応援団の販売する押印グッズに新たにTシャツ、トレーナーも加わってなかなか好評でした。



農産物などの特産品販売もおこなわれ、村外から訪れたお客さんに好評でした。

大道貝の皆さんもキキッと舞台裏を動きまわっていました。



小学校屋内運動場で行われた交流会では、加子母太鼓をはじめ、参加団体から舞上五輪などが披露され、あたたかい雰囲気の中で交流が行われました。



食事は明治座裏の特設食堂(3)で美味しいウーライス。



開会に先立ち二鼓獅子舞による獅子舞が披露されました。

私と歌舞伎



実は古良物の冠者だった慶元お梅(星名晶子さん)は内蔵之助が残っていた巻物を盗もうとして、戸田の局(三尾千里さん)と慶元らに捕り押さえられた。(右から島崎明美さん、木間春代子さん、星名晶子さん、中島千鶴さん、三尾千里さん、田口今日子さん、吉田香織さん)

私は六年生の時、初めて歌舞伎をやりました。その時は、絵本太功記の十次郎の役をやらせていただきました。セリフの話し方がとても難しく、本番はとても緊張しましたが、楽しくてきました。「またやりたいね」とみんなで言っていました。

そして中学三年になり、歌舞伎をやらせてもらえる機会があったので、参加させて頂きました。私の役は六年生のときと違い、セリフのない少ししか出ない役ですが、この役にぴったり合った演技ができるように、練習を一生懸命行いました。練習日が学校のテスト前だったので大変でしたが、練習の合間に勉強をすることができました。それに女役は初めてなので、歩き方や座り方を教えていただきました。どの方も親切に教えてくださり、とても嬉しかったです。

本番が近づくにつれて、練習の雰囲気も変わってきました。本番前日には明治座のセットができ、それを見ると少し緊張しました。

そして、三味合わせの最後の練習がありました。いつもの練習と違い、ライトが当たったり、他の歌舞伎保存会の人たちが見ている、とても緊張しました。それに自分の歌舞伎が、こんなレベルの高い中でやっていると、少し心配にもなりました。

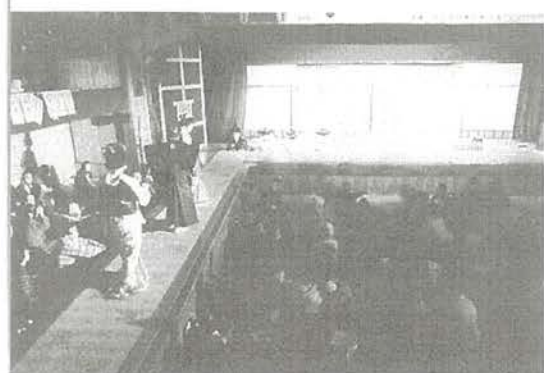
次の日、午後から加子母の歌舞伎の人たちの化粧が始まりました。私の歌舞伎の好きなところのひとつが化粧なので、どんな顔になるのか楽しみでした。

化粧が終わると、舞台裏の腰元の部屋へ戻ると、頭の下げ方や座り方を練習していました。私も中に入り、自分の自信のないところを覚えてもらったら、



中島 千鶴 (なかしま ちづる)

千鶴さんは小郷の花木屋中島直樹さんの娘さんです。現在加子母中学校の三年生。今回参加した中学生の増員さん、今日子さん、香織さんと、しっかりとした演技で観客を魅了してくれました。



故郷野内近頃長延の表阿久里は髪を切り延泉院になり南無の屋敷に戸田の局とつつましく住ましている。元禄十五年十二月十四日討ち入りをするに元長野家老大石内蔵之助は延泉院を尋ねる。

ふるさと人の☆ (もり)

大きな達成感を持ってました。

カツラを合わせる千鶴さん



福原院(吉田亜紀さん、中央)は大石内蔵之助(徳増成徳さん、右)に仇敵打ちの意を尊ねる。本心とは裏腹に、気のないうちを振り廻す内蔵之助にたまりかねた福原院は亡き王将の位牌を手にして内蔵之助を捕縛し、それを止める川田(岡三三郎千鶴さん、左)

前日の心配がなくなりました。そして本番、私は花道の裏で出番を待っていました。その間、もう一度自分の役の動きを練習しました。練習をしても落ち着かず、すごく緊張していました。落ち着くことができないまま出番が来ました。緊張で手が震えました。最後に練習したときのことを思い出しながらできました。きつよ今まで

で一番この役に近づけたと思います。それで、度目に登場したときには、落ち着いて演じることができました。今回、この歌舞伎に参加させてもらえ、とても嬉しかったです。練習は大変でしたが、今はその練習のおかげで、大きな達成感を持ってました。練習の中で親切に教えて下さった方がいたからです。ありがとうございます。

ました。また機会があったら、参加させていたきたいです。



南無の屋敷を出るとすれ違い越しに月の明かあったと因縁をつける清水一角(伊藤衣子さん、右)大っぴらにしている内蔵之助に、角はなぜか今夜と野合はまちがいなく屋敷にいると告げる。



大石らが吉原邸に打ち入り、本懐を遂げたの知らせを聞いて喜ぶ吉右衛門(細野弘志さん)が南無の屋敷に駆け付ける。

11/21 思わず目頭が熱くなる

－ 第7回飛騨美濃歌舞伎大会 －

飛騨・美濃の地芝居の伝統を受け継いで保存している4保存会が参加して、歌舞伎大会が下呂町門和佐の白雲座で開催され、加子母村からも保存会が参加しました。芸題は「南部坂雪の別れ」で、村の歌舞伎大会でも披露されました。腰元役で小学生が登場し、すっかり大人の女性役にはまっていました。

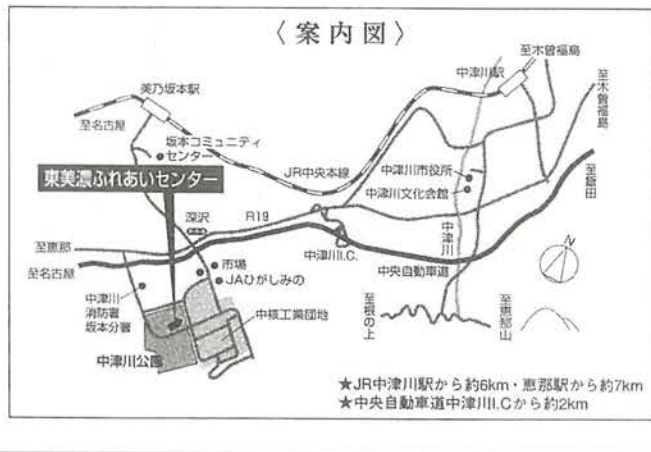


元禄忠臣蔵「南部坂雪の別れ」を熱演する、左から三尾千里さん、瀬瀬盛七さん、吉田亜紀さん

● ウェルカム21ぎふ 東濃圏域メインイベント

5月26日(金)から28日(日)の3日間、中津川市にオープンする「東美濃ふれあいセンター」を会場に「出会い 技・人・道」をテーマに「陶器文化」と「道の文化」の融合による食と器と芸能三昧の「東濃歌舞伎祭2000」と「食と器の祭典2000」の2つのイベントを同時開催します。

東濃地域の歌舞伎が一同に会し、一挙に上演されます。28日(日)には、加子母歌舞伎保存会による「義経千本桜 鮎屋の段」が上演されます。多数ご来場下さい。



☐ ウェルカム21ぎふ・東濃

5月26日(金)、27日(土)、28日(日)の3日間東濃カブキまつり2000・食と器の祭典2000が中津川市の東美濃ふれあいセンターで行われました。全国一の地歌舞伎の盛んな東濃で初の試みとなった当会場で、東濃の16の歌舞伎保存会が出演し、加子母歌舞伎保存会は「義経千本桜 鮎屋」を力演、観客から拍手喝采を浴びました。また、食と器の祭典では人間国宝をはじめとする陶匠の技の展示も開催され、列が途切れることなく、好評のうちに閉幕しました。



加子母歌舞伎保存会からのお知らせ

平成11年度加子母歌舞伎保存会決算書

《収入の部》

項目	決算額	予算額	比較増減	備考
繰越金	636,503	636,503	0	前年度繰越金
補助金	600,000	600,000	0	村からの補助金
会費	1,159,000	1,183,500	△ 24,500	
祝儀	0	20,000	△ 20,000	
雑収入	292,427	23,997	268,430	美濃飛騨歌舞伎 国民文化祭 芝居小屋会議等 出演料等雑入
			0	
合計	2,687,930	2,464,000	223,930	

《支出の部》

項目	決算額	予算額	比較増減	備考
会議費	37,200	50,000	△ 12,800	打ち合わせ会議他
旅費	75,000	80,000	△ 5,000	会長等出張旅費
衣装等使用料	0	200,000	△ 200,000	
教授料	9,750	500,000	△ 490,250	三味線御礼他
報償費	0	100,000	△ 100,000	
消耗品費	46,420	200,000	△ 153,580	カセットテープ等・道具材料等
食料費	279,272	500,000	△ 220,728	反省会費・代表者会議
交際費	183,430	120,000	63,430	各町村公演会祝儀・慶弔費
宣伝費	12,905	60,000	△ 47,095	冊子・ポスター印刷代等
研修費	112,000	300,000	△ 188,000	新潟県片野電視研修費
備品費	0	50,000	△ 50,000	
予備費	170,630	304,000	△ 133,370	美濃飛騨歌舞伎大会負担金・その他
			0	
			0	
合計	926,607	2,464,000	△1,537,393	

収入合計 2,667,930
 支出合計 926,607
 差引額 1,761,323

左記のとおり収入総額から支出総額を差し引いた
 1,761,323円を平成12年度に繰り越します。

加子母歌舞伎保存会の会計を監査したところ、昨年は国民文化祭等のイベントがあり、支出が若干小増ですんでおり大きな繰越金が発生したのと思われるが、帳簿・通帳とも適正に処理されておりましたのでその旨報告します。

平成12年7月11日

監査委員 田口伊蔵 監査委員 佐藤芳美

7月11日に今年度の歌舞伎保存会定期総会を開催し、事業報告及び決算報告そして平成12年度の事業計画と予算について審議をしていただき、いずれも原案どおり可決されました。会員皆様の尊い会費によって、充実した活動を行うことができ関係者一同心より厚く御礼申し上げます。

会員皆様へ決算報告をさせていただきます。

加子母歌舞伎大公演会のお知らせ

恒例の歌舞伎保存会主催の歌舞伎公演が開催されます。

日時 10月1日(日) 午前11時開演

今年の上演芸題

- 一、絵本太功記十段目 尼ヶ崎間居の場 (子供歌舞伎)
- 一、ひらがな盛衰記 源太勘当
- 一、松竹梅だんまり 団升流松扇会
- 一、管原伝授手習鑑 寺子屋の場

稔り多き秋の一日を、熱演地歌舞伎一色の明治座へ是非ご来場下さい。お問い合わせは加子母村教育委員会まで

ふるさと人の心(もり)

保存・継承・育成

—全部自前でやる特色ある加子母歌舞伎を創り出す—



田口茂雄 (たぐち しげお)

大正9年小和加区東に生まれる。昭和48年加子母歌舞伎保存会発足時から会長として地歌舞伎の保存・継承・育成に尽力。現在村の文化財保護審議会委員長として文化財の発掘・保存・保護、伝統文化の伝承振興にあたる。元加子母村議会議長。

江戸時代のはじめ、出雲大社の巫女阿国が京都で当時流行の念仏踊りや狂言を卑俗化して演じた歌舞や寸劇が歌舞伎のおこりだと言われています。以後佐渡ヶ島に舞台を移します。また能楽はというと佐渡の出生と言われるように、同工異曲でしょうか、佐渡には能舞台が古くからあります。

こうしてみますと、歌舞伎は佐渡を出生として全国に広がったのではなかろうかと考えられます。元禄時代の頃か、歌舞伎舞踊が美しい衣裳とともに全国に広がりました。ややもすると華美に流れ、男女沙汰も生じて、時の幕府はきつく取締りました。しかし神社に奉納ということではこれを許可し、民衆は神社の拝殿を利用して歌舞伎を上演、客席は庭にムシロを広げただけ、ナルを借り集めての仮舞台というものでした。

今日でも神社に舞台を構えたものが随所に見られ、飛騨、信州、そして三河にもあります。明治座も、また小郷にあった豊年座、竹原の鳳凰座、門和佐の白雲座、福岡の常盤座等々。また解体された今は無き幾つもの舞台。そのほとんどはお宮の境内にありました。お宮とともに生き、その伝統芸能である地芝居が、今日まで先輩諸氏の熱意と努力により受け継がれてきました。

同好の百姓衆は、話し合いにより芸題を決め、味噌代(経費)を定めて配役をして、師匠を三河や美濃町から頼んだようです。台詞を覚え、雨降りや夜間

を利用して「稽古」し、本番当日は2日間くらい上演したようです。当時は灯明、油、松明などが照明であったようで、雨天は中止。天候の回復を待って行われていたそうです。

以上は古老の話によるものですが、明治中期頃から、村にも師匠が誕生してきました。三浦九三郎氏、古田李太郎氏、高島義造氏などです。その後引き語りの中島正夫氏、日下部泰次氏、桂川芳平氏などは若い者を指導されました。高島家には古くから「カツラ」があり、高島はるさんは床山さんでした。

こんな滑稽な話が残っています。稽古の時、台詞は師匠の口写しということもあり、本番の時に台詞がつまる(忘れる)と客席から見物人が教えてやることもありました。「トベトベ」(抜くこと)と言うので、役者は思わず高台より下へ跳んでしまったそうです。また「千本桜」でのことですが、鼓の藤太が七三で力んだ時、入れ歯が客席に落ち、拾って口に入れるまで太夫も三味線も笑ってしまっていて続けることができず、中断してしまいました。口に入れた藤太は「オイ、太夫、太夫」と呼びかけ、満場は大笑い。これは昭和30年代のことでした。

地芝居の最盛期は明治・大正で、昭和に入ると戦時特色も次第に濃くなり、地芝居を上演することも少なくなり、厳しい時代を迎えました。そのかわりに、戦意を盛り立てるような軍事もの新派劇が、その筋骨書きから民衆にも支持されていきました。



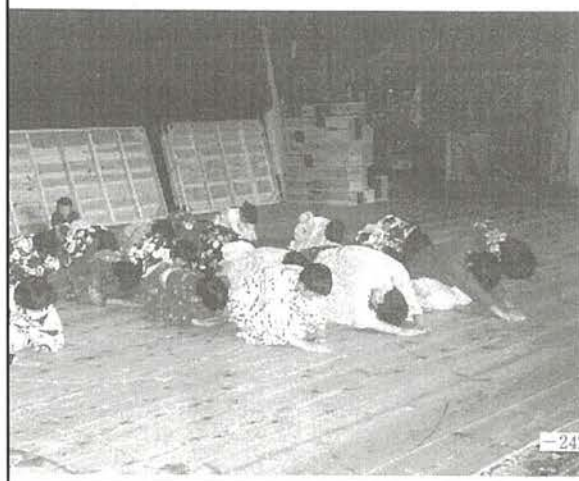
「役者に年なし」子役も重要な位置を占める。

加子母村には、江戸時代より神社祭典に奉納した「獅子舞」と「剣の舞」が各集落に残っています。これは若連として後継者育成に努めている「加子母祭はやし」とともに大切なことであると思います。獅子舞の余興として「祭文」という獅子歌舞伎がありました。それが現在でも継承されています。

忠臣蔵七段目では、獅子を舞った者がお軽を演じ、平右衛門が出（で）役として顔を描き、「かつら」をつけて衣裳は平右衛門用を作って着ます。

忠七の一カ茶屋は、そのサワリだけをやり、太夫は拍子打（太鼓）（笛）の者がやる三味線なし。芸題は「神霊矢口の渡し」出役「義峰公」「六造」お舟は獅子を踊った者「忠三」勘平獅子出役は「判内」とその家来3人「忠五」山崎街道「定九郎」「与市兵衛」「朝顔日記大井川の段」「阿漕ヶ浦平次住家の場」唄祭文「鈴木主水」「野崎村」「阿波の鳴門巡礼おつるの別」「刺捕差」「新派金色夜叉」大正・昭和頃より、これにかかわりのあった先輩衆の達者な頃まで続き、戦後も30年代まで細々と継承されていました。これらが今日の加子母村の地芝居の前進であることは言うまでもありません。この獅子芝居をやることにより歌舞伎への興味がわいてきました。

戦後復興の時代には、三河、尾張の歌舞伎、新派の劇団、活動写真、浪曲など上演演目も多彩でしたが、トーキー映画が台頭し、テレビジョンが普及するとともに、こういった大衆娯楽が次第に少なくなり、時代とともに庶民の趣味も変わっていきました。



東濃を囲む界限では、20余りを数える歌舞伎保存会がありますが、山岡町の松本団升師匠を擁するものと、また恵那市の中村津多七師匠、中村高女師匠ありて東濃の地歌舞伎として発展してきました。

師匠に一切を頼み、演ずる人だけいれば成り立つ地歌舞伎であり、両師匠の指導力と功績、そして役者衆の努力により、成り立ってきた地歌舞伎です。



歌舞伎の化粧方法を基本から教わりました。全部自分でできました。「でも、あなたは誰なの？」

私の考える加子母地歌舞伎は、振り付けも顔師も衣裳も自分で作り、太夫も三味線もカツラも全部自分でやる特色ある加子母歌舞伎を作り出すことです。

加子母村には、明治座という他に比類なき文化の殿堂があります。東濃歌舞伎保存会では、太夫、三味線、大道具方の養成講座が始まり、加子母歌舞伎保存会からも講習会に参加して、技術の習得を図っています。こうした文化の殿堂明治座とともに、特色ある加子母地歌舞伎の保存と継承と育成が地道に行われています。

現在「子ども歌舞伎教室」が定期的に開催されていますが、特に後継者の育成として、子ども歌舞伎に力を入れていかなければならないと思っています。加子母ならではの、特色ある文化を次世代へと伝えていくことで、子どもたちは自分たちが育った郷土に誇りを持ち、先人が培ってきた文化の継承者として、また次世代へと承継し、地域の文化が熟成されていくのだと思います。

稽古は礼節が大切。歌舞伎役者の中村又一さん（左手前）からおじぎの仕方を教授される子どもたち。（第2回子ども歌舞伎教室から）



9日は、一般公開。三日連続公演も大盛況の内に幕を閉じました。

加子母歌舞伎公演

—敬老会開催—

9月8日(土)、15日の「敬老の日」に先駆け加子母村の敬老会が明治座で開催されました。今年は、敬老会のための加子母歌舞伎特別公演として、心中宵庚申や子供歌舞伎などの芸題が演じられ、敬老を迎えられたみなさんを楽しませてくれました。

連日熱のこもった練習をしてきた役者さん。その芝居のうまさには会場のみなさんは、終始引き込まれていました。

舞台裏の仕掛けに興味津々

—明治座を見学—

8月20日(月)、武蔵野美術大学(東京都小平市)の学生21名が、明治座を訪れました。全員が女子学生で、村の職員らから明治座誕生の話や地歌舞伎との関連について説明を受けると、熱心にメモを執る姿も見られました。また、舞台裏へ行くと役者控え室の壁の落書きについて説明を求める場面や、回り舞台をまわしてみたりとチャレンジ精神旺盛のみなさんでした。こうした明治座の見学者は、年々増えています。



とにかく元気な学生さんばかりでした。

300年前の
喜怒哀楽を
味わえ

その力は、芸術文化が 歴史が伝統が...



歴史や伝統をもっている国は、それに触れることによって過去の社会や、ときには未来の想像時代にさえ移動することができるが、それを持たない国、あるいはそれを抹殺されてた国は、その世界へ移動することができないばかりでなく、未来の夢さえ失っている。昔ある人から、台湾の某大学教授の著書を買ったことがあった。その書には、嘗てアフリカに古い高い文化があったが、西欧の植民地時代に失われてしまったと書かれていた。私はアフリカに、そんな文化があるとは全く知らなかった。そのとき思い出したのは、第二次大戦後のアフリカ諸国の独立にまつわる事件である。アフリカには少数民族が多くあるため、たくさんの小国が生まれ、民族間で絶えず抗争が繰り返されて、指導者や市民が大勢殺されたり、餓死者を出したり、子ども達が瘠せ衰えて骨と皮ばかりになっていることだった。私はそうした事実から、アフリカ人は国づくりのできない未開人の集まりだと思っていたが、読んでいる中に、アフリカで国づくりが難しかったのは、民族の文化が抹殺されたためだったと思うようになった。文化とは言葉を変えていえば、国づくりのために持っている民族の力の原泉であるともいえる。アイデンティティの中味がそうである。

アメリカ大陸を発見したコロンブスも、偉大な冒険家で偉い人だと思っていた。しかし大陸発見の結果、原住民の国や文化が亡んで、いま子孫は生物学的に生きているだけである。インカ帝国の、あの西欧にも匹敵する高度な文化も消滅してしまった。コロンブスは偉大な冒険家かもしれないが、偉い人ではない。

昭和48年9月26日、加子母歌舞伎が復活した。芝居好きな連中が開幕に向けて総力を挙げて取り組んだ。(写真はすべてこの日撮影)
忠臣蔵七段目一力茶屋の場。安江清三さん(左)演じるお軽と田口貞夫さん(右)演じる寺岡平右衛門。

絵本太功記尼ヶ崎閑居の場 左から初菊を演じる中島政夫さん、光秀を演じる田口唯夫さん、十次郎を演じる内木恒治さん。



9月30日に明治座で「第9回飛騨・美濃歌舞伎大会かしも」が催され、東白川歌舞伎保存会が「絵本太功記 尼ヶ崎閑居の場」、東濃歌舞伎中津川保存会が「増補八百屋献立 新朝、八百屋の段」、下呂町の鳳凰座歌舞伎保存会が、「御所桜堀川夜討 弁慶上使」、加子母歌舞伎保存会が「いろは仮名四十七訓 義士十二刻 潮田又之丞」を上演した。戦前からの伝統ある歌舞伎地域で、しかも松本団升さんや中村高女さんという素晴らしい師匠を得ているため、どの保存会のも見ごたえのある立派なものだった。



一の谷嫩軍記熊谷陣屋の場 三浦喜與次さん(中央)演じる熊谷と梅田郁夫さん(右)演じる義経。



若い人や子供達の参加もあり、後継者も育成されている。関係者のご努力に敬意を表すると共に、何よりも良かったことは、私達を三百年の昔へ連れて行って、泣いたり、喜んだり、笑ったり、怒ったりさせてくれたことである。この点価値観の違う若い人達も私達老人も全く同じであった。鳥目を治して親を討ち入りに参加させるため、若い娘が死んでその生き血を親に飲ませるとか、主君の正室の身代わりにわが娘の首を差し出すとか、謀反をおこした武将であるわが子を、開戦を前にして諫めるとか、現代ではおよそ理解できない世界を見ながら、つい引き込まれてしまうのは、芸か文化か歴史か伝統かの力であろう。それにしても私達の現代生活が、果たして三百年後の私達の子孫を現代まで連れてくる力があるだろうか、考えさせられるのである。

(加子母村長 弼川真策)

義経千本桜道行初音鼓吉野山 佐藤茂次さん演じる早見の藤太を先頭に、家来役の今井初雄さん、村橋 修さん、桂川 聖さん、梅田光政さん。

子どもの時とは違った目で歌舞伎を見ることができました。



吉川千穂 (はしかわ ちほ)

万賀区徳吉屋に生まれる。6歳から日本舞踊を始め、それが縁で小学3年生の頃から地歌舞伎に出演するようになる。今年明治座で開催された「加子母歌舞伎公演」と「飛騨美濃歌舞伎大会inかしも」では、義士十三刻でおみつ役を好演、中学卒業以来の舞台となった。現在加子母歯科診療所で歯科衛生士として勤務。患者さんをいつも笑顔で迎えてくれる。スノーボードが趣味の快活なお嬢さんである。

今年の春、加子母の歯科診療所に就職しました。その関係でよく「何処の子や」と聞かれます。「万賀の吉川やに」と答えると、「踊りをやっと思った子か」と返ってくることがあります。覚えてくれていたんだと、うれしく思うことがあります。

保育園の時に松扇会しょうせんかいに入り、日本舞踊を習っていました。それが縁で小学3年生から中学3年生



歯科診療所でも全力投球!

まで歌舞伎をやらせていただきました。安寿、おみつ、小坊主、腰元、家来などの役柄をやった覚えはありますが、どんな芸題に出ていたか忘れてしまいました。身近に歌舞伎をやる子どもがいなかったのも、人と違ったことができるという満足感と、顔を作ってもらい、着物、かつらを付け、役を演じる非日常的なことが、ただ楽しかったことを覚えています。その後は、しばらく加子母を離れていたのですが、また、舞台上に上がれるとは少しも思っていまいませんでしたが、松扇会で一緒だった方に誘われて、十年ぶりに歌舞伎をやらせていただくことになりました。懐かしいなあと感動する反面、周りの方の足を引っぱってしまうのではないかという不安と緊張が日に日に大きくなっていきました。

そんな中で、多くのことを学ばせてもらいました。演技の面では、諸先輩方に本番直前までアドバイスを頂きました。客席の人に分かりやすい話し方、演技、どうやったら女らしい仕草になるかなど、



舞台裏は本番を前にして着付けやかつらの支度で大忙し。

いろいろな角度から、細かい、的確な指摘を受けました。「ここでは、この人はこう思っているから、こう動いた方がいいのでは」といったふうに、一つの動きにどんな意味があるのかを理解して演ずることができました。それを本番に、十分発揮できていたかは疑問の残るところです。

そして、歌舞伎に参加して多くの人に出会いました。3年半前に加子母に帰ってきていましたが、福岡町に勤めていたので、加子母の人と関わることはほとんどありませんでした。稽古が始まってからの3ヶ月の間に、役者さんを始め、歌舞伎保存会の方、裏方さん、子役の子、幅広い人と会い、話しをすることができました。例えば、アトリエ村があることは知っていましたが、どんな方が住んでいるのか、場所さえ知りませんでした。実際に会うことができ、場所も分かりました。“芸術

家”といわれる人とは一生縁がないと思っていた私にとって、大きな感動でした。加子母の新たなところを知るいい機会になりました。私は人見知りをするほうで、自分から話しかけることは苦手でした。「この人とは話せないだろう」と決め付けてしまい、話しをせず、自分から避けていました。子役の子とも、どんなことを話せばいいのか、最初は戸惑っていました。「今日、学校で何したの」とか、ありきたりな話題から話すようになり、今では、何を話そうと構えなくても、話せるようになりました。話しをしてみても、相手を知ることができ、自分のことも知ってもらえることを学びました。

子どもの時とは違った目で、加子母歌舞伎を見ることができました。ここでは書ききれないほど、得るもの、考えることが多くありました。貴重な体験をさせていただいてよかったですと思っています。歌舞伎に携わったすべての方に感謝しています。



鳥屋口で出番を待つ。緊張で心臓がバクバク。



おみつを演じる千穂さん。細かい所作に客席の目が注がれる。

小・中学校では、来年度から完全週五日制になると聞きました。家族で交流を深めることも大事なことです。歌舞伎という伝統文化を通じて、普段交流のない人と、歌舞伎というものについて知り、一つの舞台を完成させていくのもいいことだと思います。明治座という貴重な建物で、加子母歌舞伎が若い世代に受け継がれていくことを願っています。

4つの歌舞伎保存会が参加

— 第9回飛騨・美濃歌舞伎大会かしも2001 —

9月30日(日)、「飛騨・美濃歌舞伎大会かしも2001」が明治座で開催されました。午前9時の開場と同時に多くの歌舞伎ファンが訪れ、東白川歌舞伎保存会の絵本太功記で幕を開けました。続く東濃歌舞伎中津川保存会の増補八百屋献立で笑いを誘い、鳳凰座歌舞伎保存会の迫真の演技に魅せられました。最後は加子母歌舞伎保存会の義士十二刻が演じられ、子役の演技にたくさんのおひねりが投げ入れられる場面もあり、大会は大盛況のうちに幕を閉じました。



▲迫力ある演技に圧倒されました。

明治座で歌舞伎を体験!!

— 6年生歌舞伎教室 —



「う〜んなかなかの立ち(刀?)振る舞い」

11月20日(火)、創作歌舞伎「袈裟と盛遠」でおなじみの歌舞伎役者、中村歌女之丞さん、中村又之助さん、中村又一さんを迎えて、明治座で歌舞伎教室が開催され、小学校6年生が授業の一環として歌舞伎

の立ち回りや歩き方など歌舞伎の基本動作について習いました。ほとんどの子は初めての経験で、三人の先生の手ほどきを受けながら、きこちない動きながらも真剣に取り組んでいました。当日は、回り舞台を回したり、スツボンから登場したりと、舞台の仕組みも勉強しながら、明治座の隅から隅までを見学しました。

歌舞伎保存会からのお知らせ

村歌舞伎! 明治座とともにあれから30年

昭和47年に明治座が岐阜県の重要有形民俗文化財に指定されたのをきっかけに村内の歌舞伎を愛する人たちの心が燃え上がり、明治座でもう一度歌舞伎をとという情熱から加子母歌舞伎愛好会として再興され、松本団升師匠を指導者にお願ひし、歩み始めて30年が経ちましたが、時の流れの速さを痛感するものです。

その間、昭和49年にはNHKの新日本紀行「村の一座」で親子が歌舞伎を伝承している姿を取り上げていただき、全国へ初めての情報発信をすることができましたし、昭和50年からは青年団の参加があり、舞台を一層華やかなものことができました。それから定期公演はもとより飛騨・美濃歌舞伎大会を始め東濃歌舞伎大会、全国芝居小屋会議、国民文化祭地歌舞伎大会などの大会や松竹大歌舞伎役者のみなさんとの共演などを明治座で開催し、伝統文化を継承して参りましたが、時の流れとともに歌舞伎を再興してくださった諸先輩方が、借しくもこの世を一人二人と去られてもう数名の方しか生存をされていませんのが残念な過ぎりです。

一言に歌舞伎公演と言いましても公演するためには多額の費用を要し、役者として練習をしながら村内の各業者様を回り、寄付を集めてプログラムをつくり、やっと公演に漕ぎつけ、一回の公演に6から7外題をこなしてまいりましたが、いよいよ行き詰まりをみせはじめ、後継者育成ということで小学校6年生を対象にして募集を行い、子供歌舞伎を取り入れながら一つの節目までを励みとして歩み続け、10周年を迎え20周年を迎え、いよいよ隔年開催の話ができたときに、伝統文化の重要性から村で取り上げていただき、平成8年から発起人会において現在の組織を結成して、広

く村内へ呼びかけ、村民の方や事業所の皆様に会員となっていたことができ、大きな加子母歌舞伎保存会となって、平成9年から運営や費用的なバックアップを受けながら今日までなんとか歩むことができました。



また、他町村の保存会でも同じだと思いますが、歌舞伎は現代的な芝居と違って、独特な形やせりふの言い回し(こわいろ)がなかなか若い人たちになじむことができず、後継者の育成は重要な課題となっております。

この30周年を記念すべき年から、今まで建設から守ってきてくださった明治座保護会に変わり、明治座活用委員会の方が明治座をもっと知っていただくということで、今年から実験開館的に管理人を置き、月曜日を除く毎日開館しておられます。歌舞伎保存会としましても村民のみなさまをはじめ、多くの支援者や協力者の励ましに応えるべく鋭意努力をして舞台を開け、この節目を迎えて役者一同また心を新たに、諸先輩方の熱意を無駄にすることなく、一致団結して頑張っていこうと思いますので、今まで以上のご指導、ご鞭撻、ご協力、ご支援を偏に御願ひ申し上げます。(加子母歌舞伎保存会会長 田口茂雄)

平成13年度加子母歌舞伎保存会予算書

収入の部		単位:円	
項目	決算額	予算額	比較増減
前年度繰越金	784,206	784,206	0
補助金	1,100,000	1,100,000	0
合計	1,884,206	1,884,206	0
会費	947,500	940,000	7,500
祝儀	554,000	300,000	254,000
雑収入	386,330	300,794	85,536
合計	3,772,036	3,425,000	347,036

支出の部		単位:円	
項目	決算額	予算額	比較増減
会議費	50,240	50,000	240
旅費	21,200	40,000	△ 18,800
衣装等使用料	210,000	300,000	△ 90,000
教授料	1,159,855	1,000,000	159,855
報償費	537,500	200,000	337,500
消耗品費	119,688	150,000	△ 30,312
食糧費	485,225	500,000	△ 14,775
交際費	154,493	140,000	14,493
宣伝費	222,330	300,000	△ 77,670
研修費	70,000	300,000	△ 230,000
備品費	35,700	200,000	△ 164,300
予備費	0	245,000	△ 245,000
合計	3,066,231	3,425,000	△ 358,769

収入の部 3,772,036 - 支出の部 3,066,231 = 差引次年度繰越金 705,805
上記のとおり収入総額から支出総額を差し引いた705,805円を平成14年度に繰り越します。
上記加子母歌舞伎保存会の会計を監査したところ、帳簿、通等ともに適正に処理されておりましたのでその旨報告します。
平成14年7月13日

監査委員 田口伊蔵(周)

監査委員 佐藤芳美

平成14年度加子母歌舞伎保存会予算書

収入の部		単位:円	
項目	決算額	予算額	比較増減
繰越金	705,805	784,206	△ 78,401
補助金	600,000	1,100,000	△ 500,000
会費	940,000	940,000	0
祝儀	300,000	300,000	0
雑収入	500,195	300,794	199,401
合計	3,046,000	3,425,000	△ 379,000

支出の部		単位:円	
項目	決算額	予算額	比較増減
会議費	50,000	50,000	0
旅費	40,000	40,000	0
衣装等使用料	300,000	300,000	0
教授料	1,000,000	1,000,000	0
報償費	450,000	200,000	250,000
消耗品費	120,000	150,000	△ 30,000
食糧費	500,000	500,000	0
交際費	150,000	140,000	10,000
宣伝費	300,000	300,000	0
研修費	50,000	300,000	△ 250,000
備品費	50,000	200,000	△ 150,000
予備費	36,000	245,000	△ 209,000
合計	3,046,000	3,425,000	△ 379,000

30th アニバーサリー



▲子どもたちも名演技を魅せました！



▲敬老会では、88歳を迎えられた5人と村の最高齢者である92歳の田口さんが表彰されました



▲武蔵野美術大学のみなさん

9月8日 今回で30回目となる加子母歌舞伎大公演会が明治座で開催されました。前日には敬老会でも上演された地歌舞伎公演、今年は武蔵野美術大学空間演出デザイン学科のみなさんが研修生として1週間前から村に滞在し、道具の製作から舞台組み、照明の練習を行い、当日は裏方全てに活躍しました。「百年劇場の明治座と伝統芸能の地歌舞伎に関わることができ、とても良かった」と満足した様子で語ってくれました。

がんばった歌舞伎



左から林優季ちゃん(上桑原区の中前)、伊藤いぶきちゃん(番田区の徳原)、三尾芽彩子ちゃん(上桑原区の源屋)。子ども歌舞伎ではベテランの3人は加子母小学校の3年生。毎年秋の歌舞伎公演の時期になると胸が躍ってわくわくするそうです。来年もがんばってね!



私は9月7日と8日に歌舞伎をやりました。7日はおばあさんやおじいさんが、いっぱい来ていました。

化粧をする時に、油(汗がたれてこないようにする)を、塗りました。その後、私は肌色のちょっと濃いめの化粧を、手と顔に塗りました。その後、衣裳の着物を着ました。私は着終わった後に、着せてくれたおばあさんが、「着物を痛めちゃダメよ」と、いったので、私は着物を痛めないようにしました。私はせりふがいっぱいあったけど、成功してよかったです。

終わってから部屋に戻って、おひねりをもらって、優季ちゃんと一緒に遊んで、日曜日は、おひねりとお弁当をもらって解散をしました。

三尾芽彩子

私は保育園の年長の後半から、歌舞伎を始めて今年で4回目です。今年は『人丸』という役をやらせてもらいました。今年は30周年でした。

とても難しく、練習は大変でした。特に大変だったところは花道です。ひとりで花道を通らなくちゃいけなかったからです。他には、足を曲げる所や、早く花道を走るところです。

本番の日、祭屋で待っていて、緊張して、なかなか落ち着いてくれませんでした。お菓子を食べたり、トイレに行ったり、本を読んだり、寝てみたり、化粧部屋や、衣裳部屋を見に行ったり。いろんなことをして待ちました。

お化粧の時間で、女の子の役だったので、きれいな化粧でした。カツラもかわいかったです。緊張して、やったけど成功したから嬉しかったです。

伊藤いぶき



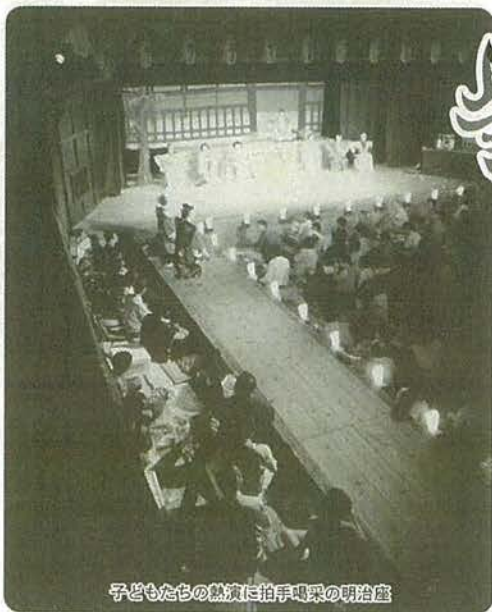
ふるさと人の心(もり)



『会稽屋曾我』で近江小僧太を熱演する葉彩子ちゃん。(左から2番目)



『会稽屋曾我』で化粧坂少将を熱演する優季ちゃん。



子どもたちの熱演に拍手喝采の明治座



『八幡日記後日道標』で人丸を熱演するいぶきちゃん。



私は、まだこのお芝居で、お芝居をしたのは、2回目だけど、前やったときは、寺子屋の子供の役で、セリフも2・3回でした。カツラも軽い方で、着物も楽でした。でも、今度のお芝居は女の人の役で、カツラも重くて、着物も重くてきついものなので、練習からゆかたの上にお引きすりや羽織を着ました。

初めのうちは台本を使っていたけれど、途中から台本なしでやりました。台本なしの初めのうちは、たまに戸惑いました。でも、頑張ってセリフは言えるようになりました。

歌舞伎の練習の途中に、運動会の練習があって、応援練習で声がつぶれて、しばらく声が出せなくなったりしました。初めは泣きそうになったけど、でも頑張って出せるだけの声を出しました。

後やればいいのは舞です。いつも練習が済むと、舞を踊る3人だけ上の部屋へ行って練習しました。扇子を指で回したりするところを頑張りました。

本番は、声もきれいにでて、舞も上手にできたのでよかったです。 林 優季

文化講演会を明治座で



歌舞伎保存会のみなさんが熱演!

加子母歌舞伎保存会のみなさんによる「忠臣蔵 南部坂 雪別れ」の上演の他、地歌舞伎の由来やメイクについて普段知ることのできない舞台裏の様子について、美濃歌舞伎博物館の小栗館長の興味深いお話しに参加者は聞き入っていました。

2月19日 岐阜県建設技術協会恵那支部による「文化講演会～東濃地歌舞伎の体験」が明治座で開催され、村の伝統芸能である地歌舞伎が披露されました。



鎌谷のテレーケによる砂防施設の見学会も行われました

加子母歌舞伎大公演会

9月6日 婦人会と村共催の敬老会が明治座で開催されました。対象者576名のうち約220名のお年寄りが出席。お祝いをうけ、午後からは歌舞伎を観て楽しまれました。今年、米寿を迎えられた方は18名、村の最高齢は中切の熊澤よ志江さん101歳です。皆さん、いつまでもお元気で!

9月7日 恒例の加子母歌舞伎大公演会。今年は新人5人が加わり、また、松本団匠師匠から松本団女師匠に交代してはじめての公演となり、フレッシュな歌舞伎となりました。昨年に引き続き裏方は武蔵野美術大学の学生さんらがスタッフとして参加し、地元の方々と息の合った共同作業となりました。観客はおおよそ600名。村外の方も多く、遠くは東京・大阪から加子母歌舞伎を楽しみに足を運ばれる方も…。足の踏み場もないほど観客で埋め尽くされた築109年の明治座からは、うれしい悲鳴が聞こえてくるようでした。また、お忍びでこの公演を目的に訪れた女優の五大路子さんから幕間のあいさつをいただき公演に華をそえていただきました。



歌舞伎に見入る長寿の皆さん



子どもたちの熱演に会場からおひねりの雨



幕が開く
歌舞伎公演が始まった。
長い間がんばった
お稽古の成果はばっちりだ。
観て観て！
粋な役者が勢ぞろい。

浮世柄比翼稲妻



学生が訪れる魅力ある地域を創る



今年の加子母歌舞伎の演目「義経千本桜」の背景画を製作する武蔵野美術大学空間演出デザイン学科の学生

羅針盤

木匠塾が、加子母村で始まったのは平成6年でした。以来6大学が訪れましたが、今年は東洋大、千葉大、京大、京都造形芸術大、立命館大の5大学で、参加学生はおよそ130人でした。学生達は、子どもたちが森林を学ぶ環境づくりのために、様々な制作活動を行いました。場所は小学校と中学校に挟まれた、学校林「学びの森」です。今年は天候に恵まれず、工程も遅れ気味で、夜間、カンテラの光や土砂降りの中での作業まで行いました。閉校式には、学生の代表者が、「私達は、子どもたちが森を学ぶための環境づくりに参加しましたが、この活動をとおして、我々自身、森に学ぶことが数多くありました。」と述べています。かしも木匠塾が、森と建築の深い関わりの上に、学校林活動という地域づくりに参加し、かしも木匠塾活動の原点を見つめる年になりました。

村歌舞伎では、明治座の舞台装置について、毎年武蔵野美術大学が村を訪れています。今年は8月31日から9月6日まで、同大学空間演出デザイン学科の川口直次教授に率いられたゼミ学生20人が来村し、歌舞伎公演の大道具や小道具、幕の制作、照明を担当しました。今年3年目を迎えたこの活動は、歌舞伎保存会の皆さんと共に舞台を支え、公演の重要な一翼を担っています。この活動によって、明治座の大道具や小道具、幕などの備品が、年々充実して、年間通じて行われている明治座実験開館の展示資料としても有効に活用されています。

明治座の利用については、歌舞伎のほか、東京芸術大学の田中千香士教授のクラシック・コンサートがあります。平成9年、田中先生をはじめ著名な音楽家達が、恵北地域を巡られたとき、明治座での楽器の音色がいいことから、毎年練習に來られ、演奏されるようになりました。コンサートは2日間に亘り、初日は一般、2日目は小・中学生です。

先生は小・中学生には、「君達がテレビなどで聞く楽器の音は、合成された音で、今日これから聴く音楽が本当の音です。」と、いって演奏を始められました。また前夜行われる一般向けの演奏は、他所からの聴衆が多く、遠くは名古屋、岐阜などから、近くは下呂、中津川、美濃加茂あたりからも来ました。このイベントは、木造建築や木の

文化の宣伝にも、違った角度から、大きな効果を生み出しています。

アテネ・オリンピックで、3人のメダリストを出した中京女子大学は、加子母村出身の内木玉枝さんが創立された学校なので、先般私達が訪問したとき、谷岡郁子学長は「大学のふるさととは加子母村です。」と言われ、加子母村との関係強化を望んでおられました。先般村を訪れた学長は、「開学100周年を加子母と中京女子大学との新たな出発点にしたい」とも云われました。私は中京女子大学との関係強化に、大きな期待と希望をもっています。

その他幾つかの大学に、加子母村との接点があります。私は村の将来を全国の大学生にも託したいと思っています。

私が今一番心にかかることは、東濃や木曾の山々で、高く険しく厳しい風雪に耐えて、長年かけて成長した素晴らしい木も、条件のよい山で、ぬくぬくと成長した木も同じ価値に見られたら、険しい山岳地帯の森林は壊滅するという事です。自然の摂理は、条件が厳しければ品質が良く、条件に恵まれば量産が出来て、報酬が公平に得られるようになっています。品質の良いものを、その価値を活かして使用しなかつたら、それは消えていきます。

自然や森林が豊かになるには、自然の摂理が生きている事です。この理の重大性に、すぐ反応してくれる人が大学生です。しかも将来社会の中核になるのも大学生です。私は村の未来を大学生に託して、頑張りたいと思っています。大学生の訪れないような村(地域)は、魅力が失われていくと私は信じています。

加子母村長 粥川眞策



中京女子大学の学生会のみなさんが創業者ゆかりの加子母村を訪れ、来年迎える同大学の開学100周年記念行事の会場となっている加子母村の各所を巡り、イベントの構想を練っていききました。保育園に立寄って子どもたちの間に入って話しそめんに挑戦する学生。

見聞録

観客を魅了 ～歌舞伎大公演会～

9月5日 あいにくの雨の中、村内外から多くの歌舞伎ファンが明治座を訪れ、歌舞伎公演が開催されました。今年は例年より多い5芸題が上演されました。初舞台の小・中学生や中学校教師、それに芸歴の長い方々の熱演に観客は魅了され、笑いあり、涙あり、おひねりが飛び交う大公演会となりました。回り舞台など明治座の機能もフル活用され、「今年の歌舞伎はいつも増して良かった。」と言う観客の感想も。そして、武蔵野美術大学の学生20名が8月31日から村入りし、幕や大道具の制作を手がけ、当日も裏方として大活躍されました。



▲迫真の演技に拍手喝采

いざ、出陣！
白旗五人男でござる



無事公演終了！
おつかれさま！



今年の『こども歌舞伎は』
オールキャスト女の子！
でも、迫力満点の舞台には
おひねりの華が舞いました

かしも通信 特別編集 『里山の地芝居』
(2015年10月4日発行)

かしも通信 特別編集 里山の地芝居

2015 KASHIMO

SATOYAMA STYLE MAGAZINE

KABUKI

里山の地芝居。



SATOYAMA STYLE MAO ZINE

かしも通信 特別編集「里山の地芝居」

里山にある木造の芝居小屋「明治座」
そこで行われる地芝居「加子母歌舞伎」
里山のライフスタイルを芝居をとおして紹介
加子母歌舞伎の全てがわかる
完全保存版です。

Contents

明治座こけらおとし	3
トントン薙ぎ開始	3
大歌舞伎と地歌舞伎	4
普通なかなかできない経路	4
黒子奮闘記	5
初めての歌舞伎	5
ワンポイントイングリッシュ	5
歌舞伎と木	5
クロさちの歌舞伎日記	6
できることならいつまでも 師匠のお手伝いをしていきたい	6
明治座があるから歌舞伎がある 歌舞伎があるから明治座がある	6
六十年の集大成 今年の「青可風」に懸ける	7
ジ・カブキ	7
かしも人は草の下の力持ち	10
かしも通信の質問記	10
十八代目市川団十郎	11
二人の引違ちょっと待った、 やめないでくださいよ	11
鳥の目、虫の目	12
明治座の暑かさ	12
初めての歌舞伎	12
五人の精銳が加子母歌舞伎に登場	13
今年の一番手は 松たかちが踊っちゃうんだから	14
山崎まつ花道のさき、夏の果て	14
夏の風 娘引轉説われて	15
勘九郎さんも読む	18

加子母歌舞伎

KASHIMO KABUKI 平成の大修理を経て 明治座は次の百年へ

2015 明治座こけらおとし

裏屋根とれたら、ハツとするにちがいない。

本公演に先立ち、10月4日の全国青柳祭のサテライトイベントで改修後の明治座がお披露目されます。その中で歌舞伎が披露されます。緑結神【釣女】に出演するお2人にお話を聞きました。



大郎役者の
安江健児さん(所演)



結女(しごめ)役の
三浦正樹さん(所演)

芸歴20年以上

Q さあ、それは20歳ぐらいか？

A 俺は、その1年後に始めた。

Q ちょうど俺が青年学級長だった年に、歌舞伎の講座があった。結局、歌舞伎の講座があったのはその年だけだったんやけど(笑) だれも手をあげなかったわ。そんならやってみようって入った。最初、全然稽古にいかんかったけど、吉田屋に寄った時に「美いよ！」って言われて行きはじめた。で、ぬげられんくなってもう20年以上やな。

Q その1年後に、なんやしらん、俺を含めて5~6人入った。で、結局その頃入った人で残ったのは、俺ら2人。

Q その頃の加子母歌舞伎には、あんまり悪者があらん。で、年寄りがいっぱいおったわ。

Q 俺らもいつの間にか若手じゃなくなってきた。次の世代の役者が出てこんがな。30代ぐらいにやっちはしい。



歌舞伎はモノマネ。

Q 【釣女】は今回で3回目だから、ちょっと色気が出てなまめかしくなったりする。そうすると、師匠に「違いますよ」と言われる。一晩考えたわ。作り込み過ぎると戻される。歌舞伎って、モノマネしなくてない。俺らなんかは、加子母歌舞伎で前にやっった人を見てマネする。結局、釣女はひろおさんのマネ。団升師匠のモノマネかも？

Q 先輩方のモノマネやな。だけど、ほかの所を見に行ったら、師匠が同じでも役者が違うと違う風になる。そうきたか！と思う。

新築の匂いがするんやろな

Q 雰囲気かわってほしくない。らくがきも元通りの明治座になってほしい。

Q 俺ら役者だから、舞台と花道がかわってなければOK。新しくなると、わくわくする。

Q さっさと新築の匂いがするんやろな。ワクワクするな。以前の、舞台上から竹おちてくる？って感じじゃないんやろな。

Q 少なくとも、これから100年200年使う器ができたわけだから、中身(姿)も熟成せんとあ。でも、難成したら、なまめかしくなって戻されるか(笑)

板葺き屋根って、すごいわ

Q 地元民としては、板葺き？はあ？って。さすがに俺でも板葺きの建物をリアルタイムでみたことなかったし、ピンとこなかった。だけど、板葺きに使う板をへく作業をしているところを見て、これはええことを思いついたのかもしれんと思った。すごいわ。

Q 当初は、屋根が腐んできたから屋根を突えればええって思ってたぐらいで、それがエライ話になったって思った。地元で明治座に携わった人の意見で決めたわけじゃないけど、逆に意見を集めてたら今のようにはならんかったな。屋根だけやっとな。うん。ワクワクする。



Q 裏屋根とれて板葺きが見えたら、ハツとする...に違いない。そーっと骨筋が伸びるかも？

村の地歌舞伎のまんまで

Q H10年ごろはお客さん少なかった。座敷の数物の方が多く見えた。それが今は増えた。

Q 前は2回やっとなしな。敬老会と今の歌舞伎公演と。そもそもは村の演劇だから、無料なんやろな。

Q インターネットもなかったし、宣伝してなかった。30周年記念講演で、各機関の「真」を集めてやった。そのころからお客さんが増えてきた気がする。

Q 普通に歌舞伎やって楽しめればいいじゃない？普通の地歌舞伎でいいよ。継承者って風はいいやな。昔からの地歌舞伎でいい。器が変わったから、時代が変わったから変わるってやつじゃない。

Q 役者は「大枚はたいて取かいて」ってやつ。満ちる方も楽しんで。見る方も楽しんでくれる。そういう普通の地歌舞伎の感じは変わってほしくないな。

Q 今のまま楽しみたいわ。役者もお客も、観しめやすいままでやりたい。

Q 村の劇場の殿堂の場みたいになるといいな。

Q 村の人たちに来てほしい。明治座が新しくなったら、いっぺん見てこにやっというぐらいのノリで、ぜひ。
(かしも通信2015年10月号より抜粋)

2015 トントン葺き開始。

へび板を作る岩本さんは加子母歌舞伎の女方のスペシャリスト。



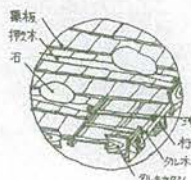
岩本 健

作業内容は

工場は4人で作業して、葉のへび板をつくっています。素人で始めてから、3月に行った飛騨の里の山口末造さん(神職人)の指導後、やり方がはっきりわかり軌道に乗ってきました。最初は機械で効率を上げて早くやろうと希望を持っておったが、材料にはクセがあって葉面に割れてくれない。今は、手でへく人たちが作業しやすいように考え方を覚えて、大割は機械でやって、最後は板へびは手でやっています。

手が重要

手は、力が入りやすく曲げやすい。薄く板をへくには柔軟性も必要で、割れていく方向を裏側にしながら調整してへいでいく。材料が厚いと大変だから、その部分は機械を使っているわけやな。板へびには、なるべく機械を使わないのがベストだと思ってる。やっぱり昔の人はすごいな。全部手でやっけて、機械では真似できない。それが魅力やな。
(かしも通信2015年7月号より抜粋)



かしも明治座

地域の宝として、多くの人から愛され守り続けられていた加子母の明治座は、岐阜県指定重要有形民俗文化財として、明治27年創建当時の姿に復元するための保存修理工事がおこなわれています。文化財としての調査研究を行いながら工事が進められ、屋根は創建当時の特製き屋根に復元します。



KASHIMO KABUKI 武蔵野美術大学の大道具協力は 新たな時代を切り開いた

2005 大歌舞伎と地歌舞伎 振付指導 松本団女



加子母歌舞伎も、33回を迎えました。ここ明治座で行われる地歌舞伎と大歌舞伎ではどのような違いがあるのかご存知でしょうか。役者の技術が違うのは仕方ありませんね。相手はプロですか。しかし具体的に他にどういった違いがあるんだろう。ということで今回は団升先生の後を継いで加子母歌舞伎保存会の振付け指導にあたる松本団女先生に稽古の合間にお話を伺いました。

大歌舞伎との振りの違い

大歌舞伎で上演される弁慶上使では、おわさの振りなどは、ほとんど感情の表現だけでやってしまうので振りが少ないんです。

でも、団升師匠の演出にはきめ細やかな手がついています。これはおわさがお蔵物師ということがあって、ちょっとした糸の始末をするとか、袖を持つ格好とかっていうことが非常に細かく養われてきていると思います。弁慶にもたくさん振りがついています。それが無いと感情だけでやれというのは、素人にはムリなんです。端々の役者、團元まで手がついているというのが、地歌舞伎の演出の違いですね。そこが大歌舞伎と団升師匠の違いなんです。

大歌舞伎ではやらない演出

由良池千軒長者は大歌舞伎で今はほとんど上演されていないんです。なぜかと言うと、大書にやったりそれを振り起こしてやる人がいないという事と、安寿橋と扇王という子供が主役です。そういうのはあまり出ない訳ですよ。どちらかというと大人が主役でそれ子供が出るというものはあるけれど、これは安寿橋と扇王が主役なので子供が主役という外題を出す事が少ないのでこうなってきたと聞いてますけど、地歌舞伎では子供さんに一幕というときには、よく出ます。そのために台本を団升師匠が脚本を書きなおして、子供さんにあうような振りや浄瑠璃を新たに作ったものだから、大歌舞伎にはないものですね。

大歌舞伎とで登場人物が違う

釣女は大歌舞伎でも人気の外題ですが、大歌舞伎では恵比寿三郎(神様)はあまり出ない事が多いんです。でもやっぱり出すと意味がわかるし役がきれいな役ができます。地歌舞伎では出ません。地歌舞伎のほうがある程度、臨機応変にできるってことなんですよね。

(2005年加子母歌舞伎公演プログラムより抜粋)



2005 普通なかなかできない経験

武蔵野美術大学空間演出デザイン学科3年 丸山 貴明 Takaaki Maruyama



丸山 貴明

去る8月29日から9月5日まで武蔵野美術大学空間演出デザイン学科川口ゼミの3、4年生が歌舞伎の舞台について勉強するため加子母の明治座へ研修に来ました。今回は代表して3年生の丸山貴明君に話を聞きました。

今回の加子母歌舞伎で学んだことは?

主に大道具班、照明班と分けて大道具班は千景の幕や松などの飾を描いたり、大道具の製作、本番での舞台転換を、照明班は照明の設置から本番での調光、スポットライトの操作などを教えていただきました。さらに、数人は役者、黒子として舞台上に立たせていただきました。ちなみに僕は大道具班と、役者として「妹背山婦女庭訓」という外題で振り手役をやらせていただきました。

初めて歌舞伎の役者をやってみて

本当にいい経験させていただきました。普通に生きてたらなかなかというか絶対歌舞伎の舞台上に立つなんて経験できないですからね。稽古から本番までのメイク、髪付け、カツラをかぶったことからもかなり全てが貴重な体験でした。共演者の方々も皆さん優しく右も左もわからない僕に色々教えてくれました。団次先生も厳しいながらも優しくして楽しかったです。本当にありがとうございました。またもし機会があれば是非出演してみたいです。

加子母で一番楽しかったこと

毎日が本当に楽しかったです。1週間があったという間に過ぎてしまいましたからね。1日1日何から先見があって刺激的でした。強いてあげるとすればやはり最後の打ち上げですね(笑)。みんなで盆踊りしたり即興で劇をしたりと、とても楽しかったです。あと加子母の皆さん



が吹き出しをしてくださったんですけれども、おいすぎて何程もおかわりしちゃいました。おかげさまで3キロほど太りました(笑)

加子母でつらかったことはあった?

つらいこと・・・うーん。なかったですね。もちろん舞台の転換の時などに舞台の先生に叱られたりもしたんですが、それも全部勉強になりましたし、つらいと思った事はなかったですね。あ！でも虫はちょっときつかったですね(笑) 復讐に刺されやすい体質で一週間のうちに3回刺されちゃいました(泣)。あれはしんどかったですね・・・。その刺された部分が腫れてうちらが結構あせって加子母の人にみせたら冷静にムヒを塗ってくれて、まだまだ自分は軟弱だなぁとかんじました(笑)

裏話

裏話ですか・・・(笑)。なんでしようかね、そういえば1週間のうち1日空いた時間があったので加子母観光へ連れて行ってもらったんですよ。その日七つで川に連れて行ってもらったんですが、あまりにきれいな川だったので男達みんなデジカメがあがってしまっって、おもしろいので僕になって飛び込んでしまったんですよ(笑)。でもあとではしげすびだして先生に怒られちゃいました・・・。

あと加子母小学校の方に見学に連れて行ってもらう所で2年生の男の子たちにかけてで勝負だ！っていわれて承諾したんですが時間がなくて勝負できなかったんですよ。それがすごい心残りです。いつか必ず決着をつけに行きたいと思います！待つて丸山元氣君！(笑)

ありがとうございました

本当に加子母の暖かい皆様のおかげで最高の思い出を作る事が出来ました。加子母の皆さんは本当に暖かい人達ばかりで毎日が感動でした。来年も卒業した後も何かしらの形で加子母歌舞伎に関わっていただけると思っています。加子母の皆さんに出会えた事は一生の宝です！

(丸山貴明2005年10月号より抜粋)

2005 黒子奮闘記

それ行け「クロさち」 田口 幸子



田口 幸子

加子母歌舞伎 国立劇場公演

去る3月18日に、東京国立劇場にて加子母歌舞伎の公演がありました。今回は、この公演で黒子を努めていただいた田口幸子が、この公演の裏話を『黒子奮闘記』としてみなさんにお伝えしたいと思います！

寒さとの戦いの稽古の日々・・・

今回の公演の稽古は、寒い真冬の1月から本格的に始まりました。明治座はとにかく寒い！しかも、みんな仕事や学校を終えてからの夜の稽古だったので、本当に寒さとの戦いでした。今回の公演は、2外題ということで、1外題につき大体2時間の稽古で、いつも終わるのは10時前後でした。3月の本番1週間前は毎日稽古があり、お師匠さんも役者も「満足できる加子母歌舞伎を！」という一心で乗り越えた気がします。黒子の私は意外と出番が多く、雑々を振ったり小道具を持って走ったりと、役者としては経験できない、いかに目立たず自然に存在するか・・・を毎回考えながらの稽古でした。一番心に残った事は、稽古が進むにつれて、みんなの結束力が強くなっていくのを感じた事でした。それがみんなの支えでした。

いざ東京へ出陣！！

3月17日朝5時30分、東京に向けて役者・黒方は出発しました。・・・なんてかっこよく書いてはみるものの、私黒子は乗り物酔いがひどいので、1人電車に乗っていました。ちよびりさみしい旅立ちでした。でも、1人電車に乗っていると、仲間からメールがきました。とてもうれしくて、そこから東京までは早く感じました。東京に12時には着きみんなと合流し、2時から国立劇場でのリハーサルの予定でした。しかし劇場側の都合でリハーサルがほとんど遅れて、結局始まったのは6時・・・さすがにみんな疲弊の色は隠せませんでした。しかし、やっぱり国立劇場はすごい！何もかもが本当に素晴らしい、私黒子のせいで一人一息緊張してしまいました。見せ場の雑々を飛ばすどころか、緊張しちゃって雑々なのに機軸がはず・・・というらしい？最終リハーサルでした。

3月18日・いざ本番！

朝8時30分、奇書を出発して国立劇場へ。前日練習が足りず、少し疲れ気味なはずなのに、みんな気遣いが違う！テンションが空気に高い！順番に顔を塗り、衣装を着る。みんなと自分役のものになっていくのですが、横で黒子はせせと裏づくしの準備。途中加子母からの応援部隊が楽屋に顔をだしてくださって、みんなの元気をもらいました。いざ本番・・・送り出すこっちは緊張してしまっ、でも役者のみんなはさすがに虚勢がある！練習で上手いかなったところも、みんな前線にこなし、1外題が無事終了。終わって楽屋に帰ってくるみんなの顔は、みんな自分の演技が終わった事の安心と、達成感でいっぱいでした。さて、いよいよ黒子として出る2外題目が開始！準備に過ぎるところに何と大事件発生！！今回、仕掛け物として、割れるように仕掛けがしてある桶を使う場面があったのですが、その大事な場面にいっ前に、お客さんを目の前に、仕掛け物がスタッフの手によって割られてしまったのです！大慌てで割れた桶を棄め、裏でまた仕掛けを積み直す！時間はないし、焦るし、次の黒子の出番は近づ



ひとり黙々と小道具練習でデコッデコを飛ばす練習をするクロさち

し！本当に体中の汗が吹き出るくらいでした。なんとか仕掛け桶は積み直し、舞台に出したものの、もう黒子としての次の出番になってしまい、少し遅れてしまいました。みんなに無かった事は、最近本当になかったの、バニョクになりました。でも、後々考えると、落ち込んで指示すればよかったな・・・と反省ばかりになりました。まだまだ未熟です。そんな黒子を預目に、役者のみんなは本番に強い！！本当に最高でした。終わって、疲れによるだるさと、終わった安心感による力が抜けただるさ、なぜか少し心地よさを覚えました。2外題とも、本当にみんな最高でした！黒子って難しい・・・でもあもしろい！そんな東京公演でした。

国立劇場公演を終えて

今回の公演を通して、本当にいろいろな方への感謝でいっぱいでした。お師匠さん、役者のみなさん、黒方のみなさん、朝早くから加子母から応援に駆けつけてくださったみなさん、加子母から応援してくださったみなさん・・・等あげればきりがありません。本当に、本当にみなさんありがとうございました！



出陣を待ついちやんの顔を見せるクロさち



2007 初めての歌舞伎

加子母小学校3年生 真壁ら

安達が第二段目に千代童役で歌舞伎初挑戦の真壁ら(小3)に感想を聞いてみました。

初めての歌舞伎はどう？

思ったより楽しかったです。化粧をもらったのもうれしかったです。ただ、カブラが思っていたのとはぜんぜん違って。見た瞬間！えっそれなの！って感じでした。

うまくできましたか？

わりと、うまくできたと思います。庄屋さんの顔の細野さんが上手で面白かったです。最後には本当の庄屋さんみたいだなんて思えました。

来年もまたやってみよう？

やってみようと思います。できれば今度はかわいい女役がいいな。今度は子供歌舞伎にでてみたい。とにかく女の子役がいいよ。



2007 Justinの

ワカポイントインクラッシュ

うまくいくといいね → I will cross my fingers

新しい事に挑戦する友達に一言

真江: 幸ん、どうしたの?
Yume: Hm? What's up?

三浦: 緊張するよ。
Mitsua: I am nervous.

真江: 何で?
Yume: Why?

三浦: 初めて歌舞伎に出演するんだ。
Mitsua: I am performing in Kabuki for the first time.

真江: うまくいくといいね。
Yume: I will cross my fingers.

KASHIMO KABUKI プロにも勝る 加子母歌舞伎ベテランの技

2007 歌舞伎と木 ジャーナリスト 小田孝治

400年の歴史をもつ歌舞伎には数千といわれる狂言(演目)があるとされる。その舞台にはかならずといっていいほど老松、鏡吉、樞、梅などの書割(絵)や大道具が飾られる。木たちがもつ四季折々の風情が芝居や舞踊に欠かせない。

「義経本様」には「木の葉」という場がある。舞台に木の葉が舞い降りる。その舞は、手本忠臣蔵の「大序」には銀葉の大木、「真井杉由來」という杉が主人公になった作品もある。

高麗の真井上人が子どものころ、葉にさらわれ、孤児になった過去があった。ある日、老いた女性が東大寺の大杉のもとで真井上人に出会い、話しているうちに上人の母であることがわかる。葉にさらわれた上人は、この大杉の根の上にとどまるといふ。杉が上人を育てたといえる。

古来、日本人は樹木を大事にしてきた。加子母には千年の樹齢をもつ神木の杉が今も敬われている。また、20年ごとの伊勢神宮の遷宮には加子母の杉を遣い音から供出してきた。加子母には木の文化が深い。葉は常緑だが、葉や樺、朴などの落葉広葉樹は春の新緑、秋の紅葉と四季の移ろいを際立たせてくれる。当然、江戸文化を代表する歌舞伎の役者たちも木に敬感があった。神様に奉納する芸能だから当然である。木は神徳の依代(よりしろ)となるくらいだから木の風情を五感で感じ取る努力を重ねている。名優の故中村歌右衛門は自宅の樹木林に入ることを楽しみ、手植えの榎を愛した。歌右衛門ならはといわれた舞踊の大曲「鉄道成等」は舞台いっばいに桜が飾られている。芽吹き、新緑、紅葉などの変化を五感で感じ取ることが役者としての感性を磨くことにつながる。

加子母は木の文化が息づいている。明治座には加子母の樹木がふんだんに使われ、ビルの中におさまった大都会の劇場にはない温もりを与えている。音の響きもよく、歌舞伎だけでなくピアノやバイオリンなどのコンサートの響きも優れて響かれる。

明治座は、戦後の日本で切り捨てられてきた、かけがえない木の文化がたどる文化遺産である。

(からも通信2007年4月号より抜粋)

まつもと 松本 団升
(1922-2007)

地芝居振付師。3才で先代 松本 団升一座の子役として初舞台。岐阜県内外で地歌舞伎の再興と伝承にとりくんだ。1997年岐阜県重要無形文化財に指定。2003年休養を期し、次女の松本 団女に舞目を譲る。2007年85歳で没。

2005 できることならいつまでも 師匠のお手伝いをしていたかった

加子母歌舞伎 團升師・松屋会家元 松本 団女 Danjo Matsumoto



いつからやってたのですか。

松本 団升の二女として、3歳の時に子役で初舞台を踏みました。昔は今みたいに子供を歌舞伎に出さなかったんで、父が教えるに行っている所で見学しててたんで。だからほとんどの子役はやりましたね。大人になってからは、山岡は歌舞伎が盛んなので青年団に入って歌舞伎をやっていました。

長唄、囃りもの、義太夫を先生方に習って、父が教えるに行く所の下座と義太夫の手伝いをしていました。日本舞踊の方は20歳の時に名取りとして教える事が出来るようになりました。

お芝居の中に所作事と言って踊りがあるのでそれを手伝っていました。私は本来父の手伝いをしてたんですけど、金くねくねは考えていなかったんです。できることならいつまでもお手伝いをしてたかったのだけど、父も若年時で84歳を過ぎると、振付けの仕事はかなり過酷なもので少し体調にもなりましたので、平成15年に引退しました。今は10か所を教えています。

身内の方もこの仕事に関わっている?

日本舞踊では団升師匠が家元で私は団升流松屋会の家元です。歌舞伎ではそういう団体のようなものはない。舞踊の所へ行って教えるというからです。母は父を何でも手伝えるかたちになっていて、兄は師匠を奥さんと一緒にやっています。姉が居ますけど昔はやってたんですけど今は主婦です。その旦那さんが義太夫で先代を継いで



二代目の美善太夫をしています。あと娘の宗津実が下座と後見を手伝っていますし、姉の長女が舞付師をやっています。

先生も勉強しているんですか?

団升師匠の付けた癖りでもその場所によって少しずつ違うので方々のビデオを見て、また大歌舞伎の目見で一冊良いのを振付けようと思っています。あとは文献を読んで勉強しています。

先生の外題はどのくらいあるの?

師匠の外題は百程ありますが、私が指導したのはまだ20幕前後ですが、ひとつずつ増やして年々違う外題が増えて行くので勉強していると思っています。

特に好きな外題はありますか?

特に好きなものでは「伊賀越道中双六」「お栗次」「弁慶上使」とあと父が六代目松本 団升を襲名した時にやった「重の弁子別れ」私が小学校の5、6年生の時でした。子供で出ました。やっぱり自分が演じたのは思い入れがありますね。

先生の普段は?

家族は主人と長女と長男で普段は普通のお母さんなので、朝起きると子供のお弁当を作って送り出してから午前中に家の事をやって午後稽古に行くという感じですね。

加子母歌舞伎は、これからどうなる

せっかくこの様な立派な舞台があって歴史があるので、なるべく現状のまま続けていってほしいと思います。市町村合併などで、どこもむずかしい状況にあるんですけど、この財産でもある歌舞伎を続けていってほしいと加子母の人とも思っているんじゃないかと思っています。

(からも通信2005年9月号より抜粋)

2007 明治座があるから歌舞伎がある 歌舞伎があるから明治座がある

明治座 × 丹羽貞義



役者部会長
丹羽 貞義

歌舞伎を始めたきっかけ

昭和50年、青年団長だった時、青年団で1芝居やらんか、という話になって、当時青年団員が少なかったこともあって、みんなを集めて総勢15名、内容も所作も分からずがむしゃらにやりました。初舞台の演目は「海鏡我の対面」の十郎を。公演が終わってすごく感動して、よし次も、と思いい、その後も続けてきました。歌舞伎に興味なかったときは、見てもすぐ寝てしまいましたが、実際にやってみておもしろさがわかりました。

思い出深いエピソード

歌舞伎でカツラをつけずにやった役は僕だけじゃなく、始めて少し経った頃、加子母で開催された東濃歌舞伎大会で、頭が大きいカツラが合わず(笑)、坊さの役だったし、当時スポーツ刈りだったから、団升師匠が前髪をカットしてくださって、そのままだりました。その時の芝居で演技賞という表彰をいただき大変励みになりました。



思い出深い先輩

みなさん、それぞれ思い出があり、すばしかったです。後継川芳平さん(善田)と一緒に舞台上に上がったとき、芳平さんが台詞を忘れてしまったので、くちくちになってきて、それでも最後の台詞はきちんと合わせてく

れて、次の自分の台詞が言えた。台詞を忘れたら自分で作ってしまう。すごい人だった。故安江三三さん(万賀/紅葉屋)もすごい人だった。(余談ですが、今年は息子の利郎さんが舞台監督、孫の恒明さんが役者、ひ孫の壽喜ちゃんが子ども歌舞伎に出ます)

今年は、娘さんの加藤美さんと新居繁文、野崎村で、百姓久作と娘のお光役で親子共演ですね

実際の鏡子で、鏡子の役をやるのは抵抗はないです。鏡子でできることはとてもうれしい、光栄に感じます。また、忙しい中娘と一緒にやってくれるのも嬉しいですね。

これからの加子母歌舞伎と明治座

とにかく後継者を歌舞伎をやってくれる人を増やしたいです。明治座は、記録を見ると、簡単にできたものではないです。たかさんの熱意と努力が伝わってきた大層な小遣い。僕はずっと守っていくことが、譲られた責任だと思います。これだけのものはほかにない。明治座があるから、加子母歌舞伎がある。クラシックコンサートやイベントをやっていくのももちろん大事ですけど、やっぱり、歌舞伎第一だと思います。もともと芝居をやるために作られたものだから。

これから行政支援が薄れていく中で、保存会の組織をがっちりしたい。今、加子母地域の、会員になってもらって変えていただいていることは、他地域にはありません。何とか盛り上げていただければ明治座へお出がけいただきながら、これからもぜひ、ご支援を、よろしくお願ひします。

(からも通信2007年9月号より抜粋)

2006 六十年の集大成 今年の「寿司屋」に懸ける

和田富郎さん(80才) 細野真志さん(79才)



トミローとヒロシ

和田富郎さん(80才)、22才の時から青年団演劇で明治座の舞台に立つ。若い盛り富郎青年の役は、何故か「おぼば」役がほとんどだったという。80才になった今も「富郎おぼば」は健在。というか、益々円熟。これまで歌舞伎に出てくる数々のおぼば役をこなしてきた。八百屋のいじわるばば役を、いじわるな中にも可愛さ溢るよさが響く愛すべきおぼばとして演じ、太宰府十段目のおぼば役を、戦乱の世に生きる女性の強さと哀しさを持ったおぼばとして演じてきた。

その富郎さんと対をなすのが、細野真志さん(79才)。加子母の三枚目として加子母の外にも聞かせる名役者だ。義経千本桜 進行の場の早見の幕太は、もう、徹底絶頂! アドリブの台詞も毎回絶頂! 絶妙な間を観客も、共演の役者も、飽きまでも、思わず笑ってしまうほどだ。しかも、笑いだけではない。シリアスな演技にこそ、真志さんの長骨髄はあると思う。新谷陣屋の石屋永太郎(実名は永平兵衛家清)役は、深い、そして深い。本場に役の京持ちになれる役者さんだと思ふ。また、パントマイムの要素が抜群に上手くて、演技で転びそうになるとお客さんから「あ、危ない!」と声が出るほどだ。

2人のおじい、最近よく口になっていたことがある。「わしらも、いつまで歌舞伎やれるかわからんで、最後に鮎屋のじいちゃん、ばあちゃんをやりたい」なにを悲しいことをいつまでも、やり続けて欲しいの。でも、とにかく「最後」かどうかはさておいて、集大成ということで、希望の役をぜひ思う存分やっていたきたい。私達も、その演技が見たい。

今年、その「義経千本桜 鮎屋の場」をやる。

鮎屋のじい(弥左衛門)は、平屋盛脚を鮎屋の下男外助としてかまっていた。いろいろあって、放浪息子子の権太が鮎屋を捨てて首とその妻子を鮎屋に運してしまふ。じい(鮎屋)は息子の権太を刺すが、実は権太の首には、波した鮎屋の首は偽者、妻子は自分の妻子だった。改心していた息子を誤解から殺してしまったのだ。じい(鮎屋)の心中には、義経への義理、放浪息子への懐き、誤解から殺してしまう哀しさ、息子や孫への愛情がうずまいている。また、ばば(ヒロシ)の心中にも、母親らしい息子への愛情、孫への愛情、鮎屋の女房としての気持、悲しみ、今の世に遠く離れた孫の子への愛情が、真実の結末に涙をさそう。そういう役どころだ。

7月から稽古が始まった。

この事は、加子母歌舞伎では何度もやっている幕だ。富郎さんと真志さんも、他の役者もほとんどが3回以上やっている。(初めてのものもあるけど)本読みも、立ち稽古も、師匠に御稽古をつけてもらい、また、自主練習、たった1回の本番に向けて、真中ずつと、稽古に打ち込む。

勘三郎襲名披露公演でも、「鮎屋」

大歌舞伎で「じい」と「ばば」はどのように演じられるだろう。大歌舞伎と地芝居は根本的に別物で、それぞれの味や良さがあると思うが、大歌舞伎に負けられないの、加子母歌舞伎らしい、加子母歌舞伎でしかできない「鮎屋」が見られることを期待している。

役者は人間だ。

年を重ねていくことで、演技に深みがある。しかし反面、年々体がいうことを聞かなくなってくる現実もある。見ている分にはとても素晴らしい演技でも、役者本人にとっては体がいうことをきかないということもあるだろう。(とはいえ、若くて体が動いても、同じだけの演技はできないのだから)2人は、とても真剣に「役」を演じることを考えている印象がある。業人役者とは思えないほど。また、芝居への愛情も深い。だからこそ「最後」という言葉が出てくるのかもしれない。そんな2人の60年ちがい芝居人生の集大成である、今年の鮎屋、ぜひ見のびなで下さい。歌舞伎を一度も見たいことのない人も、ぜひ、足を運んで下さい。

(かしも真夏2006年9月より撮影)

わしらは、いつまで歌舞伎やれるかわからんで、最後に鮎屋のじいちゃん、ばあちゃんをやりたい

富郎さん 鮎屋のばば役は、まったくええ役。動きはないけど、鮎屋一家の女房として、ひきこもも、まったくやりがいがある。(女房として、母の愛情、この葛藤と悲しさが、見どころです)3回めだが、気持ち分かってるから、だんだん難しくなってくる。

真志さん 足が痛いでつくばるのがえらい。権太(不良息子、置っていた平屋盛脚を鮎屋に渡してしまう)をおっかけて「おれをやって〜なるものか〜」と力なところに気合が入る。



2005 シカブキ

由良海干軒長者[浜辺の場]

要之助と、おさんのラブシーンがあるの?

要之助(まゆかちゃん)

6年生 歌舞伎歴: 2回目 「出番が少なくて悲しい〜。おさんと離ればなれになるのも、悲しい〜。でも、実は兄妹でなラブラブやってるんだって思う。おさんの衣装の裾を離さないように気をつけよう。」

おさん(みゆきちゃん)

6年生 歌舞伎歴: 2回目 「今年は、衣装がお引まつりに振袖で、暑い!前は男役だったから家だっただけ女役は内またで歩かなきゃいけないから、大変。」

藤元小鉄(ゆきちゃん)

歌舞伎歴5回目 「小鉄は、ホケもおせっかい。要之助とおさんのカップルをひっかけよう!2人のラブラブシーンが見どころよ!(それを冷やかす役じゃないの!)

藤元小雪(みかちゃん)

歌舞伎歴3回目 「小雪は、真面目で大人しい役。内股で歩くのが難しいよ〜。ベテランのいぶきちゃんに聞いて教えてもらったりする〜」

藤元小春(あやのちゃん)

歌舞伎歴2回目 「ゆっくり踊るのが難しいよ。」

★小鉄、小雪、小春の3人で踊る「汐汲み」がんばって練習してます。かわいいですよ!

藤元小梅(ゆりこちゃん)

歌舞伎歴1回目

出番が少なくて寂しいよ〜。ゆりこちゃん「〜うん〜」要之助を「おいでおいで〜」と呼ぶところが小梅の見どころなんだって。

安寿庵(いぶきちゃん)

6年生 歌舞伎歴: 7回目

ベテランですが今回はどうですか? 「ムズカシイです〜。女役は今まであんまりないから、内股で歩くように意識してます。悲しい役は好きじゃないんだけど今回は最後の方がムズカシイです。いっぱい泣く、泣き続ける、泣きまくる!」

獅子王丸(りほちゃん)

5年生 歌舞伎歴: 3回目 「自分の役は好きだけど、いつも男役!」 「寒くて転ぶところが難しいです!」(あの暑い舞台で転ぶなんてそりゃ酷いよね)

(かしも真夏2005年9月より撮影)



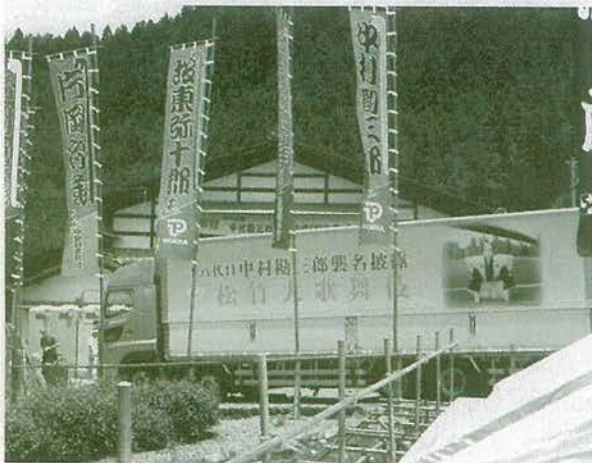




三浦 治郎

NAKAMURA KANZABURO

中村勘三郎さんも気に入った
明治座の舞台



太陽の日を浴びてまぶしく輝いています。昨日までの雨がウソのようです。トラックの横が闊くと大道具さんたちが大歌舞伎のセットを運び入れます。加子母のポランテアも大忙しです。明治座の中では座敷割りのテープが、まじつとスケールを片手に正確に計りながら張られています。普段の公演のように通常にはできません。じいちゃんまでもが観客から聴き取って一生懸命準備を手伝っています。私達はとてつとて小田さんと初めて話した後、明日の取材の準備に大わらわです。夜は夜で小田さんとの最後の打ち合わせや、公演を前に来た高知県の歌舞伎保存会の方に取材したりと、最後になって忙しくなりましたよ。明日が楽しみです。

23日(日) いよいよ公演当日

今日も朝からいい天気です。私達は勘三郎さんが何時に明治座に入っても大丈夫なように8時から明治座前にスタンバイです。昨日お会いした、小田さんも朝から一編です。心強いです。何だか気分は落ちません。

だんだん明治座周辺にお客さんが集まりました。そこへお観客の友達や役者さんをもせたバスが到着です。「ちょっとあれ、七之助だよ」とお客さんから歓声がある。しかし肝心の勘三郎さんは10時を過ぎてもまだ現れません。

そんな時、目の前のデントの脇で明治座の写真を撮るモジモジ顔のおじさんが目にとまりました。「えっ!あの人はい…」本当か?と思っていると、まだ開演前の明治座に松竹の善類さんが案内して入り口を通りつた場所からボクも撮ってました。でも撮れた写真はいつもの明治座でした。善類さんが撮ると明治座はどうなるだろう、見てーな。と驚いてのまわりがひどくざわつきました!

ついに来たか、勘三郎さんの乗った車が到着したようです。ワゴンのドアが開くと中村勘三郎さんが現れ登場です!といきたいところですが、あれこれ、なんだか普通!普通!ラフな格好に帽子をかぶった格好で登場です。でも確かにテレビで見ると違って、車を降りるとすぐに明治座内へ。

勘三郎さんは、初めて見る明治座に興味津々。入り口の通路にある昔の板割り垂板(昔の公演の記念に掲げている)をみて「あーこんな人も見ていきます。時間が急いでとどんでん返りしていきます。平場を見て舞台を覗いて舞台裏へ行きませう。落着の中へ入り、中を通ってスッポンのところまで行ってます。「へえ、自分の足で歩いていくんだ。それでもできるんだね。昔の人の知恵だね。」なんて感心しながら落着を出ようとしたとき、「いてっ!」と出口に顔を近づける勘三郎さん。初対面は何とも親しみのもてる感じで

勘三郎さんが奥座で落ち替いたところで、ついに勘三郎さんにアタック。まずは小田さんが勘三郎さんの節籠に入ります。のれんの間から2人の様子が見えます。非常にいい感じ。『おい!入っただい!』ついに、来たー!『失礼します』と中村屋の紋のついたのれんをくぐると、いつもの見慣れているこの部屋が今日ばかりは勘三郎ワールドに感じられます。ついに、勘三郎さんに取材です。やったー。この日、朝、昼、夕方、計3回もお話を聞くことができました。内容は次の頁で。



2006 かしもの人は 緑の下の方持ち

十八代目中村勘三郎歌舞伎保存会

公演前から、明治座の掃除やら、かしもの舞台装置を全部下部神社まで運んだり、機(のぼり)を運送いまでずーっと立てたり、歌舞伎保存会や建築組合の志業は大道具をトラックから積み降ろすところからお手伝い。トラックの中には、実は大中小と舞台の大きさに合わせたセットが各種も入っていて、それをテキパキ組み立てて、ぱっちり明治座のサイズに合わせるあたりが、さすがプロの仕事!と感心していました。

当日は駐車場も明治座前だけじゃ足りないで、福崎公園や牧場など、いろんな所からシャトルバスを出しました。駐車場係りも大変でした。会場案内係の明治座活用委員会の一員は「人出不足でえらかった。」と苦いつつも、裏で役者さんとおしゃべり写真撮ったりと大満足の様子。みんなウキウキしていました。そして、舞台のみそ汁炊き出しには、加子母小六年の伊藤梨歩ちゃんや古田あやちゃんも。『舞台は花道の裏からうらっと見ただけけど、役者さんが通るのをたくさん見た。すごかった!』化粧室の部分が現れて、貴重な体験を満喫していました。

かしもの音楽も仕事ぶりを認められたのか、小道具のお手伝いまですること。舞台転換の折に、木の葉を拾ったり、茶道具を片付けたり、大忙しでした。公演終了後、トラックに積み込むのも、順番が決まっています。びったり入れるそうです。

トラックを見送り、ふと見ると忘れ物!車でサークルKあたりまでトラックを追っかける一幕も。興行台だけでなく、いろんなところで、あたたかい交流があったみたい。

(かしも通信2006年9月号より抜粋)

2006 かしも通信の奮闘記

勘三郎アタックプロジェクト

平成18年7月21日(金)

いろんな方に勘三郎さんに取材できるようにお願いしてきました。でも、さすがに勘三郎さんまでは遠い。周りの人の援けがらいます。ピックアップをお願いします。かしも通信では(別冊)KABUKI PRESSなるものを勘三郎さんのために制作しました。本人に読んでもらえるかな。いよいよ、ここから大変です。さあ、どうすればー

22日(土) 公演前日

今日になって松竹から取材はふりとの報告がきました。最終です。何ヶ月も前から考えてきたのに、なんとここで、絶望的になったときに、1人の救世主が見えました。ジャーナリストの小田幸治さんとの出会いでした。小田さんは歌舞伎界には非常に精通されていて、勘三郎さん本人とも気の知れた間柄ということでした。私達はこの方へ、お昼に会って思いを伝えたところ、とっても好都合。取材に協力していただきそうです。もう気分は、いっさいにヒートアップ!

東座に勘三郎さんが登場しているところ、こゝ明治座では明日の準備に大勢の人が急ピッチで作業しています。すでに明治座の脇にクレーラが設置された大きなダクトが勢本明治座に突き刺さっています。しかし明治座にクレーラが付いたのはその長い歴史の中でも今回が初めてでしょう。そうこうするうちに明治座に大きな緑色の車体で十八代目中村勘三郎歌舞伎保存会とされたトラックが明治座に横付けされました。トラックにはニューヨークをバックにした歌舞伎姿の勘三郎さんが



2006 十八代目中村勘三郎

中村勘三郎スペシャルインタビュー

勘三郎さんは、普段も江戸弁で軽快な語り口。しっかり目を見てお話しされます。今夜の部でやった『義経千本桜 鶴屋の巻』を、9月に加子母歌舞伎でも公演すると言うと、加子母歌舞伎の和田富郎さんと織野廣志さんを支え、超マニアックな鶴屋談話が展開。プロ、アマ、関係なく、歌舞伎をやっている者同士の意見交換が盛り上げられました。口上の様子と合わせてご紹介します。

「なかむらや!」「十八代目!」掛け声飛ぶ

(勘三郎 口上)

今日は、皆様方の御機嫌悪い御機嫌を押し取り、恐惶至極に存じ上げ奉ります。(中略) いずれも様方、御晶置様方のお引き立てに専りまして、ここに、江戸猿伎、中村勘三郎の名跡を十八代目として襲名させていただきますと相成りましてござります。

(中略)

わたしは、御当地明治座は初お目見えでございます。こうした貴なごらの小屋をまわりたいというわたくしの希望をお聞き入れていただきまし

て、まわらせていただいております。(中略) この劇場はまた、僕がたんばでございます(笑) 観ておりましたが、芝居というのは「芝」に「廣る」と書きまして、ほんとに「芝居」だなと思ひまして(笑) 地元の方がずっと大切に維持なさって、しかも、こういう素晴らしい空間の中で、今でも芝居をやり続けていらっしゃることは本当に嬉しいことでありますし、有り難いことだと思っております。

わたくし、昨日下午温泉の方に泊まらせていただき、(今朝) 出勤があまりとれないので、取すかしい。(爆笑) そうやって地元の方とふれあうことほど大切だと思ひます。また、ここでしかできないような、ここが一番合うような芝居の狂言立てでもござります。(中略) これからご覧に入れます義経千本桜、これは、ほんとうにびびりです。そしてびびりしたことがござります。この、地芝居の方々、先ほど裏座にみえんでござりますけれども、今年の秋でございますね、ここで鶴屋を出すのでござります。ライバルでございます(笑)。つたない芸ではあります。一生懸命務めます。

十八代目中村勘三郎、行く末永くお見捨てなく、御晶置お引き立てのほど、お願い申し上げます。

このあと、片岡市蔵、片岡龜藏、中村扇雀、坂東弥十郎、坂東新八、中村七之助と、口上は続きました。(おしも直喜2006年9月号より抜粋)



2006 二人の引退ちょっと待った、やめないでくださいよ

勘三郎さんと歌舞伎井戸端会議

勘三郎さん

小: 小田孝治さん(ジャーナリスト)
富: 和田富郎さん(加子母歌舞伎保存会)
廣: 織野廣志さん(加子母歌舞伎保存会)
本: 本間各代子さん(かしも通信)

勘 (富郎さん広志さんに) もう、やめないで下さいよ。まだ、

小 はらはらはら(みんなそうだと責める)

富 もう、80才

勘 80でしよ

富 80才と7ヵ月

勘 だって、うちのコサンザ 85ですよ。

それから、ジャクエモンさん 85ですよ。

小 みんな80代半ばで現役でやりますから。

富 いやあ、もう、年の方がね

勘 いえいえいえ

小 (富郎さんを見て) はら、女形ひとすじってのがわかりますね。

勘 ああ

小 (廣志さんを見て) こちら、79才。

はあ〜へえ〜強左衛門、とっつあん。

廣 へへ。ここが(膝) 痛くなって

勘 ああ、そりや、しょうがないや。そりやあね。

勘 権太やってくる人はいないの?

本 ああ、権太は...そのへんにいるんですけど...

勘 ああ、そうなんだ。

勘 こちのやるやつはさ、どう? 笛は自分で吹く?

本 あ、おもしろですか?

勘 ちゃうちやうちやうちやう。権太の笛。

おっかさんに、はら、タバコ入れから。

富 権太の笛はお里が吹きます。

本 わたしがもって吹きます。

勘 あなたが(本間見て)吹くの? はあ〜、へえ〜。

いんを髪があんだね。

あ、おっかさんが、だいたいカブキは吹いてるんですよ。

おれは自分で吹くの。文楽がそうなんです。

だってあれ、子どもが吹いてる笛ですよ。

だから、やっぱりおやじが吹こうって。やっば、それ、違うんだね。

おもしろいね。お里が吹くの。へえ〜、へえ〜。

小 お見せたいよね。

勘 見たい、見たいですよ。

あと、どんなところが違うんだろ、どうぞ、足高から正座しないで。

おえ、芝居の上だけに、どういふところが違います?

本 言っているのは、岡女先生という方なんですけど。

勘 ぶさき、お会いした

プログラム、関係なく、歌舞伎談義が熱い。歌者同士の



本 ここは、地芝居にしかないアフリで、ね(廣志さんに)羽織をうんうん。あの、首を包んで、ほで、お里と、ほで、強左衛門と、上村村へ行くと書いて、ほで、あの、[今宵が花のかがのうで〜] 行って行きよって、

包んできた羽織を忘れてもんで、そいつを持ち行って、

2人に肩とれて、あがりとをコッて、こう、上はずれて、

そのときに羽織りに血がついとるのに気づいてゴッてかいて、

そいで入ると。

勘 なるほど〜、わあ〜。

富 ああ〜、権太と権太の扇が台詞のやりとりも、ここが違うと、

お金を、三頁目をやっ、鶴橋に臨す

「おっかあ、おめえ、誰かいて〜」

「そりやあ、おまえを産んだ母じゃもの」

ああ〜、言うんだ〜。あ、おっかさんが教えてくれるんだ。

なるほどなるほどね。

小 いやあ、よろこんでござります

勘 いやいや、また、偶然にな〜鶴屋だもんね〜。

富 ありがとうございます。

勘 いつまでも大事に、これやってよ。ほんとに、やり続けてよ。

死ぬまでやって下さい。後者に定年はありません。

(おしも直喜2006年9月号より抜粋)



幕が降り、興行のカーンコールで勘三郎さんはじいちゃん二人を舞台上に呼ぶと言った。出陣もありません。





「まだストーリーが
わからぬから、それ
がわかってくると台詞が
覚えやすくなるような
別がある。」

「まことにたいへんをもち
は思つてもありません。演劇的
なものは初めてなんです。おもしろ
いから、ただ、まだ別がありませ
ん。台詞も大変なんです。まだこれか
ら立ち回りがあるというところの
あんまりです。」

「……」

「……」

「……」

おまわりさんが大団長の役

白浪五人男 P.T.A. 長
桂川洋楽 P.T.A. 長
伊藤秀雄 加子母小学校長
加藤初平 加子母小学校長
加藤初平 加子母小学校長
加藤初平 加子母小学校長
加藤初平 加子母小学校長



2012 五人の精鋭が加子母歌舞伎に登場

加子母歌舞伎 40周年記念 白浪五人男 (しらなみこにおとこ) 精瀬川勢揃いの場

今回の加子母歌舞伎四十周年記念公演には、特別出演の五名が「白浪五人男」に初挑戦します。五人男を演じるのは、原嘉幸さん(加子母中学校長)、伊藤秀雄さん(加子母小学校長)、桂川洋楽さん(P.T.A.会長)、菊川幸英さん(民生児童委員)、加藤さん(加子母警察官駐在所)の5名で7月に入ってから稽古が始まっています。子供たちに負けられないと張り切って稽古している明治座でお話を伺いました。

歌舞伎初挑戦どうですか。
中学校長: 初めてなので新鮮です。歌舞伎はテレビとかで見ただけのイメージなんですけど、見るのとやるのでは違いますね。舞台上立つとすべてが異なっています。小学校長: 子供たちと一緒にやることってないですかね。まじめにやらなかって思っていますね。もともと歌舞伎や狂言には興味はありましたけど言葉がわからなかった。ストーリーはわかっていても何を言ってるのかわからなかった。

でも自分で台詞を覚えるようになって、すごく文学的やなあと思いました。これを作った人はどんな顔をしてたんだろうと思いますね。

人前に立つのは慣れている
中学校長: 大勢の前というはある程度慣れています。ただそれはしゃべったりするだけなので、動きがあるとまた別です。
小学校長: こんな経験は高校の文化祭以来です。かれこれ30数年ぶりです。

歌舞伎の台詞は難しいですか
中学校長: 台詞は空で覚えることはできたんですけど、それを動きに合わせてるのが難しい。しかもこの後まだ三味線にも合わせなくては行けないと思うとすごい難しいことと思えます。しっかり稽古しなければいけないと、家でも日傘を片手に練習をしたりしてんですけど、やっぱり舞台上立つと雰囲気があります。いつも本番のつもりでやっているとどうして何かを忘れちゃうんですかね。

行き帰りの車の中で30分時間があるので車のカセットで練習のテープを聞いているんですが、言い直しができるんですけど、小学校長: 振りか舞い。台詞は自分で覚えられるけれども、振りか舞いしか覚えられないので、難しい。家に帰ると忘れちゃうんです。台詞も自分では覚えるようになってるんですけど。

ここへ来ると忘れちゃう。
これからまだ9月まで稽古が続きますね
中学校長: まだ夏休みに学校の行事でどうしても稽古に来れない日が出てくるかもしれないのですが、遅れをとりないうようにしたいです。まあ、失敗しながらやるのも大人歌舞伎のいいところかなとも思うのですが、とにかく頑張ります。

顔を塗って着物を着るのが楽しみ
中学校長: 私たちがやっていると、やってみてみたいと思う子が出て来たらしいんですよ。とにかく頑張ります。
(しらなみ通達2012年8月より抜粋)

KASHIMO KABUKI

小学生も中学生も先生も
みんな一緒に汗をながして稽古



間藤伊 (小2)

田中知雄 (小2)

豊ルカ (小3)

内木ひなた (小2)



2013 今年が一番手は私たちが踊っちゃうんだから

元禄花見踊り (げんろくはなみおどり) 加子母歌舞伎公演前日リポート

今年がかわいい踊りからスタートするのよ

今年、小学校2・3年生四名による、「元禄花見踊り (げんろくはなみおどり)」という歌舞伎踊りからスタート! 今年初めて歌舞伎に参加する、内木ひなたさん (下区・小2)、豊ルカさん (上区・小3)、田中知雄さん (中区・小2)、間藤伊さん (上区・小2) の4名が、それは可愛い可愛い踊りを披露します!

稽古では、小さな四人が松本団女先生の指導に一生懸命に耳を傾け、難しい振付をひとつひとつ覚えていきます。「右足で止まって左手はこっちよ〜」なんて言われると、「あれ?? どっちがどっかわからなくなっちゃった〜」なんて事も、でも、稽古を繰り返すうちに振りをすつかり覚えて、上手に出来るとお互いに笑顔で顔を見合わせます。

4人とも「別に自分からやりたいって言ったんじゃないよ」と話してくれましたが、「でも、先生はとっても優しいし、そんなに厳しくないよ!」と笑顔いっぱい教えてくれました。小さな体で一生懸命踊る可愛い四人。登場とともに、会場の皆さんを笑顔いっぱいにする事間違いないし! 初めてで緊張しますが、みなさんの応援を力に変えて精一杯頑張ります。応援よろしくお願いします! (かしも通信2013年9月号より抜粋)



2012 出番まつ花道のさき、夏の果て

五人男のお礼に代えて 加子母小学校長 伊藤 秀雄

夏

が終わった。平成24年9月2日加子母歌舞伎40周年記念公演。当日、夕刻に始まった「いたじまばらい」のほろ酔いの中で、私たちの夏をかみしめていた。

7月1日練習初日。子どもたちもはりきってやってきました。5人の塗籠と5人の捕手が正座し有筋を伸ばし、舞台上で松本団女師匠に挨拶をする。舞臺、練習の初めと終わりのきちんとした挨拶。ものごとの基本がここにある。

早速、舞台での練習。が、原校長先生と加藤駐在さん以外はセリフを覚えていなかった。事前にいたっていた台本とセリフの入ったテープは、机の上に置いたままであった。師匠に「この次までにセリフを覚えて来なさい!」と言われて目が覚めた。必死のセリフ練習が始まった。だいたい覚えられても、発音の言い回しは怪しい。舞台上立ち、いざ言おうとすると「あれ、あれれれ…なんだっけ!」

「セリフはまあまあ覚えた」と思い意気揚々と練習に行ったところが、次なる練習が待ち受けていた。「首、首、くび!」「手をのばして…!」「右足から、右足!それは左足!」…振付が覚えられない…。

8月の練習は、それぞれの回で、新しい振付が加わってくる。特に、捕手との掛け合は、それぞれのペアで振付が違ってくる。舞台上の袖で2人ペアで練習する姿が見られた。時には捕手の子どもに五人男の方が「どういうふうやった」と聞いているユーモラスな場面もあった。

5人の塗籠が長いせりふを言う間、捕り手の子どもたちは、後ろで待っている。「動かないのよ」と師匠に何度も注意される子どもも。40年余り明治座に携わっている安江利剛さん曰く「子どもは練習中横の子をついたり、ふらふらしたりしているが、本番の時はいっしょにやる。大人はその逆で、

本番に強い! 終わってみれば全くその通り。

伊藤秀子さんは、今回私たちが最もお世話になった人だ。いつも座って私たちの練習を見ていらした。彼女が覗いているのを見ると安心した。

五人男は花道から1人ずつ出ていく。そのたびに黒子の学生がのれんの幕をきって開けたり閉めたりする。公演前日、タイミングが合わずに師匠から「あけて!」と声がかんだ。当日、「タイミングが合ったか」と確かめたら「だいじょうぶです!」答えた。しかし、終演後、「どうだった」と聞いたら「胸がばくばくで、5人全員花道に出た瞬間、安堵して膝から崩れ落ちそうになった」と打ち明けた。全ての人が本番の緊張の中にいたのだ。

とうとう当日が来た。楽屋での準備も、大道具準備も、そして演目も時間で進んでいく。化粧は2段階に分かれている。1段目は地塗り。弁天小僧と赤星。そして日本駄右衛門は白を基調に塗る。あとの2人恋信と力丸は薄い茶色だ。宇野良く首から顔の隅々まで塗られていく。弁天、赤星、日本の3人は後で足も白く塗られる。2段階目は顔塗りである。弁天は目のあたりが薄紅色で顔に三日月型の切り傷が描かれる。鏡で顔を見る。「ちょっといいかも…?」妙な気分である。楽屋の裏玄関で涼んでいると、加子母小の職員が楽屋訪問にくる。緊張で、冗談も言えなく「ありがと!」というだけ。

衣装は華やかだ。袂裏に身を包んでいくことで、心も仕上がっていく。次にかつら。私の頭は普通よりちょっと大きい。心配していたことが起きた。かつらが入らない! 担当の女性が飛び上がって上から押さえてくようやく入った。

化粧、衣装、かつら。1つ1つが自分をその役柄にしている。準備完了して5人が廊下に並んだら、たくさんのカメラに囲まれた。「え、これってスター気分?」嬉しくも恥かしくもあり。化粧が楽屋を隠してくれた。さあ、出番。会場は観客満員。



「迷子の迷子の三太郎やーい」子ども達の第一声。いいぞ、いい声だ。三味が鳴る。シャカッ!とのれんが聞き、私の出番、「おー」という歌声が聞こえる。だれがのれんが見えないが、熱気が伝わってくる。「すごいところに出てしまった」

忠信利平中学校長「『ちゅうがっこう!』『こうちゅう!』『せつこうちゅう!』の声で会場がどっと沸く。日本駐右衛門PTA会長は、幼馴染みの掛け声でもう少しで振付を間違えそうになった。

振り手がでてくる。「とったあ!」のかわいい声に会場が再び沸く。孫の顔を見に来たおじいちゃん、おばあちゃんがおひねりを授ける。五人男の長せりふがまった。

ゆっくり、そして速く。強く、そして弱く。五七調のリズム、そして気持ちを乗せて…赤星の民生委員は、いつものいい声で朗々と…

力丸の駐在さん「…白刃でどど人殺しー!」どどと会場が沸く。(お通りさんが人殺しー!だもん)

子ども達のかわいらしい演技に助けられ、会場から歓声や笑いが起こる。

暑い昼食のカレーは格別だった。

翌日、登校してきた子ども達はみな生き生きといた。担任に「昨日は見に来てくれてありがとうございます。どうでしたか?」と言えたと

いう。学校では味わえないひと夏の体験と当日の達成感が彼らを奮え、育てていた。教頭先生は、写真を撮影したリーフレットを作って子どもたちに配ってくれた。リーフレットをもらう子ども達の横顔に美しい笑顔があった。そして、自然に「ありがとうございます」という感謝の言葉が出ていた。

中島敏明歌舞伎保存会に声をかけていただいたことで始まった今回の歌舞伎公演。こういう機会を与えていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

今回学んだことは語りつくせない。教育を司る者が、教えられる立場で勉強することはたくさんあった。特に田代師匠には、練習を通して教育の真諦をあらためて教えていただいたと思っている。それは、「心」である。何ごとにもそれにかかる「真心」がなければひとつのことが為し得ないということである。

最後の舞台あきつて私たち「白浪五人」が、大賞ご心配をかけていたことが分かりました。そんな素晴らしい機会も見せず、あっさりご指導いただいたことに頭が下がります。ほんとうにありがとうございます。

歌舞伎保存会の皆様をはじめとして、お世話になった全ての方に感謝とお礼を申し上げます。

(※しも通信2012年10月号より抜粋)



2014

勤九郎さんも読む

中村勤九郎さんのドキュメンタリー映画が明治座で上映されました。岐阜県を皮切りに全国の芝居小屋をまわって上映されるもので東宝での上映についで明治座でも映画「中村勤九郎」が上映されました。上映に先立ち中村勤九郎さんによる舞台挨拶とトークショーが行われました。かしも通信では7年前、勤九郎さんにインタビューした時に「勤三郎特別号」を作ったのと同じ様に、今回は勤九郎の匿名記事をもとめた「勤九郎特別号」を勤九郎さんに渡しました。

7年前、かしも通信の記事を勤九郎さんが熱心に読んでくれたのと同じ様に勤九郎さんも熱心に読んでくださいました。

(※しも通信2014年1月号より抜粋)

2013 夏の風 娘引幕誘われて

「豊原伝授手習巻 車引」加子母中学校校長 原 嘉孝

校長先生、今年も出てみませんか

6月の初め、丹羽貞康さんから突然電話があった。「ついにきたか!」。昨年の明治座歌舞伎公演で伊藤小学校校長さん・桂川PTA会長さん・加藤社在さん・瀬川主任児童委員さんと5人で「白浪五人男」を演じさせて頂いた。実は、逃げていた。「すいません。少し考えさせてください」と電話を切った。桂川PTA会長さん・加藤社在さんは、今年も出るように。

そうだ明治座にいてみよう。

学校帰りに明治座に行った。舞台には、娘引幕がひかれてあった。「どうしようかな?」そう思いながら、堂に座り、その優雅な姿を見ていると突然、娘引幕が夏の風を吹かすように揺らめいた。まるで「舞台に立ちまわりたい」と誘うように。「娘引幕を誘ってくださる。よし、今年も頑張ってみよう!」そう決めた。すぐに貞康さんに「今年もお願ひします」と電話した。やると決まれば勇気百倍、やる気満々になった。そして、長い稽古の日々が始まった。

小・中学生と一緒に出てもらいます。

7月6日の練習初日、合本を手渡されそう言われた。役は、藤原時平公。悪役だ。昨年も友人の忠告利平だったから2年続けて悪役だな。そんなふうによく考えていた。しかし、この時平公、ただの悪人ではなかった。それは、稽古を覚悟することになる。さて、一緒に演じる中学生は、ベテラン中学2年生4人組、乃由子さん、なつみさん、美月さん、花さんだ。そして小学生の1人組、真央さん、龍歌さん、樹君だ。他の演目と、同じくベテラン3年生の成美さん、2年生の若菜さん、真南さんも頑張っている。松本園女師匠に「今年も頑張ってくださいね」と声をかけられ勇気百倍、やる気満々になった。そして、長い稽古の日々が始まった。

15日の稽古だが、

毎日台詞や振り付けを覚える稽古を家で、通勤の車で行くわけであるから、毎日が稽古となる。舞台稽古の初日までに台詞は、なんと覚えた。去年の忠信利平の口調をよやあ。牛ぶち焼らう宵焼めらら。初めの台詞を言うときに田代師匠に止められた。「うーん。もっと悪人になって、憎らしいわんこっや」その後、師匠に続いて台詞を覚えてみるがなかなかうまくいかない。その後の稽古でも「もっと悪く憎らしく」が繰り返した。いったい時平公とは、何者か?インターネットで調べるとなるほど!すごい悪人顔。この顔に似合う台詞が必要なのだ!と思った。

ベテランの中学生諸君は、さすがだ。

台詞も完璧に覚えてきている。そして、師匠の要求を次々にこなしていく。そんな彼らの稽古が始まるまでの待ち時間や稽古後の姿をみると、色々気づいたことがある。稽古前、7月の初めの頃は、舞台下で「あゆみ」と呼ばれる塗り板の上にマンガ読んで時間をつぶしているのだが、夏休みが終わりに近づいてくると、みんな書類を持ってき

て見えたりしてやっている。さすが中学生。そして、稽古が終わると互いにアドバイスしながら合本に今日の稽古で師匠から言われたこと、振り付けの線を書き込んだりしている。私より遙かに多い台詞と振り付けをみごとにやってくるのは、こういう地道な努力があってこそだと思った。

さて、いよいよ公演前日。

前日は三味あわせがあり、午前中から明治座に行かなければならないのだが、その日は、加子母中学校の体育大会。7名の中学生は、全力で取り組んだ。閉会式が終わってすぐに明治座に向かった。疲れているのに大丈夫かと心配していたが、稽古では、疲れも見せず役になりきって演じている。さすが「若さだな!ベテランだな!」と感心した。

公演当日は、7時半に明治座集合。

まずは、顔飾りによる化粧。初めは、白色の地塗り。手塚よく顔の隅々、そして顔へと塗られていく。次にいよいよ顔書きである。顔書きなのでどうなっているかわからない。去年より念入りにたくさん塗られていく気がした。できあがって後者は振り向くと、「こわいー!」の声、別々の部屋で鏡を見てびっくり。「こわいー!」まさに歌舞伎の化粧のすごさを感じた。何も表情を刷っていないのに、迫力あるにらみ。顔飾りさんは、顔をキャンバスにした、まさに芸術家、アーティストだ。次に衣装。何枚もの華やかな着物を重ねていく。そのたびにひもで締めいく。結構つらい。しかし、できあがるとはつれ時平公になっていく。かつらをかぶれば、心も仕上がって時平公になっていた。廊下を歩くと大道具さん達がカメラを構える。スターになった気分。

さあ、いよいよ本番。

小中学生が頑張っている。私は、舞台の真ん中にある牛車の中に入って出番を待っている。しかし、外の舞台のようが全く見えない。おまけに車は、壊れるようになっており、下手に触ると倒れてしまう。顔には大きな冠。動かすのが大変。夫夫さんの「現れ出る時平のおんど」で車が壊れ、いよいよ登場。見せ場は、みえを切った後に赤く塗った舌をベネーと出して、演者を威嚇する場面。「こうちゅう!」かけ声と拍手。いよいよクライマックス。全演者がそろってみえを切る。拍手とかけ声、飛び交うおひねりの中、幕がしまっていく。

やり終えた小中学生と笑顔を交わす。

といても私の笑顔は、怖い化粧だから伝わらなかつたかも。今年もやってよかった。そんな思いで一瞬になった。歌舞伎は、多くの人に支えられてできあがっている。特に大道具の武蔵野美術大学の学生さんとOBのみなさんの活躍は、すばらかった。裏に出る人と裏で支える人が必ずいる。今回、自分は裏に出させて頂けたが、どれだけ多くの人に支えられてきたことか。そのお返しを思い、感謝して演じることができた。お世話になった皆様に深く感謝しお礼申し上げます。

(※しも通信2013年10月号より抜粋)



真景にて



SATOYAMA STYLE



「里山」という言葉は
自然保護や林業関係の人々の間で広まり、
現在は大都市近くにある生活に結びついた山を指す言葉となりました。
ところが、加子母など奥水郡では「里山」という言葉を
少なくとも江戸時代に使っていたという記録があるのです。
加子母は時代をリードしていたのかもしれません。



かしも通信とは

山に囲まれた人口約3,000人の中津川市加子母地区に『加子母の情報を気楽に楽しもう』をテーマに『かしも通信』は生まれました。2005年4月創刊以来、ピアニスト、アーティスト、陶芸家、地歌舞伎役者、農家、森林インストラクター、主婦、とメンバーは多岐。運営はすべてボランティアで行われていて、そのボランティアグループの総称を『かしも通信社』と呼びます。かしも通信は現在、加子母中学校、加子母小学校、加子母保育園、加子母総合事務所、かしも明治館などと連携を密にし、加子母地区全戸に毎月1回の無料配布を続けています。

SATOYAMA STYLE MAGAZINE Vol.02 かしも通信 特別編集 里山の地誌 2015年10月4日発行 発行：加子母むらづくり協議会 編集：栗俣文 企画：かしも通信社

Publisher HARA Youmi Editor in Chief HATA Masafumi Deputy Editor HONMA Kiyoko Editors TANAKA Hiroko・SATO Yoko・TAGUCHI Sachiko・SANO Tomoya Illustrator HONMA Kiyoko

かしも通信

明治館